

## 教育委員会定例会審議結果

1	担当部署名	守谷市教育委員会 学校教育課
2	件名	令和6年9月教育委員会定例会
3	概要	<p><b>1 開催日時</b> 令和6年9月25日（水曜日）午後1時30分～午後2時50分</p> <p><b>2 開催場所</b> 守谷市役所 全員協議会室</p> <p><b>3 教育長及び各委員の出欠状況</b> 3名出席（河原健教育長職務代理者、椎名和良委員、寺田委員、萩谷委員）</p> <p><b>4 説明のための職員出席者等（職員数7名）</b>          教育部長 小林 伸稔          教育部参事 古橋 雅文          教育部次長兼生涯学習課長 福島 晶子          学校教育課長 前川 優子          教育指導課長 村松 静          給食センター長 鈴木 林          中央図書館長 平塚 恭子          事務局員（学校教育課） 1名</p> <p><b>5 傍聴人</b> なし</p> <p><b>6 議題</b>  <b>【議決事項】</b>          （議決）          （1）議案第35号 教育委員会の点検・評価結果報告書の提出について          （2）議案第36号 守谷市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルについて</p> <p><b>【協議事項】</b> なし</p> <p><b>【報告事項】</b>          （報告）          （1）報告第11号 損害賠償の決定及び和解について          （2）報告第12号 学校給食センター運営委員会答申について          （3）報告第13号 令和6年度守谷市議会9月定例会月議会について（教育委員会所管分）</p>
4	今後の状況	次回は、令和6年10月25日（金曜日）午後1時30分から開催予定

# 令和6年9月教育委員会定例会

## 会議資料

日 時 令和6年9月25日（水）

午後1時30分から

場 所 守谷市役所 全員協議会室

# 令和6年9月教育委員会定例会 会 議 次 第

日 時 令和6年9月25日（水）

午後1時30分から

場 所 守谷市役所 全員協議会室

## 1 開 会

## 2 会議録署名人指名

## 3 議決事項

議案第 35 号 教育委員会の点検・評価結果報告書の提出について

議案第 36 号 守谷市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルの改訂について

## 4 協議事項

なし

## 5 報告事項

報告第 11 号 損害額の決定及び和解について

報告第 12 号 学校給食センター運営委員会答申について

報告第 13 号 令和6年度守谷市議会9月定例会月議会について（教育委員会所管分）

## 6 その他

議案第35号

教育委員会の点検・評価結果報告書の提出について

令和6年度（令和5年度対象）教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を別冊のとおり作成したので、議会に提出するとともに公表することについて、承認を求める。

令和6年9月25日 提出  
守谷市教育委員会  
教育長 町田 香  
令和6年9月 日 原案 認

提案理由

本案は、令和6年3月定例会において可決された守谷市教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針に基づき、令和6年度（令和5年度対象）教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので、議会に提出及び市民に公表するものです。

議案	頁数
35号	1

令和6年度  
(令和5年度対象)  
教育委員会の点検・評価結果報告書



令和6年9月  
守谷市教育委員会

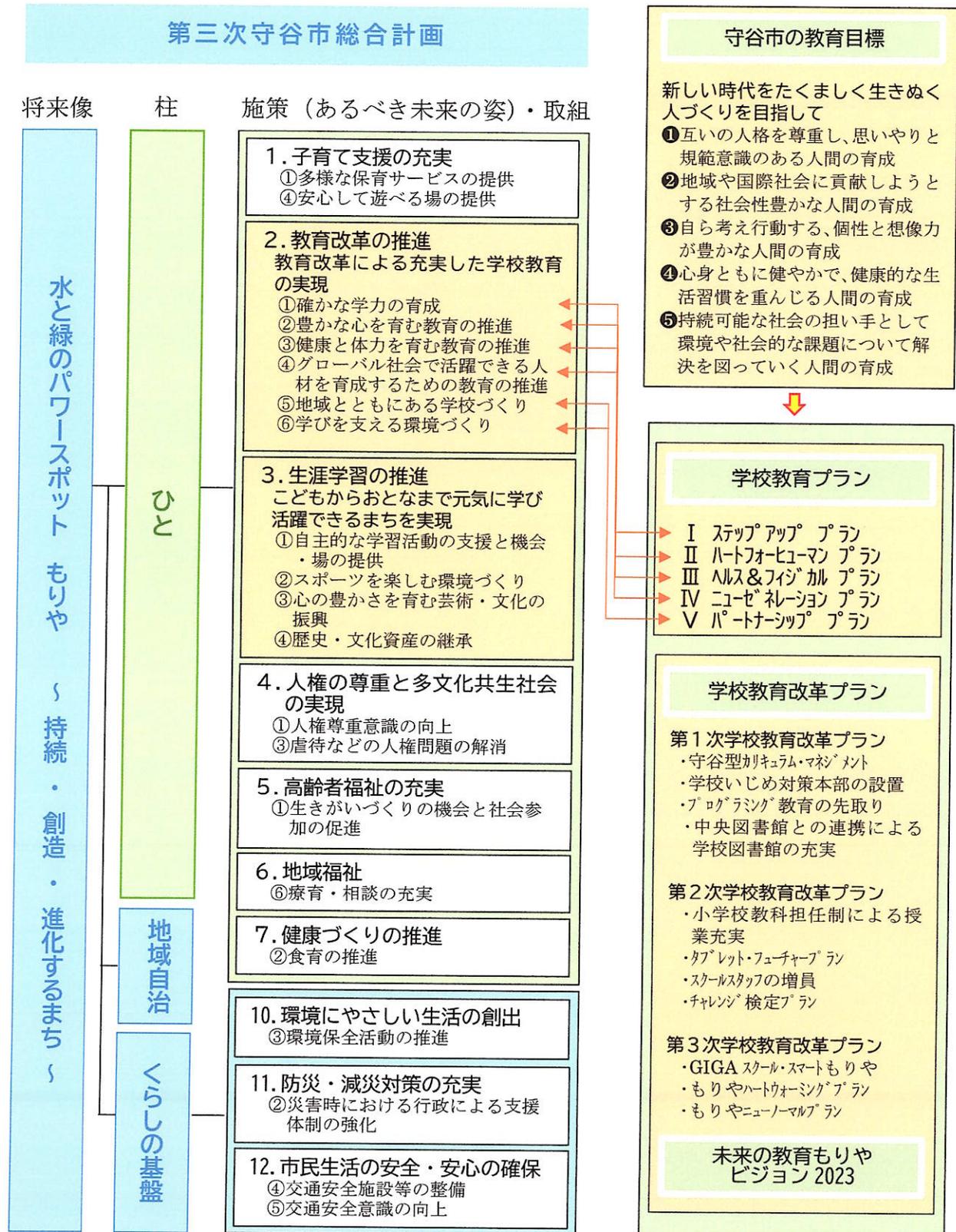
# 目 次

守谷市の教育体系	.....	P 2
施策(あるべき未来の姿)を実現するための主な取組一覧	.....	P 3
1 守谷市教育委員会の点検・評価について	.....	P 4
2 教育委員会の活動状況	.....	P 6
3 守谷市教育大綱に定めた施策体系別事業		
I 令和5年度重点事業一覧		
1 教育改革の推進	.....	P 13
2 生涯学習の推進	.....	P 19
II 施策実現のための主な取組		
1 教育改革の推進		
(1) 確かな学力の育成	.....	P 21
(2) 豊かな心を育む教育の推進	.....	P 23
(3) 健康と体力を育む教育の推進	.....	P 25
(4) グローバル社会で活躍できる人材を育成するための教育の推進	.....	P 26
(5) 地域とともにある学校づくり	.....	P 28
(6) 学びを支える環境づくり	.....	P 29
2 生涯学習の推進		
(1) 自主的な学習活動の支援と機会・場の提供	.....	P 35
(2) スポーツを楽しむ環境づくり	.....	P 39
(3) 心の豊かさを育む芸術・文化の振興	.....	P 42
(4) 歴史・文化資産の継承	.....	P 43
4 感染症対策実施状況		
I 学校教育における感染症対策	.....	P 46
II 社会教育活動における感染症対策	.....	P 46
5 点検評価委員会委員 総括意見	.....	P 47

議案	頁数
35号	3

# 守谷市の教育体系

守谷市の教育行政は、第三次守谷市総合計画で定めた守谷市が目指す将来像の実現のため、教育改革による充実した学校教育の実現に向け、教育改革の推進に取り組みます。



議案	頁数
35号	4

## 施策（あるべき未来の姿）を実現するための主な取組一覧

<b>施策1 教育改革の推進 ～教育改革による充実した学校教育の実現～</b>	
<b>取組1-1 確かな学力の育成</b>	
1-1-1	守谷型カリキュラム・マネジメントの継続
1-1-2	学習支援ティーチャ어의配置
1-1-3	市費負担教科担任の配置
1-1-4	学校図書館を活用した読書活動の推進
1-1-5	サタデー学習支援教室の実施
<b>取組1-2 豊かな心を育む教育の推進</b>	
1-2-1	特別支援教育の推進
1-2-2	いじめ防止対策の推進及び不登校対策の実施
1-2-3	情報モラル教育の推進
<b>取組1-3 健康と体力を育む教育の推進</b>	
1-3-1	ゆう遊タイムの活用など子どもの体力向上の推進
1-3-2	正しい食生活の理解や望ましい習慣の食育の推進
<b>取組1-4 グローバル社会で活躍できる人材を育成するための教育の推進</b>	
1-4-1	ALT活用による外国語教育の推進
1-4-2	ICTを活用した教育の推進
1-4-3	キャリア教育の推進
<b>取組1-5 地域とともにある学校づくり</b>	
1-5-1	地域と連携した学校運営と教育活動の推進
1-5-2	教育活動における地域人材の有効活用
<b>取組1-6 学びを支える環境づくり</b>	
1-6-1	教職員のICT活用能力及び資質能力の向上
1-6-2	学校における働き方改革の推進
1-6-3	学校施設等の教育環境の整備
1-6-4	部活動指導員配置の推進
1-6-5	交通安全意識の向上及び交通安全施設等の整備
<b>施策2 生涯学習の推進 ～こどもからおとなまで元気に学び 活躍できるまちを実現～</b>	
<b>取組2-1 自主的な学習活動の支援と機会・場の提供</b>	
2-1-1	学習機会と交流の場の提供
2-1-2	学びと活動を支える人材の確保
2-1-3	図書館サービスの充実
2-1-4	子どもの読書活動の推進
2-1-5	計画的な生涯学習関連施設の整備
2-1-6	安心できる子どもの居場所提供
<b>取組2-2 スポーツを楽しむ環境づくり</b>	
2-2-1	スポーツを気軽に楽しめる機会の創出
2-2-2	子どものスポーツ活動の推進
2-2-3	スポーツにかかわる組織の育成と連携・協働の推進
2-2-4	スポーツを活用した地域活性化
<b>取組2-3 心の豊かさを育む芸術・文化の振興</b>	
2-3-1	芸術・文化に触れる機会の充実
2-3-2	芸術・文化活動の支援
<b>取組2-4 歴史・文化資産の継承</b>	
2-4-1	歴史・文化財を知る機会の提供
2-4-2	歴史的資源を活用したまちづくりの推進

# 1 守谷市教育委員会の点検・評価について

## I 趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され（平成 20 年 4 月施行）、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を報告書として議会に提出し、公表することとなりました。

守谷市教育委員会においても、今後の効果的な教育行政の推進及び市民への説明責任を果たすことを目的として、平成 21 年度から前年度の教育委員会の事務の点検及び評価を実施しています。

本報告書は、令和 5 年度に守谷市教育委員会が実施した主要事業の実績に対する点検・評価としてまとめたものです。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、守谷市教育大綱で定めた「施策（あるべき未来の姿）」を実現するための主な取組のほか、当該年度に重点的に実施した事業です。

なお、守谷市教育委員会の個別の事業については、守谷市が実施する「行政評価」の中で、事務事業評価として別途評価を行っています。

## III 点検・評価の方法

点検・評価対象事業について、「守谷市教育大綱」に定めた施策体系別に、当該年度の取組内容を明らかにし、成果実績から課題等を分析して今後の対応の方向性を示します（自己評価）。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関して学識経験を有する方に点検評価委員となっていただき、様々な御意見、御助言をいただきます。

### ■守谷市教育委員会点検評価委員

（50 音順・敬称略）

氏名	所属等	任期
くろは つとむ 黒羽 勉	元取手市立藤代南中学校 校長 取手市教育委員会スポーツ振興課 学校教育指導員	令和 5 年～6 年
すずき ふじお 鈴木 不二男	元守谷市立守谷小学校 校長 守谷市総合教育支援センター センター長	令和 4 年～6 年
はなかた 羽中田 みどり	元守谷市小中学校 P T A 連絡協議会 会長	令和 4 年～6 年

議案	頁数
35号	6

#### IV 点検・評価の流れ

##### 1 教育委員会による自己評価

「守谷市教育大綱」の施策体系別に、当該年度に教育委員会各課が実施した「重点事業」及び「施策実現のための主な取組」について、指標数値により具体的な進捗状況を示しつつ、以下の項目を明らかにしていきます。

	重点事業	主な取組	内容
項目	-	目的	事業を実施することで達成させたい目標を記載。
	取組・成果	事業内容	令和5年度に所管課が取り組んだ事業内容について、実績が分かるように記載。
	課題	課題	令和5年度の実績を分析し、目的達成における課題を記載。
	対応方向	今後の方向性	課題を克服し、実績向上を図るために取り組んでいく今後の方向性を記載。
	-	外部からの意見	保護者や児童生徒、各種委員会等の構成員等から寄せられた意見や指摘等を記載。
	-	成果指標	事業の目的達成度を測る成果指標について、教育大綱最終年度となる令和8年度の目標値を設定するとともに、令和5年度の実績値と令和6年度予測値を記載。令和5年度実績については目標値に対する達成状況を、AからDの4段階で評価。

※「重点事業」は、「主な取組」と重複するため、評価項目を省略しています。

##### 2 点検評価委員会による評価

点検評価委員会において、教育委員会の活動状況及び各事業の自己評価結果についての説明と、必要に応じて現地視察を行った後、十分な審議を経て、各事業について教育に関する知見に基づいた御意見をいただきます。

第1回点検評価委員会（令和6年6月12日） ○教育委員会点検・評価の趣旨、教育委員会自己評価結果概要の説明 ○意見交換
第2回点検評価委員会（令和6年7月17日） ○授業視察、工事状況視察 御所ヶ丘中学校、御所ヶ丘小学校、郷州公民館 ○意見交換

##### 3 点検・評価結果の公表

点検及び評価の結果については、守谷市教育委員会で議決し、事務局各課で共有して施策の見直しにつなげていくほか、守谷市議会に報告し、広く公表していきます。

議案	頁数
35号	7

## 2 教育委員会の活動状況

### I 教育委員会の予算・決算の状況

令和5年度の教育委員会所管の予算額及び決算額（歳出）は以下のとおりで、予算額が約45億7,846万円、一般会計総予算額に占める割合は10.7%、決算額は約41億7,708万円、一般会計総決算額に占める割合は11.3%となりました。

区分	令和5年度予算額	令和5年度決算額
3 民生費	350,953,000	323,200,183
2 児童福祉費	350,953,000	323,200,183
1 児童福祉総務費	350,953,000	323,200,183
10 教育費	4,227,503,000	3,853,883,357
1 教育総務費	1,405,650,000	1,326,361,780
1 教育委員会費	3,028,000	2,550,392
2 学校教育総務費	345,848,000	311,768,418
3 教育研究指導費	343,468,000	327,218,599
4 学校給食センター費	713,306,000	684,824,391
2 小学校費	1,030,662,000	963,915,453
1 学校管理費	410,379,000	365,007,805
2 教育振興費	182,143,000	161,220,027
3 学校建設費	438,140,000	437,687,621
3 中学校費	838,665,000	738,849,941
1 学校管理費	145,923,000	130,233,129
2 教育振興費	137,569,000	119,329,141
3 学校建設費	555,173,000	489,287,671
4 社会教育費	918,936,000	794,134,331
1 社会教育総務費	237,257,000	210,150,041
2 文化財保護費	8,340,000	7,158,740
3 集会所費	823,000	547,088
4 公民館費	391,429,000	304,317,178
5 図書館費	281,087,000	271,964,284
5 保健体育費	33,590,000	30,621,832
1 保健体育総務費	32,789,000	30,352,155
2 体育施設費	801,000	269,677
12 諸支出金	1,000	545
1 基金費	1,000	545
9 教育文化振興基金費	1,000	545
合計	4,578,457,000	4,177,084,085

※児童福祉総務費内容:児童クラブ運営事業

議案	頁数
35号	8

## II 教育委員会の会議の開催状況

### I 教育委員会の構成

職名	氏名	任期
教育長	まちだ かおる 町田 香	令和3年4月1日～令和6年3月31日 ※令和6年4月1日～令和9年3月31日
教育長職務代理者	かわら たけし 河原 健	令和4年11月25日～令和8年11月24日
委員	はぎや なおみ 萩谷 直美	令和3年10月18日～令和7年10月17日
委員	しいな かずよし 椎名 和良	令和2年4月1日～令和6年3月31日 ※令和6年4月1日～令和10年3月31日
委員	てらだ ひろむ 寺田 弘	令和2年10月1日～令和6年9月30日

※＝再任の任期

### 2 教育委員会会議の開催状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第16条に基づき、守谷市教育委員会会議規則を定め、毎月定例会を開催し、緊急を要するときには臨時会を開催し、事務局と連携しながら議論を重ね、施策を推進してきました。

会議	開催回数	審議内容等
定例会	12回	規則の制定・改廃、事務の管理・執行基本方針、市職員の人事、附属機関の委員の委嘱等
臨時会	1回	教職員及び事務局職員の人事異動

### 3 教育委員会会議での案件別審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第25条及び「守谷市教育委員会事務委任規則」第2条の規定に基づき、令和5年度は51件について審議しました。

審議案件	件数
教育委員会規則の制定及び改廃	22件
教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針	15件
職員の人事に関する事	5件
法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱	9件

※ 審議案件のほか、報告事項及び協議事項として11件を取り扱いました。また、定例会ごとに市内小中学校及び教育委員会事務局各課の状況報告を受けました。

### Ⅲ 教育委員会会議以外の活動状況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校訪問や各種行事等に参加し、意見交換や現場確認を行うなど、活発な活動を通じて教育行政の推進に努めました。

参加行事	活動内容
学校訪問	・教育委員会合同訪問（令和5年5月16、17、30、31日）
研修会	・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進研修会（令和6年3月1日）
各種行事・大会	・小中学校運動会・卒業式 ・プレゼンテーションフォーラム（令和5年7月14日） ・もりや型教育改革の提案発表会（令和5年8月30日） ・二十歳の記念式典（令和6年1月7日） ・守谷ライオンズクラブ杯イングリッシュフォーラム2023（令和6年1月27日）

### Ⅳ 令和5年度教育委員会審議案件等一覧

#### Ⅰ 審議案件

議案番号	議案名	開催
21	守谷市長と守谷市教育委員会との地方自治法第180条の3の規定に基づく協議について	4月定例
22	守谷市教育委員会点検評価委員の委嘱について	4月定例
23	守谷市学校産業医の選任について	4月定例
24	通学区域審議会委員の委嘱について	4月定例
25	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（守谷市特別職の職員の給与、報酬、議員報酬、旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例）	4月定例
26	守谷市学校看護師配置要綱について	4月定例
27	守谷市立学校における医療的ケア実施要綱について	4月定例
28	守谷市通学区域審議会に対する諮問について	5月定例
29	守谷市社会教育委員の委嘱について	5月定例
30	守谷市民設民営児童クラブ運営事業費補助金交付要綱の一部改正について	5月定例
31	守谷市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	5月定例
32	守谷市図書館協議会委員の委嘱について	5月定例
33	守谷市いじめ問題重大事態調査委員の委嘱について	5月定例
34	守谷市いじめ問題重大事態調査委員会への諮問について	5月定例
35	守谷市教育支援委員会委員の委嘱について	5月定例
36	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について （令和5年度守谷市一般会計補正予算（第3号）（教育委員会所管分）	5月定例

議案	頁数
35号	10

37	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（守谷市放課後児童健全育成事業の設置及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例）	6月定例
38	令和6年度使用小学校教科用図書の採択について	7月定例
39	令和6年度使用小学校特別支援学級（知的障害）教科用図書の採択について	7月定例
40	令和6年度使用中学校特別支援学級（知的障害）教科用図書の採択について	7月定例
41	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（令和5年度守谷市一般会計補正予算（第4号）（教育委員会所管分）	8月定例
42	守谷市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について	9月定例
43	守谷市立小中学校の就学指定校の変更に関する取扱要綱の一部を改正する要綱について	9月定例
44	教育委員会の点検・評価結果報告書の提出について	9月定例
45	学校給食センター運営委員会への諮問について	9月定例
46	守谷市長と守谷市教育委員会との地方自治法第180条の3の規定に基づく協議について	10月定例
47	守谷市語学指導支援事業実施要綱の制定について	11月定例
48	守谷市学校給食費取扱要綱の廃止について	11月定例
49	守谷市学校給食費に関する規則の制定について	11月定例
50	守谷市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルの改訂について	11月定例
51	守谷中央図書館大規模改修工事基本設計・実施設計業務プロポーザル審査委員会の設置及び運営に関する要綱の制定について	11月定例
52	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（守谷市特別職の職員の給与、報酬、議員報酬、旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	11月定例
53	守谷市学校運営協議会設置運営規則の制定について	11月定例
54	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（令和5年度守谷市一般会計補正予算（第5号）（教育委員会所管分）	11月定例
55	守谷市英語検定料補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	12月定例
56	守谷市いじめ問題重大事態調査委員会への諮問について	12月定例
57	守谷市いじめ問題重大事態調査委員会臨時委員の委嘱について	12月定例
1	守谷市教育委員会会議規則の一部を改正する規則について	1月定例
2	守谷市立中学校部活動等各種大会参加補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	1月定例
3	守谷市通学補助員要綱の一部を改正する要綱について	1月定例
4	守谷市放課後子ども教室運営規則の一部を改正する規則について	1月定例
5	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（守谷市立学校体育施設開放条例の一部を改正する条例について）	1月定例

6	事務局職員の人事に関し教育長に専決させる件について	2月定例
7	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について	2月定例
8	教職員の人事異動について	3月臨時
9	守谷市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について	3月臨時
10	守谷市立小中学校の就学指定校の変更に関する取扱い要綱の一部を改正する要綱について	3月臨時
11	守谷市立中学校部活動等各種大会参加補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	3月定例
12	守谷市立中学校部活動等各種大会参加補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	3月定例
13	守谷市立小中学校就学援助費交付要綱の一部を改正する要綱について	3月定例
14	守谷市通学区域審議会の委員の選任について	3月定例

※ 議案番号は、暦年切替えとなっています。

## 2 報告案件

報告 番号	報告 件 名	開 催
3	守谷市社会教育主事の任命について	4月定例
4	守谷市地域クラブ活動ガイドライン及び守谷市部活動地域移行進行プランの制定について	4月定例
5	令和5年度中学校修学旅行日程の変更について	4月定例
6	令和5年守谷市議会5月臨時議会について(教育委員会所管分)	5月定例
7	令和5年守谷市議会6月定例会月議会について(教育委員会所管分)	6月定例
8	令和5年度守谷市民設民営児童クラブ運営事業費補助金交付対象事業者選考委員会委員の委嘱(任命)について	7月定例
9	令和5年守谷市議会9月定例会月議会について(教育委員会所管分)	9月定例
10	守谷市通学区域審議会の報告について	9月定例
11	学校給食センター運営委員会答申について	11月定例
12	令和5年12月定例会月議会の報告について(教育委員会所管分)	12月定例
13	守谷中央図書館大規模改修工事基本計画・実施計画業務プロポーザル審査委員について	12月定例
1	守谷中央図書館大規模改修工事基本設計・実施設計業務委託事業者の選定結果について	2月定例
2	守谷市通学区域審議会の答申について	3月臨時
3	令和6年守谷市議会3月定例会月議会について(教育委員会所管分)	3月定例
4	守谷市いじめ重大事態調査委員会からの調査報告書について	3月定例

議案	頁数
35号	12

### 3 協議案件

協議 番号	協 議 件 名	開 催
1	守谷市社会教育関係団体補助金交付要綱の制定について	12月定例
2	守谷市スポーツ関係団体補助金交付要綱の制定について	12月定例
1	守谷市放課後子ども総合プラン運營業務委託事業者選考委員会設置要綱の制定について	1月定例
2	守谷市児童クラブの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	3月定例
3	守谷市スポーツ少年団選手大会派遣補助金交付要綱の制定について	3月定例

### 4 令和5年度教育委員会 請願・陳情件名 なし

## IV 総合教育会議の開催状況

教育委員会と地方公共団体の長との十分な意思疎通を通して、より民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的に、市長主宰による総合教育会議を開催しています。令和5年度も以下内容について協議し、施策の執行に生かしていけるよう、教育に関する政策の方向性を共有しました。

	開催期日	内 容
1	令和5年11月6日	報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校部活動の地域移行について</li> <li>・医療的ケア児支援事業の実施状況について</li> <li>・アレルギー対応食実施状況について</li> <li>・給食費公会計化の進捗状況について</li> <li>・中央図書館大規模改修工事設計業務の見直しについて</li> </ul> 協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・守谷市立中学校における平和教育について</li> <li>・守谷市立小中学校の水泳授業について</li> <li>・不登校、いじめ防止対策の推進強化について</li> </ul>

議案	頁数
35号	13

◇教育委員会の活動状況に対する点検評価委員の意見

- ・教育予算を十分に掛け、児童生徒のための計画が図られている。また、決算額が予算額を下回っており、予算が無駄なく適切に執行されているが推察される。今後とも適切な取組を進めていただきたい。
- ・教育委員会の定例会、臨時会、総合教育会議等を通して、各関係者・関係機関との意思疎通を図り、様々な教育課題に対して、適切にかつ迅速に対応されていることが理解できた。



議案	頁数
35号	14

### 3 守谷市教育大綱に定めた施策体系別事業

教育施策は、福祉や地域づくり、防災などの様々な分野における方向性も踏まえて検討する必要があるため、守谷市教育委員会では、市の将来像や施策の方向性を網羅する「第三次守谷市総合計画」の教育に関する部分を、「守谷市教育大綱」として定めています（P2 図参照）。

「守谷市教育大綱」では、大きく「教育改革の推進」と「生涯学習の推進」を施策とし、各施策で「あるべき未来の姿」を設定して、その実現を目指し取組を進めていくこととしていますが、これにより、市の教育目標「新しい時代をたくましく生き抜く人づくり」についても、より充実させた形で達成されることとなります。

各施策を実現させるための主な取組は一覧（P3 図参照）のとおりとなりますが、教育委員会では、毎年度、これらの中から重点的に取り組む事業を設定していますので、点検・評価では「当該年度の重点事業」と「施策を実現させるための主な取組」を対象としていくこととしています。

#### I 令和5年度重点事業

##### 1 教育改革の推進

(1) 確かな学力の育成	
ニューノーマルな学校生活の推進（教育指導課）	
【取組・成果】	
<p>一人1台端末を効果的に活用して、児童生徒が主体的、探究的な学びができるようにするとともに、一人ひとりに個別最適化された学びを実現。</p> <p>○PC・タブレットなどのICT機器を授業で週3日以上使用した割合 小6：82.2%、中3：92%（R5全国学力診断テスト質問用紙より）</p> <p>○令和5年度全国学力学習状況調査結果 小6国語72点（+4.8点）、算数69点（+6.5点） 中3国語75点（+5.2点）、数学58点（+7点）、英語54点（+8.4点） ※（ ）は全国平均との比較</p>	
【課題・今後の方向性】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査において、毎年全国平均を上回る結果である。今後は更に全国平均+11点を目指し、取り組んでいきたい。</li> </ul>	
学校図書館を活用した読書活動の推進（中央図書館）	
【取組・成果】	
<p>○中学生の読書に関するアンケートを実施</p> <p>中学生の読書量の減少は「学校読書調査」*の結果から全国的な傾向であることが分かっており、当市においても学校図書館資料の一人当たり貸出数は、小学校43.1冊、中学校7.28冊となっている。このため、市内中学生の読書意識・傾向・環境等の現状把握を目的に、市内全4校全学年にアンケート調査を実施した。この結果、当市の中学生は概ね本を読むことが好きで読書をしていること、大人が考える中学生の読書分野と実際に読まれている分野に相違があること、電子書籍を読む生徒は全体の18%であることなど、今後の課題解決につながる結果</p>	

を得ることができた（回答者数：1,562人、回答結果：「本を読むことが好き・どちらかと言えば好き」76%、「1か月の読書量（まんが・雑誌を除く図書または電子書籍）」1冊23%。0冊19%、2冊18%、10冊以上は15%、3冊13%）。

※ 毎年、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が全国の小中高校生を対象に実施

○本のPOPコンテストを開催

読書量が低下傾向にある中学生に本への理解と親しみを深めてもらい、読書意欲の向上を図ることを目的に開催。166点の応募作品を中央図書館展示スペースに展示し、来館者投票により受賞者を決定。金賞、銀賞、銅賞外3賞には賞状及び図書カードを授与した。令和4年度まで実施していた本の帯コンテストから、教科書に掲載されているPOPに作品を変更したため、より親しみをもち、取り組みやすかったことが応募作品数の増加に繋がったと推測する。また、コンテスト開催後、友達がPOPコンテストで紹介していた本を探しに来館した生徒があった。

【課題・今後の方向性】

- ・アンケート回答者において、本を読むことがきらい、どちらかと言えばきらいという生徒が24%、1か月に本を全く読まない生徒が19%存在する。回答から得られた読書傾向等を参考に、学校図書館での選書や読書推進の取り組みに反映し、働きかけていく必要がある。
- ・POPコンテストに参加する生徒がいる反面、参加しない生徒もいるという現状がある。今後、より多くの生徒に参加してもらうために、効果的な周知に努めるとともに、参加意欲が高まる付加価値についても検討していく。

## (2) 豊かな心を育む教育の推進

いじめ防止対策・不登校対策の推進～校内フリースペースの増設など（教育指導課）

【取組・成果】

はばたきから校内フリースペースと学びの場がスモールステップで準備されており不登校対策として有効であった。

フリースペース小学校延べ138人 毎月平均利用者数 10人程度

フリースペース中学校延べ481人 毎月平均利用者数 40人程度

【課題・今後の方向性】

- ・令和5年度の30日以上学校欠席者は、小学校75人で前年度より33人減、中学校135人で前年度10人増となっている。令和6年度からは、スクールソーシャルワーカーを増員し、相談体制を充実させて未然防止に努める。

## (3) 健康と体力を育む教育の推進

学校給食におけるアレルギー対策（学校給食センター）

【取組・成果】

令和5年4月から卵・乳を含む主食・料理のみの代替食提供を開始した。

学校給食食物アレルギー対応は、以下のレベルにより実施・対応を図った。

○レベル1 詳細な献立表の提供（対応人数：115人）

学校給食の原材料を詳細に記した「詳細献立表」「喫食確認表」を家庭に配布。学校は保護者が記入した「喫食確認表」で喫食判断できるようにした。

○レベル2 弁当対応（対応人数：2人「完全弁当対応」）

レベル1以上の対応を希望した全ての児童生徒に弁当持参を許可。

- ・一部弁当対応 原因食物を料理に使用しており、除去が困難な場合
  - ・完全弁当対応 原因食物種類が多い場合や重篤なアレルギー症状を起こす場合など、学校給食を継続して食べることができないと判断される場合
- レベル3 除去食対応（飲用牛乳の停止）（対応人数：119人 ※食物アレルギー対応以外での停止者も含む）

飲用牛乳のみを提供を中止し、給食費の減免の対応を行っている。

- レベル4 代替食（卵・乳を含む主食、料理の代替食提供）（対応人数：40人）
- 卵（鶏卵）・乳（牛乳・乳製品）を含む主食、料理から原因物質を除き、別の食品を用いて給食提供（代替食に限り、記名された専用容器で提供）。

※代替食提供（献立）は、以下のとおり。

月	通常食	代替食	除去	代替
4月	かぶのクラムチャウダー	かぶのクラムチャウダー	牛乳・バター	豆乳
5月	桜エビと卵のスープ	桜エビのスープ	卵	豆腐増量
6月	小松菜とチーズのサラダ	小松菜サラダ	チーズ	ささみ増量
	プリンタルト	豆乳タルト	卵・牛乳	豆乳
7月	卵ときこのほっこりスープ	きのこスープ	卵	豆腐増量
	コーンポタージュ	豆乳ポタージュ	牛乳・バター	豆乳
	ハンバーグ玉ねぎソース	豆腐ハンバーグ	卵	豆腐
	卵の中華スープ	中華スープ	卵	豆腐・鶏肉増量
8月	人参と卵のしりしり	人参しりしり	卵	ツナ増量
	ヨーグルト	お米のババロア	牛乳	米粉・豆乳
9月	チーズ	お魚かまぼこ	チーズ	かまぼこ
	野菜と卵のマヨネーズサラダ	野菜のマヨネーズサラダ	卵	野菜増量
10月	りんごとパインのヨーグルト和え	りんご煮とパイン和え	ヨーグルト	
	かきたま汁	豆腐のすまし汁	卵	豆腐増量
11月	里芋の和風ミルクシチュー	里芋の和風シチュー	牛乳・バター	豆乳
	米粉のクリームシチュー	豆乳のクリームシチュー	牛乳・バター	豆乳
12月	かきたま汁	豆腐のすまし汁	卵	豆腐増量
	オムレツ玉ねぎソース	鶏肉の玉ねぎソース	卵	鶏肉
1月	スペイン風卵スープ	コンソメスープ	卵	玉ねぎ増量
	親子煮	鶏肉と凍り豆腐の煮物	卵	鶏肉・玉ねぎ増量
2月	星型チーズのサラダ	かまぼこのサラダ	チーズ	かまぼこ増量
	中華風卵コーンスープ	中華風コーンスープ	卵	玉ねぎ・コーン増量
3月	しらす枝豆玉子焼き	お魚かまぼこ	卵	かまぼこ
	ほうれん草とチーズのサラダ	ほうれん草サラダ	チーズ	ほうれん草増量
	ほうれん草オムレツ	ほうれん草と鶏肉のソテー	卵	鶏肉
	ペンネたらこクリームソース	ペンネたらこ豆乳ソース	牛乳・バター	豆乳
3月	卵のミモザサラダ	コールスロー	卵	キャベツ増量
	かきたまみそ汁	豆腐のみそ汁	卵	豆腐・かまぼこ増量
3月	にら玉スープ	鶏肉と野菜のスープ	卵	鶏肉
	フルーツのヨーグルトあえ	フルーツポンチ	ヨーグルト	黄桃・パイン増量
	チーズ	お魚かまぼこ	チーズ	かまぼこ
	オムレツデミグラスソース	豚肉のデミソース炒め	卵	豚肉

【課題・今後の方向性】

- ・マニュアル内容を随時見直し、食物アレルギーを持つ児童生徒が安心して楽しく給食の時間を過ごすことができるよう、安全を最優先とした学校給食を提供。
- ・学校関係者に自分の担当部分のみでなくマニュアル全体について理解するよう指導し、担当者が不在となる場合でも対応できるような体制を確立する。
- ・アレルギー対応レベル4について、保護者から小麦の代替食を望む声があり、実施に向けた方策を検討する。

(4) グローバル社会で活躍できる人材を育成するための教育の推進

外国語教育の推進～オンライン英会話の対象範囲の拡大など（教育指導課）

**【取組・成果】**

○中学3年時での英検3級の取得人数及び取得率

守谷市 57.6% (+28.4%)

※( )は全国取得率との比較

○英検 IBA「RL読むこと・話すことテスト」

中学校1年生 598.0点 (+56.8点)

中学校2年生 729.9点 (+38.2点)

中学校3年生 784.0点 (+31.8点)

※( )は茨城県平均との比較

**【課題・今後の方向性】**

・「話す・聞く」といった音声言語能力は向上しているが、論理的に話す力までは育っていない。今後はさらに、書く力の向上にも力を入れていきたい。

(5) 地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進（生涯学習課）

**【取組・成果】**

近年、教育の基盤として、学校と地域の連携・協働体制の確立が位置付けられ、その仕組みづくりが求められている中で、御所ヶ丘中学校区（モデル校区）において、まちづくり協議会等と連携・協働し、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を試行導入した。子どもたちや学校が抱える課題を地域全体で共有し、応援する体制づくりと、次の取組を行った。

《モデル校区での取組》

- ・御所ヶ丘中学校区内4校（御所ヶ丘中学校・大井沢小学校・御所ヶ丘小学校・松前台小学校）が連携した組織「保幼小中高一貫教育運営委員会」を「学校運営協議会」に移行した。
- ・北守谷地区・大井沢地区まちづくり協議会と連携し、地域防災、キャリア教育などをテーマに「地域学校協働活動」に取り組んだ。

**【課題・今後の方向性】**

・モデル校区での実証事業を通して、学校と地域の相互理解につながるような関係性を構築するため、学校と地域の橋渡し役となる地域コーディネーター（地域協働活動推進員）の選任により連携機能の充実を図るとともに、取組の成果を他校区に波及させ、地域とともにある学校づくりを進める。

(6) 学びを支える環境づくり

御所ヶ丘中学校校舎改修工事（学校教育課）

**【取組・成果】**

仮設校舎の設置を完了させ、校舎の屋根・外壁更新、北側校舎1～3階の教室・廊下の床や壁・天井の更新等、全工区の4分の1まで工事を進捗させた。

○工期：令和5年9月20日～令和7年2月28日

○工事内容：校舎及び技術棟の屋根更新・外壁防水塗装、内装等改修・更新、LED化、空調撤去・再設置、配管類の更新など

**【課題・今後の方向性】**

・学校施設長寿命化計画や学校適正配置方針との整合性を図りながら、令和6年度中に工事完了できるように、関係各所との調整や工事進捗を進めていく。

御所ヶ丘小学校屋内運動場改修工事（学校教育課）

【取組・成果】

屋根や外壁、内装等の改修・更新のほか、発電機能付き空調機を設置し、建物の長寿命化と避難施設としての機能向上を図った。

○工期：令和5年6月15日～令和6年2月28日

○工事内容：屋根更新・外壁防水塗装・内装更新・バリアフリースイッチ設置・ウォータークーラー新設・空調機10台新設・照明LED化等

【課題・今後の方向性】

- ・学校施設長寿命化計画との整合性を図りながら、今後も安全安心な施設維持管理に努めていく。

屋内運動場照明器具のLED化（学校教育課）

【取組・成果】

水銀灯の製造・輸出入禁止に伴い、高野小・松前台小・守谷中・けやき台中の屋内運動場照明（水銀灯）をLED照明に更新した。

○工期：令和5年6月3日～9月30日

【課題・今後の方向性】

- ・学校施設長寿命化計画との整合性を図りながら、維持管理にコストが掛からず、高照度のLEDへの更新を進めていく。

けやき台中学校校舎改修工事（実施設計）（学校教育課）

【取組・成果】

令和6～7年に大規模改修工事（屋根や外壁、内装等の改修・更新、受変電設備更新等）を実施するための実施設計を行った。また、工事期間中に生徒一部が使用する仮設校舎リースの設計部分を早めに終了させ、契約締結につなげた。

○契約期間：令和5年6月10日～令和5年2月28日

※仮設校舎リース契約：令和6年1月16日～令和8年6月30日

【課題・今後の方向性】

- ・学校施設長寿命化計画や学校適正配置方針との整合性を図りながら、令和6年度から工事を円滑に実施できるよう、関係各所との調整や工事準備を進めていく（令和6年9月契約～10月工事開始～令和8年3月工事終了）。

部活動の地域移行（生涯学習課）

【取組・成果】

学校・地域団体等と教育委員会が連携して国が推進する部活動地域移行を実現するため、「地域部活動運営協議会」を組織し、進捗管理・効果検証・課題解決を図った。

市内4中学校全52部活動のうち、12部活動における休日の部活動運営を一般社団法人守谷市スポーツ協会（以下、「市スポーツ協会」という。）に委ね、地域指導者による指導を行うとともに、指導者として必要な知識や技能を身に付けられるよう、指導者養成講習会を複数回開催し、質の向上を図った。

新たな取組として、既存の部活動にはないダンス体験教室、プロアスリートによるハンドボール特別教室や、市内民間施設を活用したテニス教室等を開催し、学校部活動とは違った環境で、地域クラブ活動につながる取組を試行実施した。

また、12部活動(※1)及び新たな取組を、地域クラブ「MSCC(守谷スポーツ文化クラブ)」の活動に位置付け、活動拠点となる学校体育館・格技場・グラウンドのほか保健室、現場責任者の待機場所等の使用について、学校と教育委員会が協議し、管理エリアの区分によりセキュリティ面の課題解決を図った。

ふるさと納税を活用したクラウドファンディング「地域クラブ活動応援サポートプロジェクト」により、全国に呼び掛け、事業にかかる財源確保を行った。(※2)

※1 地域指導者配置部活動数：守谷中1、愛宕中7、御所ヶ丘中2、けやき台中2

※2 目標金額：5,000千円 寄付金額：5,691千円(達成率113.8%) 支援人数：237人

《主な取組》

令和5年 4月	・地域指導者による休日指導(2部活動) ・ハンドボール特別教室開催 対象：中学生
5月	指導者養成講習会(ハラスメント・コミュニケーション・チームビルディング等に関する研修)開催
5月～6月	保護者説明会実施(休日指導対象部活動)
7月	地域部活動運営協議会開催(学校部会)
7月～	地域指導者による休日指導(+10部活動)
9月	ダンス体験教室 対象：小中学生
10月	・指導者養成講習会(救命救急)開催 ・地域部活動運営協議会(全体会議)開催
11月	・ふるさと納税型クラウドファンディング開始(90日間) ・指導者養成講習会(ハラスメント・コミュニケーション・チームビルディングに関する研修、医科学的な視点から見たスポーツ指導、アレルギー対応(エピペン)研修)開催
令和6年 1月	・テニス特別教室開催 対象：小中学生 ・地域部活動運営協議会(全体会議)開催
2月	・地域部活動運営協議会(全体会議)開催
3月	・卓球特別教室開催 対象：小中学生

【課題・今後の方向性】

- ・既存部活動全てに地域指導者を配置することは困難なため、競技・種目ごとに指導者を確保し、休日活動を複数校合同で行うなど、地域クラブ「守谷スポーツ文化クラブ(通称：MSCC)」の運営体制の確立を目指す。
- ・移行期間終了(令和7年度予定)後、参加費等の自己負担費用が、参加することの妨げになり、スポーツ・文化活動の体験格差が広がらないよう、就学援助制度同等の支援を検討する。
- ・地域指導者による指導を開始した部活動に所属する生徒・保護者の約70%がともに、「優れた指導者に技術を教わることができる」などのメリットを感じている。また、学校の働き方改革の観点からも、地域指導者を配置した部活動顧問(教職員)について、月平均10時間の時間外勤務削減につながっていることから、令和6年度はさらに拡大し、計20部活動を目安に地域指導者を配置する。

## 2 生涯学習の推進

### (1) 自主的な学習の支援と機会・場の提供

#### 郷州公民館改修工事（生涯学習課）

##### 【取組・成果】

建物の長寿命化と設備の機能向上に加え、エレベーター構造計算、建物内部設置に伴う確認申請機関との協議を行うことで、より適正な工事施工計画を整え、当初計画したスケジュールのとおり、工事着工した。

○工期：令和5年9月20日～令和6年8月31日

○内容：エレベーター設置、玄関開口口拡張、集会室・和室・調理室の利活用スペース拡張、トイレの洋式化、図書室の環境改善 他

##### 【課題・今後の方向性】

・令和6年10月に予定しているリニューアルオープンに向けて、工事の進捗管理、近隣施設との調整、備品の新調など必要な準備を進める。

#### 北守谷公民館改修工事（実施設計）（生涯学習課）

##### 【取組・成果】

建築後25年を迎え、設備不調が著しい施設を改善し、安心・安全な施設環境の確保と維持管理経費の縮減を図るとともに、指定避難所の位置付けに対応するため、施設の一部にGHP（ガスヒートポンプエアコン）を導入し、避難施設としての機能向上に必要な設計内容とした。

○工期：令和6年9月中旬～令和7年8月31日（予定）

○内容：エレベーター交換、建物外部・外構・内装全般仕上、トイレ乾式化、ホール照明・音響設備、給排水設備、ガス設備、空調設備改修 他

##### 【課題・今後の方向性】

・令和6年10月から円滑に改修工事が実施できるよう、関係部署・機関、施設使用団体、指定管理者等との連絡調整及び必要な協議を行う。

#### 中央図書館改修工事（基本設計・実施設計）（中央図書館）

##### 【取組・成果】

中央図書館の大規模改修工事の着工に向けて、令和4年10月に利用者アンケートを実施し、施設・設備の現状とアンケートの結果をもとに改修構想案をまとめ、総合教育会議において協議・調整を行った。令和5年度に入り、改修方針について図書館協議会において協議・調整を行うとともに、先進的な活動を行う他市図書館の視察等を実施した結果を踏まえ、改めて総合教育会議において改修工事の方針等を協議・調整した結果、施設・設備の更新に加え、利用者ニーズを十分に反映した、新たな空間・機能を備えた、快適で魅力ある図書館へ転換すべきとの結論に至り、補正予算等を12月定例会議に上程し、議案が承認され、改修工事の工程に基本設計を追加することが決定した。議会終了後に、公募型プロポーザル方式による設計事業者選定の募集を始め、プロポーザル審査委員会による選考を経て、事業者が決定し、3月に委託業務契約を締結した。

○工期：令和7年10月～令和8年10月

### 【課題・今後の方向性】

- ・改修後の図書館において、デジタル化による利便性の向上や業務効率化を図るなど、デジタルトランスフォーメーションの推進は必須となるが、費用が膨大であるため、デジタル田園都市国家交付金（デジタル実装タイプ）<sup>※</sup>等の利用を考慮した予算化に努める必要がある。

※デジタル技術を活用し、地方の活性化や行政・公的サービスの高度化・効率化を推進するため、デジタル実装に必要な経費などを国が支援するもの

## ◇令和5年度重点事業に対する点検評価委員の意見

### 1 教育改革の推進

#### (1) 確かな学力の育成

- ・全国学力学習状況調査において、小学校、中学校ともに全国平均を上回っている。ICT機器を活用した、個別最適な学びの成果の一つだと思う。
- ・本のPOPコンテストなど、子どもの読書活動も大切にしている点が素晴らしい。

#### (2) 豊かな心を育む教育の推進

- ・「校内フリースペース」の増設等、登校の心理的ストレスを緩和する取組が、不登校対策として成果を上げている。スクールソーシャルワーカーの増員など、先を見通した不登校への未然防止の取組がなされており、更なる不登校支援に期待する。

#### (3) 健康と体力を育む教育の推進

- ・学校給食におけるアレルギー対策が、個のニーズに応じてレベル別に細やかに対応されていることに感心した。マニュアルの随時見直し、その基準は安全を最優先とする姿勢を高く評価したい。

#### (5) 地域とともにある学校づくり

- ・コミュニティ・スクールの導入について、モデル事業の御所ヶ丘中学校区において、既に職場体験学習のコーディネートで成果が上がっているとのことをお話を聞き、これまでに築いてこられた学校と地域の関係の良さを感じた

#### (6) 学びを支える環境づくり

- ・市内各校の体育館修繕が進み、冷房未設置は数校を残すのみで数年内に設置完了の予定とのこと。昨今の暑さは命の危険も伴う程であるにも拘わらず、県内小中学校の導入率は1割らしい。守谷市の学校環境の安全への意識の高さと計画性は素晴らしいと思う。

### 2 生涯学習の推進

#### (1) 自主的な学習の支援と機会・場の提供

- ・郷州公民館の改修工事を見学し、時代や地域の要望に応じた画期的な公民館の建設が進められていることが分かった。

議案	頁数
36号	22

## II 施策実現のための主な取組

施策実現のための主な取組については、成果指標の令和8年度目標値達成度を以下4段階で評価しています（参考：県教育委員会点検評価達成基準）。

A	期待以上の成果(100%以上)
B	概ね期待どおりの成果(80～99%)
C	期待した成果を下回っている(50～79%)
D	期待された成果があがっていない(50%未満)

### I 教育改革の推進

#### (1) 確かな学力の育成

単位:千円(前年度)

事業名	1-1-1 守谷型カリキュラム・マネジメントの継続	決算額	—				
目的	教職員が担うべき業務に専念できる環境や児童生徒と向き合う時間を確保し、長時間勤務の働き方を改善することで、児童生徒の学びの質の保障をする。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3日5時間授業(月、水、金)の実施</li> <li>・中学校「部活動改革」の推進</li> </ul>						
課題・対応方向	ラーケーション導入や WBGT における活動制限等による児童生徒の授業時数確保が課題である。一人1台タブレットのeドリルを活用し、学習保障ができるようにしていきたい。また、中学校での超過勤務時間が依然として長い状況であり、課題であるが、部活動への地域指導者配置の推進により、勤務状況の改善につながると考える。						
外部からの意見	・守谷市の特徴的な取組である守谷型カリキュラム・マネジメントは、全国から注目され、教員の働き方改革にも大きく貢献している。(県外視察者)						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	全国学力・学習状況調査で全国平均正答率を上回っている児童生徒の割合	100%	100%	100%	100%	100%	A
	意欲をもって授業に臨んでいる児童生徒の割合	78.9%	90.0%	80.7%	82%	90%	B
	小学校教職員の超過在校等時間月45時間以内の割合	67.5%	77.5%	85%	87%	100%	B
	中学校教職員の超過在校等時間月45時間以内の割合	42.2%	40.0%	56%	58%	80%	C

事業名	1-1-2 学習支援ティーチャーの配置	決算額	57,077(56,069)				
目的	個に応じたきめ細かな学習指導や生活習慣指導を行うため、チームティーチング(担当教職員と学習支援ティーチャー)による指導の充実を図り、分かる授業を展開することで、学力向上を目指す。						
事業内容	小学校に配置された市費の非常勤講師28名と学級担任との複数体制できめ細やかな学習支援及び生活指導を行った。						
課題・対応方向	近年、特別な配慮を要する児童が増加傾向にあり、個に応じたきめ細やかに支援できる学習支援ティーチャーの存在は大きく、学力向上に寄与している。今後も担任と連携しながらチームティーチングを推進できるように研修体制を確立する。						

外部からの意見	・小学校入学で不安が大きい中、複数の目で見守られことで安心している。(けやき台中学校区住民)						
担当課	教育指導課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
全国学力・学習状況調査で全国平均正答率を上回っている児童生徒の割合	100%	100%	100%	100%	100%	A	
意欲をもって授業に臨んでいる児童生徒の割合	78.9%	80.6%	80.7%	82%	90%	B	

事業名	1-1-3 市費負担教科担任の配置	決算額	107,725(95,000)				
目的	市内小学校 5・6 年生の児童(以下「小学校高学年」)を対象に、市独自に雇用した専門性を有する教職員が教科指導を行うことにより、授業の質を向上させ児童の学習意欲をより高める。併せて小学校高学年を担当する教職員の働き方改革を進める。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校に、理科、音楽、図画工作の専門性を有する教職員(市費負担教職員)を配置し、高学年の授業を担当。(理科9名、音楽4名、図画工作4名)</li> <li>・小学校高学年から教科担任を導入することで中学校へのつなぎをなだらかにする。</li> </ul>						
課題・対応方向	・令和6年度で事業5年目にあたり、10人の任期付職員が退職となる。指導力のある新規職員を採用することが課題である。早期から募集を行い、質を担保した人員を確保したい。						
外部からの意見	・専門性を生かした授業実践で個別最適な学びが実現し、学力向上へと繋がっている。(守谷中学校区住民)						
担当課	教育指導課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
授業を肯定的に捉えている児童の割合	77.6%	80.5%	92.8%	93%	85%	A	

事業名	1-1-4 学校図書館を活用した読書活動の推進	決算額	31,879(30,793)				
目的	令和元年度から実施されている学校教育改革プランに基づく「中央図書館との連携による学校図書館の充実」を図るため、読書センター・学習センター・情報センターとしての機能充実に対する支援を行う。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体貸出(2,365冊)や学校間相互協力(160冊)を促進した。団体貸出においては、令和4年度実績の1,976冊から約400冊増加した。</li> <li>・図書館職員により、年間35回ブックトークを実施した。令和4年度実績の24回から増加した。</li> <li>・学校司書の技術向上のため外部講師を招き、蔵書管理(除籍)について研修を実施した。また、企業が開催するブックフェアに参加し、実際に図書の現物を手に取り内容を確認することでより良い選書に繋がった。</li> <li>・学校図書館資料の充実を図るため、充足率を考慮した資料費の配分を実施し、学校図書館図書標準の達成学校数が、11校となった。</li> </ul>						
課題・対応方向	団体貸出や、ブックトークの依頼が前年度より上回り、学校への周知が浸透してきた結果がでている反面、依頼の少ない学校もある。今後は、教職員の異動等						

	への対応として、学校図書館の取組みや情報等の説明など、継続した周知を図っていく。						
外部からの意見	・読書活動推進を念頭に、利用しやすい環境作りを心がけ、児童に寄り添った対応を継続していきたい。(教職員)						
担当課	中央図書館						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	学校図書館の年間貸出冊数	187,897	197,013	292,380	250,000	200,000	A
	学校図書館図書標準の達成学校数	8校	9校	11校	11校	13校	B

事業名	1-1-5 サタデー学習支援教室の実施	決算額	822(0)				
目的	小学校4年生から6年生までの希望する児童を対象に、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図ること及び学習に興味関心を高める						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サタデー学習支援教室指導員が指導にあたった。</li> <li>・令和5年度は10月から実施。40人の児童が参加。</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で上半期は実施することができなかった。</li> <li>・9月からの募集だったためすでに予定が入っている家庭が多く、参加人数が少なかった。次年度は夏休みに開催し、夏休みの宿題などのフォローをすることで児童の意欲を高められるようにする。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣が身に付き、基礎学力が向上した。(サタデー利用者)</li> <li>・家庭での自主学習の時間が増えた。(サタデー利用者)</li> </ul>						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	サタデー教室に参加して、勉強する時間が増えた児童の割合	未実施	未実施	24%	25%	50%	D

## (2) 豊かな心を育む教育の推進

単位:千円(前年度)

事業名	1-2-1 特別支援教育の推進	決算額	1,799(86)				
目的	教職員の特別支援教育に関する専門性を高め、特別な教育的支援を必要とする幼児、児童及び生徒が早期からの一貫した教育支援を受けることで、本人の持つ能力を発揮できるようにする。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に適切な支援が行えるように、専門的な知見を生かすため、教育支援委員会を年4回実施。(審議件数 未就学児:51件 在籍児童生徒:82件)</li> <li>・全小・中学校への訪問による特別支援教育に関する研修(年間各校1回以上)</li> <li>・特別支援教育担当者会議の開催(年1回)</li> <li>・守谷市教育支援委員会の開催(年4回 9月、10月、11月、12月)</li> <li>・保育所、幼稚園訪問(年間2回以上)</li> <li>・こども療育教室、守谷市総合教育支援センターとの定期的な情報交換</li> <li>・保健センター、児童福祉課、社会福祉課との連携(随時)</li> <li>・保幼小中高一貫教育の推進(随時)</li> </ul>						
課題・対応方向	・教育支援委員会では、133件(未就学児:51件 在籍児童生徒:82件)の審議が行われた。件数の増加を受けて、次年度は5回の実施を計画している。						

	・「発達性読み書き障害」に係る研修、LITALICO 教育ソフトの導入により、今後、特別支援教育担当者の専門性の向上を図っていく。						
外部からの意見	・配慮が必要な子ども達は増えている。そうした児童生徒への学習指導の仕方や接し方などについて、教員は適切な研修を行い、一層学んでほしい。(愛宕中学校区住民)						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	教職員の研修実施回数(校内研修、訪問含む)	5回/校	5回/校	5回/校	6回/校	5回/校	A
	市内保育所・幼稚園訪問回数	55回	60回	104回	95回	60回	A

事業名	1-2-2 いじめ防止対策の推進及び不登校対策の実施	決算額	3,214(0)				
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止及び早期発見に努めるとともに、いじめが起きてしまった場合は迅速に対応し、再発の防止に取り組める体制を整備する。</li> <li>・不登校の未然防止及び早期対応に努め、「社会的自立」を目指し、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・指導(学習指導も含む)を行うことにより、その社会的自立を支援していく。</li> </ul>						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2件のいじめ重大事態について第三者調査委員会を設置し、事実確認を行った。</li> <li>・いじめ問題重大事態調査委員会 全6回実施、ヒアリング全21回実施</li> <li>・適応指導教室「はばたき」・校内フリースペース13校中8校の設置</li> <li>・市内に1人のスクールソーシャルワーカーを配置。</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は小学校142件、中学校33件、合計175件のいじめを認知し、101件解消。解消率57.7%であった。県平均が81%からみると解消率の低さが課題である。令和6年度にはいじめ対策相談員を1名、スクールソーシャルワーカーを3名増員し、毎月のいじめ対策会議に外部の専門家を入れることで適切な認知、早期対応に努めていきたい。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめる側にも家庭内のストレスや誤解がある。粘り強く指導してほしい。(守谷中学校区住民)</li> <li>・先生達が気付いていじめを防止したなどの良い対応事例も、先生方で共有すると良い。(けやき台中学校区住民)</li> </ul>						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	いじめの解消率	88.00%	60.4%	57.7%	60%	75.00%	C
	不登校児童生徒出現率(30日以上欠席)	2.10%	3.80%	3.44%	3.5%	3.50%	A

事業名	1-2-3 情報モラル教育の推進	決算額	—				
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が情報モラルについて研修し、児童生徒に情報モラル教育を行うことで、児童生徒が情報を適切に活用できる力を身に付け、情報を収集したり、発信したりする力を育む。</li> </ul>						

議案	頁数
35号	26

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に対しての ICT 支援員による情報モラル研修の実施</li> <li>・児童生徒に対しての情報モラルに関する授業の実施</li> </ul>					
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や校務における事例をもとにした教職員研修を実施する。</li> <li>・情報活用能力の1つとして、情報モラル教育の計画的な取組を実践するための環境を整備する。</li> </ul>					
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒のデジタル活用能力の向上が著しい。今後も有効な活用を進め、一人一人の情報活用能力を伸ばすとともに、安全な使い方、自律的な使い手を育成してほしい(愛宕中学校区住民)</li> <li>・児童がタブレット端末を上手に活用している。今後も学習に効果を上げる活用をしてほしい。あわせて、「書く」ということも重要なので、ノート指導の充実も図ってほしい。(御所ヶ丘中学校区住民)</li> </ul>					
担当課	教育指導課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
ICT 機器(スマートフォンや PC)の使い方について、約束したことを守っている。(全国学力学習状況調査児童質問用紙)	実施せず	75.9%	95.7%	97%	100%	B
ICT 機器(スマートフォンや PC)の使い方について、約束したことを守っている。(全国学力学習状況調査生徒質問用紙)	実施せず	68.6%	97.3%	97%	100%	B

### (3) 健康と体力を育む教育の推進

単位:千円(前年度)

事業名	1-3-1 ゆう遊タイムの活用など子どもの体力向上の推進	決算額	639(522)			
目的	体育の授業を基盤として、体を動かすことが好きになる児童生徒を育成し、集団での外遊びを推奨することで、友達と体を動かす喜びを味わい、体力の向上を図る。					
事業内容	・各校で週1回、ロング昼休み(遊々タイム)を設定し、集団で外遊びをする時間を確保している。					
課題・対応方向	令和5年度スポーツテスト総合評価 A、B の取得率が県と比べて、小学校で-0.2%、中学校で+2.9%となっている。小学校での体力向上が課題である。引き続き、ゆう遊タイムを奨励し外遊びを活発にすることで体力の向上に努めたい。					
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びを取り入れた体力、気力の錬磨に期待している。熱中症対策もしっかりとなされている。今後も継続してほしい。(守谷中学校区)</li> <li>・コロナ禍で児童の体力が落ちていることが懸念される。外で体を動かす活動を増やしてほしい。(御所ヶ丘中学校区住民)</li> </ul>					
担当課	教育指導課、学校教育課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
体力テストで総合評価A、Bを取得できた児童の割合	中止	45.7%	46.2%	47%	60%	B
体力テストで総合評価A、Bを取得できた生徒の割合	中止	54.8%	56.2%	57%	60%	B

事業名	1-3-2 正しい食生活の理解や望ましい習慣の推進	決算額	614,801(601,671)			
目的	・給食指導及び保健体育、学級活動の授業を通して、正しい食生活の習慣の定着を図る。					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けることができるようにする。</li> </ul>						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育月間(6月)に、食育に関する授業の実践、家庭との連携</li> <li>・栄養教諭による食育授業の実施</li> <li>・生きた食材となる給食の提供(地場産物に係る食に関する指導等)</li> <li>・給食センターの見学受入</li> <li>・給食だより又はホームページでのレシピ紹介</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭による給食指導など巡回型で行ってきた。食物アレルギーなどについても指導が必要である。栄養教諭と養護教諭が連携し、アレルギー指導やエピペン研修を行っていきたい。</li> <li>・朝食の欠食率が、若い世代を中心に未だ高い水準にあることから、正しい食習慣や生活のリズムを身に付けていくよう、引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・食生活の基本は子どもの時期に形作られることから、日常生活の基盤である家庭で子どもへの食育を着実に推進していくことが重要な課題であるため、給食だより、広報紙等を通じて周知していく。</li> <li>・地域の食材を活用した郷土料理や伝統食など、食文化の素晴らしさを再認識するために、給食献立に取り入れ、次世代に継承する取組を進める。</li> <li>・食育推進を図る上で、新鮮で安全安心な農産物の確保、また生産者との交流促進に取り組む必要があるため、生産者の皆さんの声に傾聴し、地場産物を給食に取り入れるとともに、食育動画を作成し、地場産物の紹介を行う。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な体づくりには、毎日の食生活がいかに大切なのか、養護教諭や栄養教諭から朝食の大切さについて指導し、喫食割合を100%にしてほしい。</li> <li>・朝食を食べる生徒は100%になってほしい。これには学校だけでなく家庭の協力が必要である(けやき台中学校区住民)</li> <li>・給食費の無償化について要望がある。(守谷市議)</li> <li>・地場産物の利用について要望がある。(農家)</li> <li>・ミネラルの取れる給食の要望。(保護者)</li> </ul>						
担当課	教育指導課、給食センター						
成果指標		R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
学校健診で所見のあった児童生徒の割合		11.9%	12.2%	10.9%	10%	10%	B
朝食を毎日食べている児童の割合(全国学力学習状況調査児童質問用紙)		97.4%	94.7%	96.3%	97%	98.0%	B

**(4) グローバル社会で活躍できる人材を育成するための教育の推進** 単位:千円(前年度)

事業名	1-4-1 ALT活用による外国語教育の推進	決算額	108,001(98,937)
目的	外国語教育推進事業におけるALT(外国人指導助手)の全校配置に加え、昨年度から導入した英語ネイティブスピーカーによる講師と生徒が1対1で英会話をオンラインで行うことにより、新学習指導要領で重視される4技能(「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」)の育成を更に充実させる。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年において、教育課程特例校申請を行い「英語活動」を設置</li> <li>・ALTの全校配置 19名(大規模校及び中学校 2名配置)</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン英会話の実施 小学校5年生～中学校第3学年 約1,930名</li> <li>・小学校第5学年 年間3時間 第6学年 年間3時間</li> <li>中学校第1学年 年間4時間 第2学年 年間6時間 第3学年 年間5時間</li> </ul>						
課題・対応方向	学級閉鎖等、突発的な変更でオンライン英会話授業の振替を行わなければならないことが複数回起こった。再予約を取るのに苦労したことが課題である。オンライン契約の仕様書にも臨時の対応について記入することで課題の解消に努める。						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT やオンライン英会話など、外国語や異文化に直接触れる学習が充実している。(けやき台中学校区住民)</li> <li>・オンライン英会話は、インターネットが普及した現代ならではの活動で、外国の人と関わる貴重な機会でもあり、これからも続けてほしい。(けやき台中学校区住民)</li> </ul>						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	外国語が話せるようになりたいと思う児童の割合	93%	95.0%	90.0%	92%	95.0%	B
	英検3級以上を取得した中学3年生の割合	47.9%	56.2%	57.6%	58%	60.0%	B

事業名	1-4-2 ICTを活用した教育の推進	決算額	—				
目的	ICT 機器を効果的に活用して、児童生徒が主体的、探究的な学びができるようにするとともに、一人ひとりに個別最適化された学びを実現する。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問での指導・助言による「守谷型ラーニングスタイル」の推進 計画訪問(年1回) 要請訪問(随時)</li> <li>・情報教育推進委員会の実施(年4回)</li> <li>・ICT支援員と連携を図り、年間を通じて教職員によるICT機器の有効活用に向けたサポートや教職員の資質向上を図るための研修</li> </ul>						
課題・対応方向	ICT を活用した授業展開ができる教師の指導力に格差がみられる。情報活用能力体系表をもとに、どの職員も同程度の指導ができるようにする。						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々タブレットの使い方が上達している。学習者用デジタル教科書が導入されていない教科については画像を活用できるようにすると良い。(御所ヶ丘中学校区住民)</li> <li>・ICT教育やプログラミング教育も今後より望まれると思う。(愛宕中学校区住民)</li> </ul>						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。週3日以上(全国学テ質問用紙)	85.9%	78.9%	82.2%	85%	90%	B
	中学校1・2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。週3日以上(全国学テ質問用紙)	43.6%	44.5%	92%	60%	70%	B

事業名	1-4-3 キャリア教育の推進	決算額	106(0)				
目的	一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通						

	して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校社会体験事業 消費費：中学校 4校 100円×660人×1.10 賠償責任保険 250円×660人</li> <li>・「キャリア教育指導計画」の作成、見直し</li> <li>・キャリア教育を意識した授業の実践</li> </ul>						
課題・対応方向	キャリア教育に関する体験活動(職場体験等)を、地域・関係機関の協力を仰ぎながら企画し、着実に実施していく。						
外部からの意見	・職場体験が実施できたことは、進路・職業選択に大きく役立つことと考える。今後も行政や地域を含めた関係者の協力を得ながら、充実させてほしい。(守谷中学校区住民)						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	将来の夢や目標を持っている割合(中学3年全国学テ質問用紙)	65.4%	62.4%	84.6%	85%	70.0%	A

### (5) 地域とともにある学校づくり

単位：千円(前年度)

事業名	1-5-1 地域と連携した学校運営と教育活動の推進	決算額	13(16)
目的	<p>学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と、学校と地域が相互にパートナーとして地域の活性化に取り組む「地域学校協働活動」の一体的な実施を推進し、保護者、地域、学校、行政が一体となって子どもたちの成長を支える。</p> <p>※学校に「学校運営協議会」を設置、地域に「地域学校協働本部」を整備する。</p>		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校区(御所ヶ丘中学校区)における、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」の試行導入を通して、地域住民等と学校との連携体制や協議会組織の在り方について検証した。</li> <li>・学校及び教育委員会職員に向けた研修会を開催し、先行事例から地域とのつながり(地域とともにある学校づくり)の大切さを学んだ。</li> <li>・学校運営協議会制度及び委員に関する条例・規則を整備し、モデル校区において、令和6年度以降の本格導入に向けた準備を行った。</li> <li>・北守谷地区・大井沢地区まちづくり協議会を中心に、御所ヶ丘中学校区で、地域防災、キャリア教育などをテーマに「地域学校協働活動」に取り組んだ。</li> </ul>		
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域の橋渡し役となる地域コーディネーター(地域協働活動推進員)の選任が進んでいない。</li> <li>・まちづくり協議会はもとより、PTAにも働きかけ、地域コーディネーターの担い手を確保し育成する。</li> </ul>		
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの取組について、住民と行政が考える「コミュニティ」に多少乖離が生じているのではないかと思う。(御所ヶ丘中学校区住民)</li> <li>・若い世代が関われる仕掛けをお願いしたい。(御所ヶ丘中学校区住民)</li> <li>・取組に関して広報紙等で情報発信することが必要だと思う。地域の人が目にしたときに、「自分にもできそう」と思ってくれる仕掛けが必要だと思う。(愛宕中学校区住民)</li> </ul>		

担当課	生涯学習課、教育指導課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
コミュニティ・スクール設置数	0校区	0校区	0校区	2校区	4校区	D	
地域学校協働本部設立数	0校区	0校区	1校区	2校区	4校区	D	

事業名	1-5-2 教育活動における地域人材の有効活用	決算額	25(3)				
目的	未来を担う子どもたちの豊かな学びを支えていくため、学校・家庭・地域が連携し、互いに協力しながら、地域で子どもたちの健やかな成長を支援する。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の求めに応じて、もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク登録者(以下、「CS ボランティア」という。)につなぎ、学校活動において地域人材を活用した。</li> <li>・CS ボランティアの拡大を図るため、既存の学校支援団体、PTA 主体のボランティア組織に声掛けをし、個人のみならず、団体登録を促した。</li> <li>・授業補助、学校行事のサポートのほか、環境整備、登下校の見守りなど多種多様な用途で地域住民が活躍した。</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により制限されてきた学校活動が再開し、地域人材による学校支援が増加したが、学校ごとにバラつきがある。</li> <li>・学校が求める支援や時間帯と、CS ボランティアの都合がマッチングせず、活用できない場合がある。</li> <li>・できるだけ多くの地域住民に、教育活動の状況や児童生徒の様子を知ってもらう機会をつくり、学校理解を深めてもらい、もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク登録者の更なる増加につなげる。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちとボランティアの方々が顔見知りになり、安心感をもって安全に登校することができている。(保護者)</li> <li>・子どもたちに顔を覚えてもらって、「〇〇さん、こんにちは。」と名前を呼んで挨拶をしてくれる。とてもうれしい。(地域ボランティア)</li> <li>・教職員だけでは困難な作業を快く対応してくれた。大変助かっている。(教職員)</li> </ul>						
担当課	生涯学習課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
地域の人で学校活動に関わった人数(年間)	未実施	770人	1,429人	1,800人	3,000人	D	
もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク登録者数(個人・実人数)	未実施	70人	89人	100人	120人	C	

## (6) 学びを支える環境づくり

単位：千円(前年度)

事業名	1-6-1 教職員のICT活用能力及び資質能力の向上	決算額	小 126,507 (125,386) 中 63,358 (54,458)				
目的	ICT教育環境を有効活用するために、教職員のICT機器等に関する活用能力向上及び授業改善を図る。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを効果的に活用できるための環境整備</li> <li>・ICT支援員の配置(6名)</li> <li>・ICT支援員と連携を図り、年間を通じて教職員のICT機器の有効活用に向けたサポートや教職員の資質向上を図るための研修</li> </ul>						

課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用指導力調査で研修が必要と回答している教員に対し、研修内容が増加しており、研修時間や回数が増加していることが課題のため、対面研修だけでなくオンデマンド研修を取り入れていく。</li> <li>令和6年度には、守谷市新規教員対象だけでなく、研修が必要と感じた教員まで対象を拡大して研修を実施する。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の効果的な活用を引き続き継続してほしい。また、家庭学習や個別の補充指導においてもアプリケーション等を積極的に活用し、基礎学力の確実な定着を目指してほしい。(愛宕中学校区住民)</li> </ul>						
担当課	教育指導課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	ICT機器を教材研究・授業の準備・評価・校務などに活用することができる(教員のICT活用指導力調査)	実施せず	89.9%	97.6%	98%	100%	B
	児童生徒のICT活用を指導することができる(教員のICT活用指導力調査)	実施せず	79.4%	97.2%	99%	100%	B

事業名	1-6-2 学校における働き方改革の推進	決算額	2,642(2,414)				
目的	教職員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに効果的な教育活動を行えるようにする。						
事業内容	<p>守谷型カリキュラム・マネジメントの徹底やICTを最大限に活用した学校活動、SSS(スクールサポートスタッフ)などによる教員支援を通して、教職員の働き方改革を促すとともに、スクールロイヤー制度や学校産業医配置、メンタルヘルス対策等を行い、心身両面から労働環境の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールロイヤー制度の継続実施(学校教育課):相談件数16回(9件)</li> <li>・教職員対象ストレスチェックの継続実施(学校教育課):受検率93%(350名)</li> <li>・学校産業医配置(学校教育課):配置校2校(守谷小・黒内小)</li> <li>・ハラスメント対策委員会設置:相談件数0件</li> </ul>						
課題・対応方向	小学校での働き方改革は進んでいるが、中学校での超過勤務時間が依然として長い状況である。地域部活動に移行することで目標値に近づくと考える。教員が心身の両面で負担軽減されることで、子どもの最善の利益につながることから、今後一層の守谷型カリ・マネの推進とともに、問題の未然防止等が可能となるようスクールロイヤーの活用など、労働環境の充実を進めていく。						
外部からの意見	・地域のサポーターを活用し、職員の健康第一を考えてほしい(御所ヶ丘中学校区住民)						
担当課	教育指導課、学校教育課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	小学校教職員の超過在校等時間月45時間以内の割合	67.5%	77.5%	85%	87%	100%	B
	中学校教職員の超過在校等時間月45時間以内の割合	42.2%	40.0%	56%	58%	80%	C

事業名	1-6-3 学校施設等の教育環境の整備	決算額	1,095,113(1,607,371)				
目的	児童生徒の学習及び生活の場として安全・安心できる環境を確保するとともに、時代に 応じた教育が可能となる教育環境を整備する。						
事業内容	現状の劣化度から学校施設長寿命化計画の見直しを進めながら、校舎及び屋 内運動場の改修工事や突発修繕、必要な備品購入等に対応した。 ・御所ヶ丘中学校校舎改修工事(第1工区完了) ・御所ヶ丘小学校屋内運動場改修工事 ・屋内運動場照明器具 LED 化工事(高野小・松前台小・守谷中・けやき台中) ・けやき台中学校校舎改修工事(実施設計及び仮設校舎リース手続き) ・小学校遊具改修事業(大井沢小・高野小・郷州小・松前台小) ・令和5年度年間突発修繕件数:小学校215件、中学校90件(直営対応等含む)						
課題・ 対応方向	側溝や軒樋、草地や樹木管理など、定期的な更新・清掃等により不具合を回避で きる箇所もあるが、対応しきれず突発対応につながっているケースも想定される。施 設・設備状況を全体的に把握し、財政部署と情報共有しながら、故障等の未然防止 に努めていく。						
外部から の意見	・明るく使いやすい体育館になった。(児童) ・敷地内樹木の剪定により、日当たりが良くなって有り難い。(近隣住民)						
担当課	学校教育課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
学校施設の老朽化対策として長寿命化計 画に基づき改修工事に着手した学校施設 の割合	33.3%	57.1%	64.3%	78.6%	100%	C	
学校施設の修繕要望に対する対応率	90.7%	86.9%	82.6%	95%	95%	B	

事業名	1-6-4 部活動指導員配置の推進	決算額	46,986(7,870)				
目的	中学生のスポーツ、文化、科学等に係る技術の向上につなげるとともに、教職員の負担 軽減につなげるため、部活動指導員の配置を推進し、休日の部活動の運営を地域団体等 に段階的に移行する。						
事業内容	・主に平日の部活動(学校管理下)に部活動指導員を配置した。 ・休日の指導及び練習試合・大会等の引率を担う指導者を市スポーツ協会が管理 し、育成・活用することで教職員の負担軽減につなげた。						
課題・ 対応方向	・国が推進する「部活動地域移行」の実現に向けて、休日の指導及び練習試合・ 大会等の引率を担うことができる地域指導者を配置する必要がある。 ・部活動指導員の活動範囲が、学校管理下(学校長の監督及び顧問の指示を受 けること)における活動であるため、できる限り早期に、市スポーツ協会が管理す る地域指導者に移行を促すことで、役割や活動範囲を広げ、さらなる教職員の負 担軽減(働き方改革)につなげる。						
外部から の意見	・部活動指導員と地域指導者の役割の違いを分かりやすく示してほしい。活動す るときに混乱する。(平日・休日とも活動に携わる地域指導者) ・主になって指導することは難しい。自分には、先生の指導を補助する役割が合っ ている。(部活動指導員)						
担当課	生涯学習課						

成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
部活動指導員の配置人数	10人	12人	14人	17人	20人	C
休日の部活動を地域移行した割合	未実施	6%	23.1%	38.5%	100%	D

事業名	1-6-5 交通安全意識の向上及び交通安全施設等の整備		決算額	10,355(10,445)		
目的	登下校時の安全確保や不審者対策、発災時対応の確立等を通して、学校の危機管理体制の強化を図る。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内17か所に通学補助員25名を配置し、立哨指導により通学の安全を確保。</li> <li>取手警察署と連携し、通学補助員対象の交通安全講習会を実施(3月5日)。</li> <li>県及び市関係各所との合同安全点検を実施し、対象13か所のうち11件対応済みのほか、令和6年度中に残りの2件対応予定。</li> <li>各校の立哨ボランティア把握調査を実施し、学校とボランティアとの協力体制強化を図った。</li> <li>110番通報の家制度に市内コンビニエンスストア21件を追加した。</li> </ul>					
課題・対応方向	取手警察等の関係各所との連携を強化し、合同安全点検や通学補助員対象講習会を継続するほか、地域との協力体制による防犯防災対策についても検討し、児童生徒の更なる安全確保を図っていく。					
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>車の通り抜けが多く、学校の協力や通学補助員の増員について検討してほしい(立哨ボランティア)</li> <li>電灯が少なく、交通量の多い箇所もあって今後の通学が不安。(保護者)</li> </ul>					
担当課	学校教育課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
合同安全点検での指摘危険箇所対応率	70.0%	76.2%	84.6%	90%	90%	B
講習会が役に立ったと回答した通学補助員の割合	—	80%	90%	100%	100%	B



議案	頁数
35号	34

## ◇教育改革の推進に対する点検評価委員の意見

### (1) 確かな学力の推進

- ・タブレットも有効に活用し、児童生徒の学力定着が図られている。
- ・「守谷型カリキュラム・マネジメント」に基づく様々な施策が、学力向上や児童生徒の満足度等の数字となって示されている。
- ・「守谷型カリキュラム・マネジメントの継続」について  
児童生徒の学力の向上と教職員の働き方改革という困難な二つの課題に対し、真正面から取り組み、着実に成果を上げている守谷型カリキュラム・マネジメントは、完成期、円熟期に入っているように感じる。全国的に見ても先進的な取組として、更に良いものにしてほしい。
- ・「学習支援ティーチャーの配置」、「市費負担教科担任の配置」についてこれも守谷市独自の取組であると思う。配慮を要する児童には、複数の教職員で児童を支援すること、高学年の児童には、専門的な指導をしていくことができおり、不登校の未然防止や学ぶ意欲の向上等、十分な成果が上がっている。

### (2) 豊かな心を育む教育の推進

- ・フリースペースが有効的に活用されており、児童生徒の居場所となっていることは大変に良いことだと思う。不登校対策として効果を上げていることも素晴らしい。小学校全部に配置されることが望ましい。
- ・「いじめ防止対策」として授業の中でも取り組むことはとても良いと思う
- ・「いじめの防止対策の推進及び不登校対策の実施」について  
いじめの解消率が上がっていない。いじめは一度起きてしまうと完全な解決は難しいのが最近の傾向なので、引き続き未然防止に取り組んでほしい。
- ・特別支援教育への支援を強化することは、すべての児童生徒が平等に教育を受けるための基盤であり、特別支援教育の人的資源やサポートを増やすよう設計されていると感じた。
- ・いじめ防止対策について、住民の方から「いじめる側にも家庭内のストレスや誤解がある」との意見があるが、同感である。もちろん、「される側」のケアは充分に行われることを前提として、「する側」の心理的背景を理解した上での心の支援、教育・啓発、家庭との連携を望みたい。

### (3) 健康と体力を育む教育の推進

- ・学校給食センターでは、食物アレルギーにも細部にわたって対応している。今年度からは、守谷市総合教育支援センターにも給食が提供されており隅々まで配慮がなされている。
- ・集団での外遊びの推奨やロング昼休みの設定は、体力の向上だけでなく、コミュニケーション能力の育成や情操教育につながると思うので、熱中症やコロナウイルス感染症などの心配もあるが、継続して取り組んでほしい。

(4) グローバル社会で活躍できる人材を育成するための教育の推進

- ・英検 3 級以上の取得者が 57.6%で平均より 28.4%も高いことは驚きである。将来、グローバルな活躍をする人材となっていくことが期待される。
- ・守谷市の中学生の英語力が高いレベルである。コミュニケーションツールとして、英語は必須だと思うので、継続して英語教育の充実に取り組んでほしい。

(5) 地域とともにある学校づくり

- ・コミュニティ・スクールの推進が図られており、学校と地域がお互いに協力して児童生徒の育成に関わっていくことは素晴らしいことと思う。
- ・コミュニティ・スクールについては、どの市町村もコーディネーターの選任の段階から苦労している。モデル事業の御所ヶ丘中学校区のように、もともとある、まちづくり協議会等とタッグを組むことで、良い方向に行くのではないかと感じた。

(6) 学びを支える環境づくり

- ・中学校部活動の地域移行については、どの市町村も苦労しているところだが、守谷市の場合は生涯学習課が中心になって取り組んでいること、スポーツ協会も力があることから、子どもたちにとっても、地域のスポーツ振興にとっても、良い方向に進むのではと期待している。
- ・学校が継続的に改修されて、学習環境が整えられていることはとても良いと思う。温暖化で暑い日々が心配される場所、屋内運動場に空調設備が整えられていることも素晴らしい。
- ・教職員の働き方改革を進めることで、教職員のモチベーションアップや健康維持が保たれる。先生方が元気で楽しければ学校環境は良くなる。守谷市は教職員へのサポートが充実している。
- ・部活動への部活動指導員の配置は、特に中学校の教職員の働き方改革に大きな効果をもたらす取組だ。外部からの意見のように課題はあるようなので、「部活動地域移行」を急かさず、指導者・生徒・教職員間の合意を取りながら進めていってほしい。

議案	頁数
35号	36

外部からの意見	・電子図書館使い方講座に参加するまであまり利用したことがなかったが、講座で便利な機能などを教えてもらえてとても良かった。(講座にご参加いただいた市民)					
担当課	中央図書館					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
図書館の貸出資料点数(個人全館合計)	856,382点	964,984点	934,207点	920,000点	1,000,000点	B

事業名	2-1-4 子どもの読書活動の推進	決算額	5,942(5,836)			
目的	生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するために、子ども一人ひとりの発達や読書経験に応じて、楽しむ、学ぶ、調べる等多様な目的に応じた幅広い読書活動の機会を提供する。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての絵本との出会いを提供するブックスタートを、3・4か月児健康診査時に、年間24回実施し、479名の参加があった。</li> <li>・幼児期の子どもに良書を届けるため、幼稚(保)園、保育所(園)に対し、年間11施設にブックパックの貸出を実施した。</li> <li>・ボランティアと協働の下、中央図書館及び子育て支援施設等において、年間237回おはなし会を実施し、4,581名の参加があった。</li> <li>・委託業務により、児童フロアへ育児コンシェルジュを配置し、読み聞かせや本の紹介・相談を925組に行った。</li> <li>・委託業務により、読書応援タイム(育児コンシェルジュによる図書館託児)を年間33日実施し、374人の利用があった。</li> </ul>					
課題・対応方向	・おはなし会の開催施設数が大幅に増加した半面、団体貸出利用施設率が昨年度を下回った。今後もボランティアとの協働の下、子どもの読書活動を推進することに努める。					
外部からの意見	・おはなし会開催のため、図書館からおはなしボランティアを派遣してくれるので有難い(市内幼稚園職員)					
担当課	中央図書館					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
おはなし会の開催施設数	5施設	8施設	19施設	20施設	20施設	B
団体貸出利用施設率	23%	37%	26%	35%	50%	C

事業名	2-1-5 計画的な生涯学習関連施設の整備	決算額	183,268(5,995)			
目的	生涯学習関連施設の管理や整備、有効活用など、市民が安全に学習活動を行うことができる環境を提供する。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷州公民館大規模改修工事(令和5～6年度継続)</li> <li>・北守谷公民館改修工事实施設計(工事施工:令和6～7年度)</li> <li>・中央図書館大規模改修工事基本設計・実施設計業務に係るプロポーザル(事業者選定)(工事施工:令和7～8年度)</li> <li>※高野公民館:令和8年度 実施設計、令和9～10年度 工事施工(予定)</li> </ul>					
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズに配慮した安全で快適な施設の整備を進める必要がある。</li> <li>・中央図書館大規模改修工事に向けて、市民の意見を基本設計に反映させる</li> </ul>					

	め、ワークショップ等を実施する。 ・公民館改修工事に当たっては、利用者の活動状況に配慮した設備、備品の整備に努める。														
外部からの意見	・録音機器・設備の整った場所があると良い。(音訳、朗読ボランティア) ・多目的ホールの音響設備が古すぎる。改装時新しくしてほしい。(北守谷公民館利用者) ・ホールがとてもきれい。音楽コンサートが楽しみです。(中央公民館利用者) ・駐車場の混雑が緩和されて良かったです。(高野公民館利用者)														
担当課	生涯学習課、中央図書館														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>R2(基準値)</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6(見込)</th> <th>目標値</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大規模改修済の生涯学習施設の割合</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>20.0%</td> <td>40.0%</td> <td>80.0%</td> <td>C</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	大規模改修済の生涯学習施設の割合	20%	20%	20.0%	40.0%	80.0%	C
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況									
大規模改修済の生涯学習施設の割合	20%	20%	20.0%	40.0%	80.0%	C									

事業名	2-1-6 安心できる子どもの居場所提供	決算額	326,803(303,265)
目的	学校施設をはじめ、子どもたちにとって安心・安全な活動拠点を設け、地域の方々の協力を得て、「放課後子ども教室」と「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」を一体的に実施し、遊び、勉強やスポーツ・文化活動を通して交流を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設を借用し、放課後児童クラブ(以下、「児童クラブ」という。)におけるコロナ禍に配慮した活動を継続した。</li> <li>・放課後子ども教室の再開に向けて、児童数増及び守谷型カリ・マネに対応するため、対象学年の制限、活動時間の変更等に対応できるよう規則改正を行った。</li> <li>・黒内小学校区の児童数増に対応するため、民設民営児童クラブの令和6年4月開所に向けて、公募型プロポーザル方式により補助対象事業者(2事業者・定員全81名)を選定し、開所までに必要な支援を行った。</li> </ul>		
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが小学校入学を機に共働き世帯が増える傾向にあるため、新1年生の入所希望者数を見積もることに苦慮している。毎年増加している校区については、前年度の利用割合より多めに見積もり、部屋の確保や支援員の増員を行う。</li> <li>・昨今、支援員の入替わりが多く見られるため、子どもと支援員の信頼関係を構築するためにも、常勤支援員を増やす必要がある。</li> <li>・放課後子ども教室の再開に当たっては、放課後の学校施設使用が必須であるため、学校の理解・協力を得て、円滑な事業実施に努める。</li> <li>・今後、策定を予定している小中学校の適正配置基本方針に注視し、必要な部屋数の確保等を行い、待機児童ゼロの継続に努める。</li> <li>・今後、児童クラブ専用棟の老朽化に伴う改修が必要になる。学校施設の改修と調整しながら、計画的に取り組む。</li> </ul>		
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びや室内遊びの時間を増やしてほしい。(児童)</li> <li>・嫌なこともあるけど楽しいことの方がいっぱいあるから楽しみ。(児童)</li> <li>・先生の対応が良くてケガしたときやおなかが痛いときでも言いやすい。(児童)</li> <li>・楽しいけど、宿題や勉強をする時間を増やしてほしい。(児童)</li> <li>・タブレットが自由に使える時間がほしい。(児童)</li> <li>・欠席連絡に関して、学校からクラブに伝わるようにできないか。別々に両方連絡しなければならないのを改善してほしい。(保護者)</li> </ul>		

議案	頁数
35号	40

	・毎日楽しく過ごしているようです。いつも色々と気にかけていただき、ありがとうございます。(保護者)					
担当課	生涯学習課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
児童クラブの待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	A
放課後子どもプラン利用率 ※R3/R4は、子ども教室未実施	33.0%	29.7%	35.9%	35.0%	35.0%	A

## (2) スポーツを楽しむ環境づくり

単位：千円(前年度)

事業名	2-2-1 スポーツを気軽に楽しめる機会の創出	決算額	688(350)			
目的	子どもから高齢者まで、また、障がいのある人もない人も、これまでスポーツをしなかった人も、より多くの市民が日常的にスポーツを楽しむことができる機会・場を提供する。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で例年の事業ができない期間に既存事業の在り方を見直し、実施体制、実施手段や方法、必要性などの観点から事業の見直しを図り、事業のリニューアルを行った。</li> <li>・スポーツ月間(10月)に、「MORIYA リレーマラソン」(市スポーツ協会共催)のほか、「あそびバ！ in 守谷」を開催し、運動・遊びを通して運動の基礎を学び、親子でボール遊びを楽しむイベントを開催したことで、比較的参加が少ない子育て世代(働き世代30歳代・40歳代)に運動体験の場を提供することができた。</li> <li>・学校体育館やグラウンドを学校教育に支障のない範囲で開放し、市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場を提供した。</li> </ul>					
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動習慣を身に付けるためには、普段から積極的に歩くこと、家事で体を動かすことや仲間と意識してスポーツを楽しむこと等が挙げられているが、子育て世代(働き世代30歳代・40歳代)への働き掛けが難しい。</li> <li>・引き続き、運動遊びを通じて、楽しみながら自然と身体活動が行える取組を推進し、親子で参加できるイベント等の実施に取り組む。</li> <li>・茨城県が推進する「いばらき健康寿命日本一プロジェクト」と連携し、運動や健康づくりのための取組を行うことで、インセンティブを得ることができる仕組みの導入を検討する。</li> </ul>					
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが「ボール遊び」を楽しんでいると感じてくれた。親子でたくさん遊び、自分も運動不足を解消したい。(「あそびバ！」参加者)</li> <li>・毎夏、子どもたちの熱中症対策に苦労しています。体育館の空調を使用させてもらえれば、暑い最中の練習でも安心して指導できます。(スポーツ少年団指導者)</li> </ul>					
担当課	生涯学習課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
成人の週1回以上のスポーツ実施率	31.3%	59.7% (※1)	45.8% (※2)	50.0%	50.0%	B

※1 「スポーツによる地方創生官民連携プラットフォーム」実施アンケート調査より引用

※2 令和5年度スポーツ関係行事アンケート結果

議案	頁数
35号	41

事業名	2-2-2 子どものスポーツ活動の推進	決算額	2,084(3,107)				
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの健やかな成長に向けて、スポーツによる青少年の健全育成を支援する。</li> <li>子どもが運動・遊び等を通じてスポーツに親しむ習慣や意欲を養い、体力の向上を図る機会を提供する。</li> </ul>						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ少年団活動の周知や指導者の資質向上研修(年1回)を奨励し、活動を支援した。</li> <li>スポーツ少年団が守谷市の代表として出場する全国大会等の遠征費を助成し、活動を奨励した。</li> <li>正しい走り方を身に付ける「走り方教室」を開催し、子どもの体力・運動能力向上を図る機会を提供した。</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境が便利になったこと、遊ぶために必要な時間や遊ぶ場所が少なくなったこと等により、子どもたちの体力低下を招いており、子どもたちを成長させるために社会全体で見直しを行う必要がある。</li> <li>学校の授業だけでなく、行政や民間主催のスポーツイベントを通して、子どもたちがバリエーションに富んだ運動を体験し、スポーツの楽しさを実感することができるよう必要な情報発信を行う。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームのみんな、学校や市役所の皆さんが応援してくれて嬉しく思います。これからも頑張ります。(スポーツ少年団世界大会参加者)</li> <li>自分も走るのが得意ではなく、走り方を教えることができなかつたのですが、分かりやすく説明して下さったので助かりました。とても満足です。(走り方教室児童(小学1年生)保護者)</li> <li>本人が走ることに對して楽しいと感じるようになったようなので、参加させて良かったです。(走り方教室児童(小学2年生)保護者)</li> </ul>						
担当課	生涯学習課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	スポーツ少年団の団員数	547人	477人	490人	500人	650人	C

事業名	2-2-3 スポーツにかかわる組織の育成と連携協働の推進	決算額	19,518(8,110)				
目的	スポーツ推進を担う人材の発掘・育成・活用を進めるとともに、市スポーツ協会との連携・協働により、総合型地域スポーツクラブの創設を促進するなど、スポーツを取りまく様々な資源を有効に活用する。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進委員の指導により、学校行事、児童クラブ、自治会・町内会等に、だれもが気軽に楽しめるスポーツ(ボッチャ・モルック)を提供した。</li> <li>スポーツサポーターを募集し、主に、市スポーツ協会主催イベントで活用した。</li> <li>市スポーツ協会が、スポーツ振興施策を総合的に推進するためのパートナーとして成長できるよう、市職員1名を派遣し、組織の基盤整備及び運営体制の強化を図った。</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>市スポーツ協会が、収益事業による安定した自主財源の確保や、更なる運営基盤の強化が図れるよう、自立を促進し、支援を継続する。</li> <li>スポーツボランティアは、高校生世代の申し込みが増加している。年間を通じた参加を促進するため、定期的な情報発信を行う。ボランティア証明書を求められ</li> </ul>						

議案	頁数
35号	42

	るケースが多いため、即日発行できるよう検討する。					
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員と市スポーツ協会の連携が少なくなったように感じる。お互いの担当を把握し合ったり、一緒に活動できる場があっても良いと思う。(スポーツ推進委員)</li> <li>・第40回大会に元気に関わられて嬉しい。動けなくなるまで大会を支えたいと思います。(守谷ハーフマラソン運営委員)</li> <li>・初めてボランティアに参加しました。たくさんのスタッフの皆さんに囲まれて、有意義な一日を過ごすことができました。(ハーフマラソンボランティアスタッフ)</li> </ul>					
担当課	生涯学習課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
スポーツ協会の会員数	1,484人	1,624人	1,696人	1,800人	1,900人	B
スポーツボランティア登録数	50人	65人	45人	50人	75人	C
スポーツ推進事業に関わったボランティアスタッフの人数	10人	837人	1,011人	1,050人	1,100人	B

事業名	2-2-4 スポーツを活用した地域活性化	決算額	5,758(6,551)
目的	スポーツを他の様々な資源と結びつけることで、地域の魅力づくりの核とし、地域経済の活性化など地方創生につなげる。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のイメージアップや、関係人口・交流人口の増加につながる「第40回守谷ハーフマラソン」が、市スポーツ協会主催により開催され、その運営をバックアップした。</li> <li>・誰もが気軽にスポーツに親しむ機会を提供する取組として、市の歴史・文化財等ゆかりの地や公共施設をチェックポイントに設定したロゲイニング(ナビゲーションスポーツ)を企画し、誰もが無理なく自分のペースでウォーキング・ランニングを楽しめる機会を提供した。</li> </ul>		
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民を対象に、スポーツへの参加とその継続を促進するための事業を実施し、参加者相互の交流を通して、地域の活性化を図る必要がある。</li> <li>・「守谷ハーフマラソン」の開催に当たり、市スポーツ協会・市・市教育委員会の共催事業とすることで、独立行政法人日本スポーツ振興センター(toto)の助成事業を活用することが可能となるため、財源確保に向けて、大会実行委員会組織の再編を図る。</li> <li>・「守谷ハーフマラソン」の部門拡大(小中学生の部再開)に向けて検討する。</li> </ul>		
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動不足解消のために、孫と参加しました。置いていかれないように一生懸命歩きました。久しぶりにいろんな会話をしながら歩くことができ、良い一日になりました。(ロゲイニング参加者)</li> <li>・ロゲイニングは、設定するチェックポイントによって、様々な目的達成、課題解決が可能で、地域活性化の手段に活用できるスポーツです。担当職員の皆さんと意見を出し合いながら、良い企画になったと思います。参加者の皆さんの清々しい笑顔を見て嬉しくなりました。(ロゲイニング企画協力者)</li> <li>・ハーフマラソン2回目の参加です。スタッフの皆様の対応がとにかく素晴らしく感じます。応対や誘導など相互に連絡を取りながら対応されていました。全体的な運営も素晴らしく人気のある大会であることが伺えます。(守谷ハーフマラソン参</li> </ul>		

	加者) ・初めて参加しました。思っていたよりアップダウンが多くタフなコースでしたが、沿道の応援が素晴らしく、走っていてとても励みになりました。駅から会場まで距離がありますが、シャトルバスでのアクセスもよく、ストレスは全く感じませんでした。おもてなしも充実しており、とても満足いく大会でした。(守谷ハーフマラソン参加者) ・初めて参加しました。レース後、荷物を取りに行ったところ、先にゼッケンを見てくれ、声をかける前に荷物が出てきて、小さなことですがそれだけで感動してしまいました。もう、それだけで大満足な大会でした！(守谷ハーフマラソン参加者)						
担当課	生涯学習課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	守谷ハーフマラソンエントリー数	未実施	3,584人	4,285人	5,000人	5,000人	B
	スポーツ振興事業参加者数(守谷ハーフマラソン除く)	326人	2,630人	2,677人	2,800人	3,000人	B

### (3) 心の豊かさを育む芸術・文化の振興

単位：千円(前年度)

事業名	2-3-1 芸術・文化に触れる機会の充実	決算額	4,602(4,646)				
目的	公共施設の設備や特色を生かした事業展開を行うとともに、多様な芸術・文化を紹介し、気軽に参加できる活動や芸術・文化に触れる機会を提供する。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術祭、美術作家展に加えて、中央公民館ギャラリーにおいて、郷土作家による個展を開催し、身近な場所で優れた作品を鑑賞できる機会を提供した。</li> <li>・中央公民館ホールを活用し、指定管理者による会場参加型イベント「なつかしの音楽の時間」(コロナ禍前の人気イベントを再開)、文化芸術体験講座「能の世界」を開催し、多くの市民に気軽に楽しく音楽や伝統文化を体験できる場を提供した。</li> <li>・アークスプロジェクトの活動をPRするとともに、国内外の若手アーティストとの交流や現代アートを知る機会を提供した。</li> </ul>						
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の芸術文化の創造拠点として市民文化ホールの建設要望がある。</li> <li>・これまで挙げられた施設建設等のハード面及び事業運営等のソフト面での要望を踏まえ、市の芸術文化振興に関する新たな方向性を検討する。</li> <li>・令和6年度に第40回を迎える「守谷市美術作家展」を通して、郷土に根付く美術作家の優れた作品を、より多くの市民に鑑賞してもらえよう記念事業の準備を進める。</li> </ul>						
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル活動で公民館にきたら、思いがけず素敵な作品を観ることができた。個展とまではいかないと思うが、こういう機会がたくさんあると嬉しい。(市民・公民館利用者)</li> <li>・著名人の公演が市内で鑑賞できると嬉しい。(市民)</li> </ul>						
担当課	生涯学習課						
	成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
	直近1年間に芸術・文化に親しんでいる市民の割合	34.1%	36.4% (※1)	33.3% (※1)	45.0%	57%	C
	中央公民館ホールを活用した芸術・文化事業開催数	15回	47回	50回	50回	50回 (※2)	A

※1 中央公民館ホール芸術・文化事業入場者数、美術作家展・芸術祭来場者数／人口(各年.3.1 現在)

※2 当初設定した成果指標の目標値(R8)は、基準値(R2・コロナ禍)の数値をもとに、当初「24 回」を見込んだが、R4 及び R5 の実績に鑑みて 50 回に修正する。

事業名	2-3-2 芸術・文化活動の支援	決算額	1,485(1,485)			
目的	芸術・文化活動は人々に安らぎや生きがいを与え、連帯感やコミュニケーションにつながることから、守谷市文化協会やサークルの自主的な芸術・文化活動を支援する。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種サークル・団体を統括する守谷市文化協会(以下、「市文化協会」という。)を支援し、芸術・文化の振興と普及、活動の推進を図った。</li> <li>・芸術文化活動団体のそれぞれの特性を生かした活動が活性化し、その成果を多くの市民に提供できるよう、基準を満たした事業に関して後援承認し、必要な情報発信を行った。</li> </ul>					
課題・対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くのシニア層が活発に活動する一方で、将来の芸術・文化活動を担う若い世代や子どもたちの活動が少ない。</li> <li>・中学校部活動地域移行推進事業と連携し、市文化協会や市民アーティストが子どもたちの活動を支援したり、指導に当たるなどの仕組みづくりを検討する。</li> </ul>					
外部からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々少しずつだが会員も増えています。50 周年を目前に協会全体で記念になる取組を考えています。芸術文化を振興し、これからも、守谷市の発展と市民の文化交流に努めたいと思っています。(文化協会役員)</li> </ul>					
担当課	生涯学習課					
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況
文化協会事業開催数	8回	28回	28回	28回	30回	B

#### (4) 歴史・文化資産の継承

単位:千円(前年度)

事業名	2-4-1 歴史・文化財を知る機会の提供	決算額	7,159(640)			
目的	積み重ねてきた歴史・文化を尊重するため、子どもたちをはじめ市民が市の歴史・文化や文化財を知るとともに、保存・活用しようとする意識の高揚を図る。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・守谷市の歴史・文化を網羅的に閲覧できるデジタルミュージアムを整備し、歴史・文化等郷土資料及び文化財を公開した。市民が地域の歴史・文化を知り、探求的に学び、後世に伝えたり、知的活動につなげることが期待できるデータベースとなった。</li> <li>※新規コンテンツ:埋蔵文化財(土器・石器)、住居模型等 98 点、映像資料(とうろう踊り、守谷小唄等)5 種、図書館資料(守谷現代史、八坂神社の祇園祭報告書等)</li> <li>・市の歴史や文化財を知る機会を提供するため、ウォーキングやランニングで地図をもとに時間内に指定文化財所在地等を回り、得点を集める「守谷の歴史満喫ロゲイニング(ナビゲーションスポーツ)」を開催し、市内外から参加者が集まった。</li> <li>・文化財保護週間(11 月1日～7日)に「勾玉作り教室」を開催し、作るだけでなく、実際に市内で発掘された勾玉を見ながら、その由来を学ぶ機会を提供した。幅広い年代が参加し、異世代交流の場となった。</li> </ul>					

議案	頁数
35号	45

課題・ 対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財や刊行物の内容に関する問い合わせが増えている。</li> <li>特に子どもたちに、分かりやすく、楽しみながら郷土の歴史・文化、文化財を知ることができるよう、デジタルミュージアムに子ども向けのページを設けるなど、より関心を持てるような取組を行う。</li> </ul>						
外部からの 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルミュージアムの利用を促すような工夫が必要だと思う。小学校などの歴史資料として、タブレットから見られる教材として生かすことができるような興味を引く取組が必要だと思う。(文化財保護審議会委員)</li> <li>勾玉作りに興味があって参加しました。思いがけず、勾玉に関することを教えてもらい勉強になりました。(勾玉作り教室参加者)</li> </ul>						
担当課	生涯学習課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
市内の指定文化財の件数	21件	21件	21件	22件	22件	B	

事業名	2-4-2 歴史的資源を活用したまちづくりの推進	決算額	0(0)				
目的	地域の文化財の特徴を周辺環境も含めて学び、理解し、共有するとともに、都心近接でありながら自然豊かな環境を持ち合わせる市の魅力を生かし、郷土の誇るべき資源を次世代に継承するとともに、ひとづくり、まちづくりに活用する。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民団体等が行う自然環境・文化資源の活用による地域づくり(守谷城址の整備、立沢里山の保全、高野公民館山百合の生育など)を支援した。</li> <li>守谷市観光協会(以下、「市観光協会」という。)の協力を得て、市指定文化財「守谷城址」の指定範囲を整理し、土地の取得等を含めた保存・継承について検討した。</li> </ul>						
課題・ 対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>守谷城址の文化財指定範囲を特定し、市全体で保護に取り組むことを求める声がある。当該エリアには、個人所有の土地が混在しているが、文化財(史跡)の保存のため、所有者の財産権を尊重しつつ指定範囲の公有地化(買取・寄付等)について検討する必要がある。</li> <li>引き続き、市観光協会の協力により、範囲特定のための調査・研究を進めるとともに、指定に当たっては、文化財保護審議会に諮問し、意見を求める。</li> </ul>						
外部からの 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>守谷の古城が最近綺麗に整備されて見学しやすいとの噂を聞き立ち寄った。城址各所のイラスト説明板がよくできていて楽しかった。よく保存されている。会員にも紹介したい。(守谷城址来訪者)</li> <li>城址のすぐ向こうに住宅地と高層マンションが見える。戦国時代と現代が同じ空間に見える。他にはないロケーションです。(守谷城址来訪者)</li> <li>守谷城址と守谷野鳥のみちが直結するのが、今からとても楽しみです。(守谷野鳥のみち来訪者)</li> </ul>						
担当課	生涯学習課						
成果指標	R2(基準値)	R4	R5	R6(見込)	目標値	達成状況	
歴史・文化の伝承に連携・協力する団体数	1団体	1団体	1団体	2団体	2団体	C	
野鳥のみち・守谷城址を訪れた人数	113,444人	55,851人	80,376人	63,000人	67,100人	A	

議案	頁数
35号	46

## ◇生涯学習の推進に対する点検評価委員の意見 記載予定欄

### (1) 自主的な学習活動の支援と機会・場の提供

#### ・子どもの読書活動の推進について

タブレットや ICT 機器の活用も大切ですが、子どもたちが本を手にしたの読書活動は新たな知識を得るだけでなく、情操教育や豊かな心の育成にも役立つと思うので、継続して取り組んでいただきたい。

#### ・安心できる子どもの居場所提供について

児童クラブの待機児童ゼロは素晴らしい。自分が大井沢小に勤務していたときは、月に1回、地元のサッカークラブのコーチが来て、サッカー教室をやってくれていたが、そういった、子どもたちが放課後楽しめる取組をお願いしたい。

#### ・生涯学習推進の一環として、文化・芸術面で積極的に参加できるイベントの開催や場の提供、文化・芸術への興味を育てる働き掛けを取り入れてほしい。スポーツと文化の両者をバランスよく推進することが、社会全体の豊かさに繋がると考える。

#### ・中央図書館の利用者も増加する中、改修工事を進めていくこともニーズに応じた適切な対応と言える。今後とも、本に触れる機会を増やしていつてもらいたい。

### (2) スポーツを楽しむ環境づくり

#### ・市スポーツ協会の自主財源確保からスポーツボランティアの募集まで、スポーツに関する環境づくりが着々と進んでいる。守谷ハーフマラソンに加えて、ヤクルトスワローズの2軍が来るという話もあり、スポーツ都市として発展していくことを期待している。

#### ・スポーツ推進のために、新たな取組を進めていることはとても素晴らしい。守谷ハーフマラソンも活況を呈しており、ますますの充実を願っている。ロゲイニングについても興味を持った。

### (3) 心の豊かさを育む芸術・文化の振興

#### ・各施設が改修されるなど環境が整う中、内容も充実していることはとても良いと思う。

### (4) 歴史・文化遺産の継承

#### ・ロゲイニングを使って守谷市の歴史・文化を理解する機会は、とても良いと思う。

議案	頁数
35号	47

## 4 感染症対策実施状況

### I 学校教育における感染症対策（学校教育課・教育指導課・学校給食センター）

#### 1 施設衛生環境の向上

内 容	経費実績
手指消毒用ジェル(寄付品)配布	0 円
ハンドソープ、ポリエチレン手袋配布	619,564 円
加湿器用クエン酸配布	179,520 円
嘔吐における食器の消毒液配布	84,240 円

#### 2 活動面での感染症対策

内 容	経費実績
なし	

### II 社会教育活動における感染症対策（生涯学習課・中央図書館）

#### 1 施設衛生環境の向上

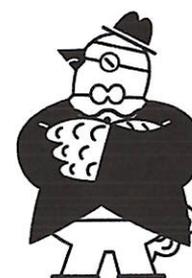
内 容	経費実績
手指消毒用ジェル(寄付品)配布	0 円

#### 2 活動面での感染症対策

内 容	経費実績
児童クラブにおける感染症対策にかかる部屋の増設及び支援員の増員 ※密回避のため、1部屋当たりの定員を減らし、各学校とも校舎内特別教室等を借用して運営した。	45,051,323
放課後子ども教室実施中止 ※放課後子ども教室活動時に借用する校舎内特別教室等を、児童クラブ室として使用したため、活動場所に不足が生じた。	▲31,942,000

#### ◇感染症対策実施状況に対する点検評価委員の意見

・感染症が第5類移行となったことで、対応も縮小してきた。しかし、これまで対応してきたことは経験値として生かされると思う。大変な対応であったが、通常に戻ることは望ましいと思う。



議案	頁数
35号	48

## 〈点検評価委員会委員 総括意見〉

令和5年度守谷市教育委員会の活動に対する全体評価として、点検評価委員の皆様からいただいた総括意見は以下のとおりです（掲出は50音順となっています）。

元取手市立藤代南中学校校長

取手市教育委員会スポーツ振興課 学校教育指導員

黒羽 勉

今回もていねいな説明をありがとうございました。

「水と緑のパワースポット もりや ～持続・創造・進化するまち～」の実現に向けて教育改革に取り組まれているとのこと、「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」の教育目標のとおり、すべてにおいて子どもたちを大切にし、子どもたちを第一に考えながら、様々な施策に取り組まれているところに感銘を受けました。

現在の教育課題は、複雑かつ多種多様にわたっており、どれを取っても簡単なものではなく、長い時間と多くの労力を要するものばかりです。しかし守谷市では、教育委員会と学校現場が一枚岩となって、先進的な「守谷型カリキュラム・マネジメント」を提案し、実践していくことで、教育課題を解決し、毎年着実に成果が上がっているということを感じました。全国的にも有名になった「守谷型カリキュラム・マネジメント」は、完成期、円熟期に入っているようにも感じます。先進的な取組として、さらに良いものにしていってください。

今回は、御所ヶ中学校と御所ヶ丘小学校を授業参観させていただきました。ICTの活用や学び合いなど素晴らしい実践がたくさんありましたが、一番に感じたのは、児童生徒一人ひとりに学ぶ姿勢がきちんと身に付いているということです。学ぶための土台がしっかりとできているので、すべての児童生徒が生き生きと学習していました。これこそがあるべき学校の姿だと思います。素晴らしいです。

現代社会は、何が起こるか分からない予測不能の時代と言われています。そんな中でも、子どもたちの笑顔を守るため、教職員の職場環境を整えるために、日々全力で奮闘されている教育委員会の皆さまに敬意を表するとともに、益々の御活躍を期待しております。

議案	頁数
35号	49

温帯とは思えないような暑い日々が続くが、小中学校とも体育館に空調設備が整い、体育学習も伸び伸びと活動できて素晴らしい。

(点検評価結果検証のために実施した学校視察において) 御所ヶ丘中学校では、熱心に作業や学習する姿に模範的な中学生たちと感じた。御所ヶ丘小学校では、針を使う授業やタブレットを使って算数学習に集中する授業に感心した。学力が定着し向上する理由は、この点にあると思った。行政が環境を整え、学校では有効に活用し児童生徒の成長に生かされている。

図書館の充実が図られており、学校との連携も図られている。書店の数が減り、文字離れも進む中、良書を手にする環境を整えることは行政側の大きな役割と考えられる。是非とも、親子と一緒に絵本を読んだり、ブックトークできるような場を増やしていただきたい。

学校給食の充実にも感謝したい。食材も高騰する中、工夫したメニューで子どもたちに相応しい食事を提供している。相当の努力を重ねていると推測できる。児童生徒の身体的健康を支えるだけでなく、登校意欲も担っている。給食を楽しみとして登校している子どもたちは多い。また、家庭の貧困も言われる中で給食の存在は大いに意義がある。

学校現場では、子ども中心の活動が進んでいることと思う。先生方も、保護者を含めて、かなりの対応力が求められる状況にある。学校、教員を支援することで、児童生徒の笑顔が増えていくことを期待する。

行政の人的支援・物的支援に感謝したい。

議案	頁数
35号	50

令和5年度は「アフターコロナ」への転換の1年だった。教育の機会への制限がほぼなくなり、ただ従前に戻すのではなく大変意欲的な取組がなされた。その中でも、コロナ禍で一気に浸透したタブレット端末による教育のデジタル化と、学校と地域社会が協働で取り組む施策に注目した。

タブレット端末が全児童生徒に配付されて数年が経ち、授業に積極的に導入されたことで子どもたちも操作に慣れ親しんだ様子だ。タブレット端末でのオンライン英会話にも取り組んでいるという。視察においては、低学年から中学生まで難なく操作し、資料を作成し、それを提示しながら発表を行うという、自己発信のツールとして活用するデジタルスキルの高さに関心し、素晴らしく思った。

それを可能としているのは、現場で支える教職員への研修等、学びを支える環境づくりもよく練られているからであり、今後もICT関連のみならず、優れた教育を提供するための支援策を継続していただきたい。

学校と地域社会の連携については、御所ヶ丘中学校区での「コミュニティ・スクール」をテストケースとして体制づくりが進められた。地域の企業や人々が学校活動に参加することで、児童生徒は実践的な学びを深め、社会性や協調性を育むことに繋がっていく。

今年度の成果からは全市へ範囲を拡大した際の課題も見えてくるだろう。よく精査し、より適切な施策を検討しながら継続・発展していくことに期待したい。

学習の場としての各公共施設の改修等の整備が進められたことは喜ばしいことだ。年齢層やバックグラウンドに関係なく、地域社会全体の学びを提供する場が増えれば、教育へのアクセシビリティが向上し、さらに場の人的交流が盛んになることで、地域連携を通じて児童生徒の教育環境へ循環させていけるのではないだろうか。

以上が令和5年度の教育施策で注目した内容である。

ひとつ加えるならば、子どもたちの興味や関心に応じた多様な教育プログラムの導入と推進を望みたい。STEAM教育と言われるところの、科学技術やアート、リベラルアーツなど、特別活動を強化して横断的な学びを深めることは、自主的に学ぶ力、論理的思考からの深い考察と、創造的な問題解決能力を培い、豊かな人間性を育むだろう。それこそが市の教育目標である「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」を具現化する手法のひとつであると考えている。

議案	頁数
35号	52

令和6年度（令和5年度対象）  
教育委員会の点検・評価結果報告書

令和6年 月発行



守谷市教育委員会 事務局 学校教育課

議案	頁数
35号	53

# 令和6年度各小中学校における成果と課題

(令和5年度実績評価)

大井沢小学校	・ ・ ・ ・ ・	1 ページ
大野小学校	・ ・ ・ ・ ・	2 ページ
高野小学校	・ ・ ・ ・ ・	3 ページ
守谷小学校	・ ・ ・ ・ ・	4 ページ
黒内小学校	・ ・ ・ ・ ・	6 ページ
御所ヶ丘小学校	・ ・ ・ ・ ・	7 ページ
郷州小学校	・ ・ ・ ・ ・	8 ページ
松前台小学校	・ ・ ・ ・ ・	9 ページ
松ヶ丘小学校	・ ・ ・ ・ ・	10 ページ
守谷中学校	・ ・ ・ ・ ・	11 ページ
愛宕中学校	・ ・ ・ ・ ・	12 ページ
御所ヶ丘中学校	・ ・ ・ ・ ・	13 ページ
けやき台中学校	・ ・ ・ ・ ・	14 ページ

○学校評価とは

子どもたちがより良い教育を享受できるよう、また、保護者や地域との連携・協力体制をより促進していくため、学校の教育活動や運営状況等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組のこと。

市内の学校では、毎年度策定するグランドデザインの中で組織目標や重点目標等を設定し、年度末に、目標値の達成度合いや児童生徒・保護者対象アンケート結果等を基に、教育活動状況等の実績を評価しています。

評価基準については、県立中等教育学校・高等学校等で採用されている基準を参考に、5段階評価としています。

○評価書中語句の注釈

語句	意味	掲載ページ
CSE (Common Scale for English)	2016年度から英検で導入。リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングについて国際的な評価基準で評価するスコアシステム。	2
デジタル・シティズンシップ	優れたデジタル市民になるために必要な能力を身につけることを目的とした教育。情報リテラシーやモラルを押さえた上で自律的に ICT 環境を活用できるようにするための教育方針のこと。	3、4、6、11
ESG (Elementary School Goals)	小学校卒業時の英語力目標の到達状況を、学習指導要領の求める範囲内で確認することができる英検プログラム。	2、10
GT (Guest Teacher)	学校の授業などに招かれた、一般市民の指導者のこと。	1、12
HRT (Homeroom Teacher)	学級担任。	9
PDCA (Plan-do-check-act cycle)	計画し、実行に移し、それを評価し、改善していくフロー。R (Research 実態把握) を付けて、検証改善サイクルともする。	2、10、12
QU (Questionnaire-Utilities)	より良い学校生活と友づくりのためのアンケート。hyperQU は、QU の診断尺度に、対人関係のスキル (ソーシャルスキル尺度) の診断尺度を加えた検査。	2、9、11、12
SC (School Counselor)	心理についての専門性を持ち、学校において、児童・生徒が抱えるさまざまな課題について解決のための助言や指導などを行う。助言や指導の対象は、児童・生徒・保護者のほか教職員も含む。	6、11、13
Small Talk	英語活動において、あるテーマのもと指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること。	13
SST (Social Skills Training)	円滑な人間関係を構築するためのスキルを習得するためのトレーニング。	2
SSW (School Social Worker)	福祉の専門性を持ち、児童・生徒の最善の利益を保障するために、学校などにおいてソーシャルワークを行う専門職。	6、10、11、13
STEAM	科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術 (Arts)、数学 (Mathematics) の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた、分野横断的な学び	12
TT (Team Teaching)	複数の教師が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式。	11
UD (Universal Design)	特別な支援が必要な子を含めて、通常学級におけるすべての子が楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指す授業デザイン	1、8、12
VUCA	V (Volatility: 変動性)、U (Uncertainty: 不確実性)、C (Complexity: 複雑性)、A (Ambiguity: 曖昧性) からなる造語。先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態。	6

35号 56	学校名 大井沢小学校	教育目標（組織目標）	「安心できる学校づくり」「働き方改革の推進」		
令和5年度取組概要・目標値		自己評価（成果・達成状況）		今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
I STEM プログラム	<p>■目標値</p> <p>① みんなにすすめたい一冊の本推進事業達成度 80%以上</p> <p>② 全国学力・学習状況調査、県学力診断テストの正答率 前年度+2ポイント以上である教科の割合 75%</p> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>UDの授業の視点を生かした主体的・対話的で深い学びの実現</li> <li>学びのプランの具体化</li> <li>分かなささと間違いを大切に授業デザイン</li> <li>守谷市教科担任教職員（高学年：理科・音楽・図工）や中学年教科担任制を取り入れた授業の展開</li> <li>200字作文等の表現活動の実施</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <p>・目標値①は54% →目標には届かなかったが、前年度より3%上がった。今年度は図書委員による、本校の「夢カケルプロジェクト」と絡めた読書推進活動が行われ、読書意欲の向上へとつながった。</p> <p>・目標値②は71% →学力診断テストについては、小5・6年は全教科で目標値達成。小4は目標値に届かなかった。小6の全国学力は目標達成。</p> <p>・中・高学年で、担任の専門性を生かし、学級の垣根を越えての交換授業を行った。得意分野を生かした授業実践を日々行えた。学年を多くの教諭の目で見て、最後まで頑張ろうとする児童が増えた。</p>	<p>・学校図書館の利用方法や読書数の記録を簡素化する。</p> <p>・一冊の本推進事業の目標値と各学級や学校全体の定期的な達成目標を周知徹底していく。</p> <p>・漢字や計算といった基礎学力の定着と、様々な問題に触れる機会を増やすことが必要である。本校で行っている昼学習の充実を図り、その機会を増やしていく。</p> <p>・児童にとって分かりやすく、達成感のある授業を展開することが、学習意欲及び学力向上のために必要である。見通しの持てる授業、スモールステップによる学びなど、UD授業の視点を生かした実践について、校内で共有し、授業改善につなげていく。</p>	<p>・授業を見学し、自分の考えをまとめ、表現することを実践していることが確認できた。</p> <p>・児童はとく質問に「知っているよ」と即答することが多いと思うが、「知らない」と素直に表現できる環境作りが校内で芽生えていると感じた。</p> <p>・読書離れが問題となっている現代を考えると、小学生の頃から読書の楽しさを覚えてもらいたいと願っている。</p>	
II ハート フォー ユー マン プログラム	<p>■目標値</p> <p>① 「学校が楽しい」と思っている児童の割合 90%以上</p> <p>② 「自分には良いところがある」と思っている児童の割合 70%以上</p> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめをなくそう 仲良し週間」の実施</li> <li>「考え、議論する」道徳の授業の展開</li> <li>学びプラン（生活）の日常化</li> <li>いじめ対策本部を核とした、打って出る生徒指導の充実</li> <li>人権教育の推進と人権メッセージカードの作成及び生命尊重</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <p>・目標値①は98.8% →目標値より高い児童が、学校が楽しいと感じている。</p> <p>・目標値②は86.9% →目標値より高い児童が、自分には良いところがあると感じている。</p> <p>・児童の頑張りを認め合う「夢カケルプロジェクト」を実施することで、自分に自信を持つ児童が増え、いきいきと生活することができた。</p> <p>・いじめをなくすために、道徳教育・人権教育と関連付け、DVDを視聴したり、道徳の授業実践を行うとともに、年度始の授業参観で保護者にもいじめについて話し、協力を仰いだ。</p>	<p>・来年度も、「夢カケルプロジェクト」を継続し、児童が自分自身に自信をもって生活できるようにすると同時に、お互いを思いやる気持ちを醸成する学校づくりに努めていく。</p> <p>・他者と本音で語り合うことができる「考え、議論する」道徳の授業展開を構築し、いじめについての授業を全学級で実施し、全員居場所があり、温かみのある学級経営に努める。</p> <p>・児童が何でも相談しやすい関係づくりを構築し、いじめを絶対に許さない学校づくりに努めていく。また、早期発見・早期対応等について、組織で対応していく。</p>	<p>・学校は楽しい、自分には良いところがあると思っている児童の割合が目標を大きく上回っており素晴らしい。さらに人に優しい、自己肯定感を高められるようお願いしたい。</p> <p>・いじめ問題はいじめの側には、家庭内や友人関係でのことなどのストレスや誤解等であり、それを解消するために言動として表れているのには、教職員の方がその一部でも把握され、指導を粘り強く継続してもらいたい。</p>	
III ヘルス & フィジカル プログラム	<p>■目標値</p> <p>① 体力テストA+Bの割合 男子50%以上 女子50%以上</p> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業を要とした体力づくりの日常化</li> <li>体育的行事の充実（運動会、持久走記録会等）</li> <li>体力向上のための休み時間の有効活用（ロング昼休みの設定週1）</li> <li>養護教諭や栄養教諭と連携した食に関する指導の充実</li> <li>安全・防犯教育の充実と危機回避能力の設定</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <p>・目標値①は男33.5%女39.4% →昨年度より、男1.7%、女5%増加した。外遊びが定着してきて、運動習慣が高まってきたが、目標値には届かなかった。</p> <p>・GTによる防災についての講話、引き渡し訓練時に地域の防災担当者による見守り活動等、命を守る実践を通して、危機管理能力の育成を図ることができた。</p>	<p>・運動習慣は確実に向上している。体力テストの結果を向上させるために、体育の時間に柔軟・跳ぶ・投げる要素を組み入れた運動を取り入れた運動を考え、体の使い方を知り、身に付けさせていく。</p> <p>・安全に避難するため、誰が授業に出ていても、どこからでも安全に避難できるよう安全経路を確認していくとともに、児童自らが、自分の判断で避難できるような訓練も行っていく。</p>	<p>・外遊びなど先生方の努力が感じられるが、体力テストの数値が低い。向上へむけて工夫した取組をお願いしたい。</p> <p>・遊びを取り入れた体力・気力の錬磨に期待している。</p> <p>・健康な体作りには、毎日の食生活がいかに大切なのか、養護・栄養教諭の先生方の御指導をお願いしたい。</p>	
IV ニュー ジェネ レーション プログラム	<p>■目標値</p> <p>① ALTとの交流や活動が「楽しい」と感じている児童の割合 85%</p> <p>② プログラミング学習が「楽しい」と感じている児童の割合 90%</p> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミング教育の実施</li> <li>英語教育の充実</li> <li>ALTと児童の対話的活動</li> <li>「守谷型 GIGA スクール構想」一人1台端末による、個に応じた学びの充実</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <p>・目標値①は89%→ほとんどの児童が、ALTとの交流が楽しいと感じている。</p> <p>・目標値②は90%→目標値の児童が、タブレットを活用したプログラミングが楽しいと考えている。</p> <p>・ALTが児童と一問一答したり、ゲーム活動を通してALTと関わる時間を作った。</p> <p>・高学年は全クラス補習の時間を設けて、不安や疑問を払拭する機会を作り、英語への意欲がわくよう個別対応した。</p> <p>・ICT支援員と連携し、プログラミングの授業を行うことができた。</p>	<p>・ALTと対話する時間を設けるようにし、英語が通じる楽しさを一人ひとりが味わえるようにしていく。</p> <p>・タブレットを活用し、デジタル教科書で自分の知りたい発音を聞き、理解を深めていけるようにする。</p> <p>・「プログラミング」という学習の意図が伝わるような声掛けやまとめの指導は教員側の主導で行って行く必要がある。</p> <p>・来年度は、タブレットを活用した「プログラミング」だけでなく、アンプラウトプログラミング（低学年向け）などを実施していく。</p>	<p>・タブレットを上手に使いこなすことが年々上達しているように思えた。</p> <p>・ALTが児童の支持を得て、楽しみながら同じ時間を過ごせているのは非常に良いことだと思う。</p> <p>・会議中にALTが放送で児童に指示を促している様子に驚いていたら、校長先生から、なるべく普段から児童に英語を日常生活の一部に取り入れていると説明を受け、素晴らしいと思った。</p>	
V パートナー シップ プログラム	<p>■目標値</p> <p>① 地域と連携した防犯組織 100人</p> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動に関する情報の発信（各通信・たより・HP等）</li> <li>保護者と地域の人的資源の活用</li> <li>学校行事等でのPTAとの連携</li> <li>父親の会による環境整備</li> <li>大井沢ヒューマンライブラリー(OHL)、里山の会による授業補助</li> <li>もりやコミュニティ・スクールボランティアバンクの活用</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <p>・目標値①は74人 →今年度から中学校区のコミュニティ・スクールが発足。目標人数には届かなかったが、引き渡し訓練時の見守り活動や防災施設の見学等を通して、アドバイスをいただくなど、地域の人的資源を活用できた。</p> <p>・防犯組織も含めた地域との連携は156名の人的資源を活用できた。OHLによる読みきかせ、里山の会との田植え、稲刈り体験などを行うことができた。また北守谷祭りが再開され、4年生が代表で参加し、ソーラン節を披露し、地域と共にある学校づくりにつなげることができた。</p>	<p>・本校独自のボランティア組織であるOHLを今後も有効活用していく。</p> <p>・もりやコミュニティ・スクールボランティア活用を充実させることで、地域と連携した防犯活動及びコミュニティ・スクールの発展につなげていく。</p> <p>・PTAと連携した「運動会」や「ワイワイおおいさわりは、子どもたちにとって楽しい行事である。また、今年度から北守谷祭りも再開した。来年度以降、子どもや保護者、地域の思いや教職員の働き方改革を考慮しながら、地域とともにある学校づくりに努めていきたい。</p>	<p>・HP等で保護者に対し情報発信が強化されているようだ。さらに地域への情報発信連携に期待する。</p> <p>・小学校のHP新着情報の中で、当校のHPが読みやすく好きだ。</p> <p>・校長先生の「子どもの良い所を見つけよう」という考えが素晴らしい。また、児童が楽しそうに通学している様子は、地域の住人の明るさにも繋がっている。</p>	

学校名	守谷市立大野小学校	教育目標 (組織目標)	「児童が意欲的に取り組む魅力的な授業をつくろう」 「児童が生き生きと活躍できる学校にしよう」	
	令和5年度取組概要・目標値	自己評価 (成果・達成状況)	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
Ⅰ ステップアッププラン	<b>■目標値</b> ①学力診断のための調査における平均正答率の向上 ②「授業が楽しい」と回答する児童 90%以上 ③家庭学習時間(10×学年+10分) 80%達成 <b>■取組概要</b> ・守谷型ラーニングスタイルを実践し、自ら学ぶ意欲を引き出す魅力ある授業づくりをする。 ・小中の系統性を意識した授業を展開し、学習習慣の確立と基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。 ・家庭学習の習慣の定着と充実を図る。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 <b>D 不十分</b> E できていない <b>■成果・取組結果</b> ①目標達成ならず。全学年で共通して国語がマイナスとなった。 4年は算数・理科が県平均よりプラス。国語と社会は県平均よりマイナス。 5年は全教科において前年比マイナス。特に国語と社会が低い。 6年は国語を除いた3教科において前年比プラス。 ②授業づくりの工夫により「授業が楽しい」と回答する児童 88.2% ③家庭学習時間(10×学年+10分) 73.7% 目標達成ならず-6.3%	・①/学力の二極化が見受けられる。国語の弱さは全学年に共通している。全ての児童が学びに向かうために、職員が主体的に組織目標を達成する態度を促進し、職員主体の方策を実行していく。 ・②③/全てのクラスにおける魅力ある授業の展開及び家庭学習習慣の定着と充実に向け、守谷型ラーニングスタイル(一人1台端末の効果的な持出し)についての職員研修(PDCA サイクル)が必要であるため、実行的な体制を作る。	・国語の力は全ての教科に通じる大切な力である。ICTの活用により、大人でも「読めれば良い」と考えがちであるが、漢字は「書いて覚えるしかない」。 ・インプットした後のアウトプットの機会を大切にしてほしい。コンピテンシーを伸ばすと良い。
Ⅱ ハートウォーミングプラン	<b>■目標値</b> ①hyper-QU 学級生活満足群 50%以上 <b>■取組概要</b> ・温かみ人間関係づくりのための基礎的スキルを身に付けさせる。 ・人権意識を高める。 ・特別支援教育的な視点による支援及び生徒指導の充実を図る。 ・「校内フリースペース」による心の居場所づくり ・守谷中校区きらめきフォーラム・あいさつ運動の実施	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ①週1のSSTの実施により、hyper-QU 学級生活満足群 55.6% ・「自分には良いところ(長所)がある」と回答した児童増加 78.8% (R4 72%) ・フリースペースの活用と関係機関との連携により昨年全欠であった児童(4年)が10月から週1回登校するようになった。 ・生徒指導の充実により「学校おひじめ問題に対して未然防止・早期発見・早期解消に努めている」と回答した保護者の増加(7月 65.9% → 12月 78.8%)	・①/本校研究テーマ「互いを尊重し合い、児童が主体的に活躍できる特別活動のあり方～話し合い活動の充実や交流活動の工夫を通して～」の実現に向けた実践により、親和的な学級集団と個々の自己肯定感が増加、継続していく。 ・保護者に対する、いじめ防止に向けた実効的な組織体制を認知いただく取組(PTA 総会にて定義・対応方針の説明)や児童に対する年間を通じた計画的な指導や児童主体の取組(いじめゼロ週間・人権集会)の実施が功を奏していることが伺えるので、今後も継続していく。	・「自分には良いところがない」と自分の短所ばかりに目が向いていた児童の変容が見られる。授業の中で児童を「ほめる」「認める」ことの積み重ねによって好転したのだと思う。引き続き、お願いしたい。 ・先生達はずも話をよく聞いてくれて感謝している。
Ⅲ フィジカルプラン & ヘルス&	<b>■目標値</b> ①体力テストA+Bの割合 前年度比より向上 ②毎日朝食を食べる児童 100% <b>■取組概要</b> ・危機回避能力を育成し、自分の命は自分で守る力を育てる。 ・体育的行事や授業の充実を図り、体力の向上を図る。 ・食や健康に関する教育を推進する。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ①体育授業の充実により 62.04%と前年度比より向上 (R4 52.0% R3 47.9%) ②目標達成ならず。94.8% (R4 93.9%) ・「安全に気をつけて生活している」と回答した児童 93.5%	・体幹を鍛える運動、体の使い方を客観視する活動を年度当初に取り入れた。体育授業におけるICTの活用(自らの動きをフィードバック・グットモデルの提示)・到達状況のリアルアナウンス、休み時間における日常的異学年交流は児童の技能や基礎的な体力の向上に功を奏した。 ・朝食を食べるの登校や充実した睡眠時間の確保においては依然課題がある。2月には学校保健委員会において「生活習慣の乱れ」について学校医から講演をいただいた。今後も家庭と連携した実践を積み重ねていく。	・成果のあった取組を今後も続けてもらいたい。 ・2月の学校保健委員会での学校医の講演は大変有意義であった。 ・多少の小雨なら送迎せずに歩かせても良いのでは。
Ⅳ ニューシェネレーションプラン	<b>■目標値</b> ①ICT 機器活用授業を「楽しい」と感じる児童 90%以上 ②オンラインによる校区内連携事業の実施 年間3回以上 <b>■取組概要</b> ・情報手段の基本的なスキルとモラルの定着を図る。 ・外国語活動及び外国語科の時間を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養う。 ・キャリア教育を推進し、自分の良さを生かして集団に貢献しようとする意識を高める。 ・守谷型 GIGA スクール構想を推進する。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ①ICT 支援員の協力により児童も指導者もスキルアップ 91.3% 目標達成 ②オンラインによる校区内連携事業の実施 年間4回実施 目標達成(6年薬物乱用防止教室・きらめきフォーラム・3年保健授業・入学説明会) ・「外国語活動及び外国語科の授業は楽しい」と回答する児童 89.8% ・ESG CSE スコアは R4 比-18 R3 比-50 と下降傾向 ・「自分は学級や学校のために役立てた」と実感している児童 76.6%	・職員間においてICTスキルに差がある。全てのクラスでICTが効果的に活用できるよう、どのクラス担任もICT支援員との連携が更に密になるシステムを整える。また、情報主任を中心に授業での効果的なICT活用に向けて、研修を積み重ねていく。 ・積極的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする児童の態度が醸成されているにも関わらず ESG CSE スコアが下降傾向にある背景には、言語能力の低さとの関連が考えられる。国語科をはじめとした全ての教育活動において、言語能力の向上に注力する。	・どの児童もタブレットを文房具のように使いこなしている。 ・外国語の支えとなる国語の力を付けるために、読書活動をがんばってほしい。正しく読み取ることは、全ての基本である。 ・ALT(外国人)に気軽に話しかける姿が今後の国際社会に役立つ。
Ⅴ パートナーシッププラン	<b>■目標値</b> ①地域人材の活用 各学年3回以上 <b>■取組概要</b> ・学校からの情報発信の充実にも努める。 ・保護者・地域の教育力を学校教育に生かす。 ・気軽に安心して相談できる教育相談を充実する。 ・幼小中高一貫教育を推進する。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> 読み聞かせ・米づくり学習・研修時教室見守り・筆教室・持久走記録会警備・まち探検・家庭科調理実習・家庭科ミニ学習・認知症サポーター講座 等 ① 各学年3回以上実施 目標達成 ・HP やポータルサイトからの情報発信の充実により「学校は積極的に情報発信している」と回答する保護者 98.5% ・地域人材の活用や体験活動の充実により「学校が楽しい」と回答する児童 94.2% (R4 90.6%) ・幼児教育施設からの授業参観3回 ・特支保護者(高学年)の意向を汲み取り、中学校授業参観・面談の実現。	・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行した5月から、地域人材を活用した豊かな体験活動や授業を数多く展開することができた。また、大野地区まちづくり協議会との活動や各種学校行事での交流を通して、学校ボランティアの増加(登下校ボランティア・読書ボランティア)、樹木の手入れを中心とした環境整備協力、保護者駐車場貸与申出など、更なる協力を生む好循環が続いている。学校教育活動に協力的な地盤を生かして、今後も豊かな教育活動を展開していく。 ・数値には表れていないが、守中区の共通実践である「あじみそ運動・隙間時間の読書習慣」定着への意識が希薄になっている。新採用マニュアル「大野小の1日」のリニューアルを通して、職員の意識を高めていく。	・コロナ禍が明けたところで大野小は目的を捉えてニューノーマルな教育活動を進めていることが分かった。 ・学校前の信号待ちをしていたときに、横断し終わった児童達からおじぎをもらった。地域の人のつながりを大切にすると、とても素晴らしい子ども達である。

35号  
57  
議案  
頁数

学校名	高野小学校	教育目標 (組織目標)	○主体的・対話的で深い学びの実現と表現力・発信力の育成を通して、学力向上を図る。 ○自己効力感を高め、チャレンジ精神の育成と言葉を大切にしたい(寛容で共感的) 学年・学級をつくる。		
令和5年度取組概要・目標値		自己評価 (成果・達成状況)	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見	
Ⅰ STEMマインド プログラム	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かりやすい」と感じている児童 90%以上</li> <li>授業において進んで話し合ったり、発表したりすることができている児童 75%以上</li> <li>読書冊数で、年間50冊以上読む児童 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な学びを推進するための「授業スタイルリーフレット」の活用 (5、6年 県教育委員会作成)</li> <li>専科教員による専門性の高い授業 (5、6年 理科、音楽、図工)</li> <li>図書委員による「読書大好き集会」の実施、学校司書の活用</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業が分かりやすいと感じている児童 98%</li> <li>授業において進んで話し合ったり、発表したりすることができている児童 74.4%</li> <li>読書冊数で、年間50冊以上読む児童 92.4%</li> <li>一人1台端末を生かす「守谷型ラーニングスタイル」(①探究②協働③振り返り④定着)を実践することができた。(教師83.3%)</li> <li>読書に積極的に取り組んでいる。(児童70.3%)</li> </ul>	<p>■児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な学びを推進するために、自ら問いを発見したり、ICT機器を効果的に活用したりして主体的・対話的で深い学びにつなげていく。</li> </ul> <p>■教師に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級担任、特別支援学級担任、学習支援T、フリースペース支援員、介護補助員がより連携して、協働的な学び、個別最適な学びにつなげていく。</li> <li>学校司書を授業の中で活用することにより、児童がより本に親しむ環境づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級と特別支援学級をオンラインで接続し、学習内容を共有していることが個別最適な学習につながっている。</li> <li>児童がICT機器を使いながら協働で作業をし、自分たちで考えをまとめながら発表する姿が素晴らしい。</li> </ul>	
Ⅱ ハートフォーエヌ マンマン プログラム	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校が楽しい」と感じている児童 95%以上</li> <li>あいさつをきちんと行うことができる児童 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間に異学年同士、職員と児童が楽しく遊ぶ時間を設定</li> <li>いじめの未然防止、早期対応、組織的対応</li> <li>週に一度、児童に関する情報共有の時間を設定</li> <li>月に一度、ハートいっぱいタイムの実施</li> <li>○年2回いじめをなくそう仲よし週間の実施 (けやき台中学校区きらめきフォーラム、家守詩の実施)</li> <li>・学級毎のあいさつ運動、けやき台中との合同あいさつ運動の実施</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校が楽しいと感じている児童 94.5%</li> <li>あいさつをきちんと行うことができる児童 90.9%</li> <li>友達と仲良く過ごすことができている児童 97.5%</li> <li>いじめは、いけないことだと思う児童 99%</li> <li>休み時間は、異学年同士でドッジボールをしたり、サッカーをしたり楽しく過ごすことができている。職員も児童とともに交流し、良好な関係を築くことができている。</li> </ul>	<p>■児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己効力感、自己肯定感や自己有用感を高め、お互い認め合い、高め合う人間関係を構築できるようにする。</li> </ul> <p>■教師に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活をとおして、児童が「分かった、できた」と思える場面が増えるように指導していく。</li> </ul> <p>■家庭に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校への参画意識を高め、児童、保護者、地域、教師が一体になり魅力ある学校づくりを推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高野小の児童数は他校と比べると少ないかもしれないが、先生方の一人ひとりへの関わり、地域の協力等を考えると、良さで捉えることができる。</li> <li>単学級が多いので、人間関係を大切に学校生活を送ってほしい。</li> </ul>	
Ⅲ ヘルス&フィジカル プログラム	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト結果A+B 65%以上</li> <li>休み時間は外で積極的に遊んでいる児童 85%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力アップ推進プランの実施 (昨年度課題があった投力、瞬発力を重点に実施)</li> <li>遊ゆうタイム (ロング昼休み 30分間)の実施</li> <li>食に関する指導の実施 (市保健センター職員による授業、給食センターの食育動画の活用)</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト結果A+B 50.5%</li> <li>20mシャトルラン、ボールスローの結果が昨年度より低下している。</li> <li>休み時間は外で積極的に遊んでいる児童 89.9%</li> <li>早寝、早起き、朝ご飯ができている児童 81.9%</li> <li>給食を残さず食べている児童 74.9%</li> <li>今年は雨や猛暑日で外に出られない日が多かった。</li> </ul>	<p>■児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康的な生活(食生活、学校と家庭生活との調和)習慣の大切さを指導する。</li> <li>体育の授業の中で、体力テストの課題になっている運動を継続的に取り入れる。</li> </ul> <p>■教師に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動による影響を考え、体育の授業の年間指導計画を見直す。</li> <li>体力アップに関する職員研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食を残さず食べている児童の割合を80%以上にしたい。(食品ロスの関係)</li> <li>高野小校庭の地形を利用し、安全面を確保しながら斜面の活用を考えてはどうか。</li> </ul>	
Ⅳ エニターエニター プログラム	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「進んで英語を使いたい」と思う児童 80%以上</li> <li>タブレットを活用した学習が楽しいと感じている児童 93%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週火曜日イングリッシュDAYの実施 (ALTによる朝、昼の英語による放送、授業開始、終わりに英語を使用)</li> <li>オンライン英会話の実施 (年3回、5、6年)</li> <li>ICT支援員の積極的な活用</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで英語を使いたいと思う児童 78.9%</li> <li>英語の授業を楽しんでいる児童 86%</li> <li>ALTの先生との交流や活動を楽しんでいる児童 90.9%</li> <li>タブレットを活用した学習が楽しいと感じている児童 96%</li> <li>タブレットを用いて課題を調べたり、まとめたり、発表したりすることができている。</li> </ul>	<p>■児童に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の学習を学ぶ意義、将来へのつながりを考えさせることにより、主体的な学習につなげていく。</li> <li>ICTの活用により、情報活用能力の向上を図る。</li> </ul> <p>■教師に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実効的な研修をとおして、外国語の指導力向上を図る。</li> <li>情報モラル教育を踏まえた上で、児童が自ら判断して活用、行動できるデジタル・シティズンシップの考えを指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を1年生から取り入れているのは素晴らしい。児童が表現力豊かに堂々と英語を話すことができていると感じた。</li> <li>ICT機器を積極的に活用しながら学習課題に対し、比較検討し、発表できている姿が素晴らしい。</li> </ul>	
Ⅴ パートナーシップ プログラム	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域との連携による教育活動の実施 年10回以上</li> <li>学校からの発信力があり、保護者と連携がとれている。90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部の教育資源を活用</li> <li>○もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク</li> <li>○高野まちづくり協議会、高野まちづくりの会、ミ・ナーデ等</li> <li>PTAとの連携(授業補助、学校行事への参画)</li> <li>HP、ポータルサイト、学校・学年だよりの活用</li> <li>授業参観、自由参観年3回ずつ実施</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <p>地域の教育力の活用を積極的に行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もりやコミュニティ・スクールボランティアバンクの活用6回、延べ13名</li> <li>・地域人材の活用15回、延べ97名</li> <li>・保護者の協力8回、延べ156名</li> <li>・学校は、各種たよりやHPで学校や児童の様子をよく知らせている。94.1%</li> <li>・保護者に対する授業公開は、年間計画どおり実施でき、事後アンケートでも肯定的な意見が多かった。(授業内容、教師の児童との関わりなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域との連携に関しては、コミュニティ・スクールの導入を踏まえ、学校と連携・協働を推進していく。</li> <li>令和6年度150周年に向け、学校、保護者、地域が一体になり、地域と共にある学校づくりを推進していく。</li> <li>HPについては、個人情報の取扱いに留意し、教育活動の発信の視点を踏まえ慎重に行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携に関しては、学校から要望があれば積極的に関係機関に働き掛けていくので情報を教えてほしい。</li> <li>下校途中で災害が発生した場合のマニュアルについて地域と協力して作成しておきたい。</li> </ul>	

学校名	守谷市立守谷小学校	教育目標（組織目標）	児童が自ら問いをもち、考えて行動することで、自己肯定感を実感できる場をふやす。		
	令和5年度取組概要・目標値	自己評価（成果・達成状況）		今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
Ⅰ ステップアッププラン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業が分かる・楽しい児童 90%以上</li> <li>「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」50冊以上 90%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの効果的な活用と考えや思いを可視化する言語活動の充実と、「対話」を大切に授業実践</li> <li>学習の充実を実現するため、タブレット端末での個別最適化学習を充実</li> <li>ユニバーサルデザインの授業と教育環境の実現</li> <li>名文暗唱・辞書引きによる語彙指導</li> <li>市教科専科教員との連携による学習指導の充実</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業がよく分かる児童 90.2% 授業が楽しい児童 83.1%</li> <li>「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」50冊以上 70%</li> <li>進んで学習している児童 79.5% 学習規律を守った児童 87.8%</li> <li>情報に自立的に関わる態度を促す指導実践した教職員 97.1%</li> <li>「ICTの効果的な活用、考えや思いを可視化する学習活動、「対話」重視の授業等の実現による授業改善を実践している」と回答した保護者 94.1%</li> <li>「学校は学習の仕方や決まりを指導している」と回答した保護者 92.8%</li> <li>「学校は学習の習慣化と充実を図る指導の工夫改善をしている」と回答した保護者 77.5%</li> <li>個別最適化学習を促す授業改善を学校全体で研究、実践した他、プロジェクト型の学びを取り入れ、対話や協働を促した結果、学びへの肯定的な回答を得たと考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、児童の学びの自律を目指す指導を充実させるために、課題発見解決能力の伸長、個別最適化学習の充実、デジタル・シティズンシップ教育の充実が不可欠である。</li> <li>学びの基本となる言語の指導は語彙の指導を継続するとともに、授業の中で思考の言語化や振り返りの充実等に取り組みすることで力を付けていきたいと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上の策として問題解決型の学習、個別最適化学習の工夫、ICTの活用について組織として取り組んでいることを高く評価する。特に、個別最適化学習を授業改善の核としていることで、一人ひとりを生かす学びとなっている。</li> <li>「授業がよく分かる」に低評価であった児童や各種調査等を十分に精査し、誰一人取り残さない学びに更に取り組んでほしい。また、更に読書活動に積極的に取り組むため、学校図書館の蔵書を増やすための財源確保を望む。</li> </ul>
Ⅱ ハートフォーヒーローマン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめを許さない」と回答する児童 100%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童に寄り添うための、学校と児童・保護者、地域との連携を図る多様な手立ての充実</li> <li>「考え、議論する道徳」の質の向上</li> <li>6学年におけるスクールロイヤーを活用したいじめ防止教室の実施</li> <li>いじめ防止週間における、いじめ防止に関する道徳、特活授業の全クラス実施</li> <li>学級・学年集団の安定・成長のための学級・学年経営の充実</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめは絶対に許さない児童 97.9%</li> <li>学校が楽しい児童 89.2%</li> <li>自分の仕事や役割に自分の考えをもち、責任をもって取り組んだ児童 88.8%</li> <li>児童理解に努め、一人ひとりを大切にする指導を実践した教職員 100%</li> <li>いじめ予防、命を大切にする指導を実践した教職員 100%</li> <li>いじめ防止週間における特別授業、児童主体の特別活動の実践、スクールロイヤーやいじめ解消サポーター、カウンセリングアドバイザー等を活用した授業や職員研修の実践の結果、肯定的な結果を得たと考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的ないじめ対策会議のほか、臨時や緊急対応としての対策会議を実施し、疑いの段階から組織として対応することを継続し、被害児童、加害児童の成長を促していく。</li> <li>「守谷小まぜったい いじめを許しません」の合言葉のもと、日常的な指導のほか、啓発を促す児童主体の特別活動や外部人材を活用した学びを充実させる。人権意識、規範意識の醸成を促し、いじめのない安心安全な学校を児童、教職員、保護者、地域総がかりでつくっていく。</li> <li>緊急対応的な教育相談のみならず、定期教育相談を充実させ、自身を見つめ、受容を促すことや、自分が大切にされている感覚を醸成できるようにしていく。また、自己有用感を高める指導を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部人材や関係機関との連携による豊かな学びは非常に有効である。今後も更なる活用を望む。事業の拡大や財源の確保が喫緊の課題である。</li> <li>全体的に欠席者が少なく、学校生活にうまく適応できない児童に対して、十分なアセスメントとニーズにあった個への組織対応ができていた。児童の社会的な自立を目指した指導支援を高く評価する。</li> <li>いじめは0にならない前提に小さなことでも気付こうとする体制をつくっていることに感謝する。</li> </ul>
Ⅲ ヘルス&フィジカル	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト A+B=60%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな感染対策の正しい理解と実践の徹底</li> <li>日常的な健康管理と、規則正しい生活習慣や運動を促すための積極的な啓発指導</li> <li>家庭と連携した健康教育、運動習慣につながる体育授業の実施</li> <li>新たな感染対策を呼びかける保健指導</li> <li>「投力・走力・持久力」向上のための授業・運動（遊び）の場の工夫及びゆう遊タイムの実施</li> <li>食育の充実（食物アレルギー 食中毒の対応）</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト A+B=43.9%</li> <li>自分の健康を考え、規則正しい生活、病気にならない生活を実践している児童 88.1%</li> <li>安全に気を付けて登下校、交通ルールを守っている児童 94.5%</li> <li>児童にとって安全な教室環境を作っている教職員 100%</li> <li>学校は食や体力向上のための授業等の工夫改善をしていると回答した保護者 78.9%</li> <li>栄養教諭による食育、個別相談活動、養護教諭による健康教育や健康相談の実践による多様な学びが可能となった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「毎朝朝ご飯を食べている」児童は93.8%である。一方、「早寝早起きを心掛ける」児童は75.6%である。健康な生活の実現のため、今後も保護者と連携した指導を継続していく。</li> <li>栄養教諭や養護教諭による指導や相談を更に充実させ、児童の健康への自律を促していく。</li> <li>児童の体力向上に向けて、ゆう遊タイムを確保し、児童の外遊びの機会確保、体育の時間において年間を通してバランスよく体力向上を図る取組の充実、運動量の確保、授業改善を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首より上のけがや頭へのけがに対する組織的に慎重な対応が早期発見・対応に繋がっている。現在AEDが1台のみであるが、守谷小の規模を考えると複数台確保を願いたい。</li> <li>教室の空調がききにくく、健康に悪影響がある懸念がある。早急の対応を望む。</li> <li>生活習慣を身に付けること、交通事故から身を守ることは今後も家庭、地域と連携していくことが重要である。</li> </ul>
Ⅳ ニューシニアプラン	<p>1 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「英語の授業が楽しい」と感じる児童 90%以上</li> <li>授業における端末の有効活用 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習ノートアプリを活用した協働的学習の充実</li> <li>ALT2名・英語専科による特色ある英語教育の充実と英検資格取得の奨励</li> <li>一人1台のタブレットによる個別最適化学習を推進する教員OJT研修の実施</li> <li>「教材バンク」を利用した授業の質向上</li> <li>国際理解教育の充実と教職員の英語力の向上</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「英語の授業が楽しい」児童 73.8%</li> <li>タブレットを使った学習やプログラミングの学習は楽しい児童 89.7%</li> <li>学校は学びの充実のためにICT機器（端末等）を活用していると回答した保護者 93.5%</li> <li>英検受験者は延べ87名である。</li> <li>ICT活用や個別最適化学習を促す教職員の主体的な研修（ミニ研修）の実践により、前向きな授業改善が促された。</li> <li>外部の関係機関等（JICA等）を活用した多様な学びが実現できた。様々な価値観やホンモノに触れる好機となった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ノートアプリの機能を最大限に生かす学びを充実させるとともに、クラウド活用や授業における表現活動の一つとしてプログラミングを取り入れることや、教科横断的な学びの充実を図っていく。</li> <li>英語専科教員や総合的な学習の時間担当教員が中心となり、外部人材を活用した学びやハイブリット型の学びの実践など、学びの可能性を探り、実践することで更に様々な価値観やホンモノに触れる機会を増やしたい。</li> <li>授業における個別最適化学習のほか、今後は単元を貫く個別最適化学習、反転学習、自由進度学習等の可能性を探り、マネジメントすることで児童の主体的で自律的な学びを促していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童のデジタル活用能力の向上が著しい。今後も、有効な活用を進め、一人ひとりの情報活用能力を伸ばすとともに、デジタル・シティズンシップ教育を充実させ、安全な使い方、自律的な使い手を育成してほしい。</li> <li>英語専科教員の活用により、外国語や異文化に触れる学習が充実している。今後も継続して質の高い学びの高知育を望む。</li> </ul>

35号  
59  
議案  
頁数

35号	議案
60	頁数

システム・マネジメント

<p>1 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材活用の教育活動 10回以上/年</li> <li>・小中・小々連携活動 5回以上/年</li> <li>・Classroom 運用率 100%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google WS の効果的活用による情報提供</li> <li>・地域、保護者、ボランティア (MVP) との積極的な連携と積極的な情報発信と説明</li> <li>・保護者と地域に向けた積極的な学校公開</li> <li>・学習・生活習慣確立のための保幼小連携</li> <li>・児童の発達を支える、小中・小々連携</li> </ul>	<p>■達成状況 e</p> <p>A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroom 等を活用して積極的に情報発信している教職員 82.4%</li> <li>・Google Classroom 運用 100%</li> <li>・小中・小々連携活動 6回/年</li> <li>・学校はHP 等を通して積極的に情報発信していると回答した保護者 80.4%</li> <li>・HP の更新やポータルサイト、Google Classroom の活用により、定期的な情報発信に努力した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroom による情報共有や発信等の運用が進んできている。今後はGoogle WS の汎用性の高さを生かし、授業等での活用を進めていく。</li> <li>・ボランティアやMVP の活用については課題が残った。コロナ禍を経て、新たな視点で教育活動や教育課程を再構築し、どの場面でどのように活用することが効果的な見直していく必要がある。地域連携の推進役を中心とした効果的な活用について探っていく。</li> <li>・守谷小の持つ人的、物的な援助資源を整理し、今後は積極的に活用していくことで児童の地域の一人であるという意識の醸成、地域と共にある学校づくりを進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MVP 等外部人材や関係機関の活用はカリキュラムマネジメントに、豊かな学びを促す効果的な活用を願う。</li> <li>・現在、職員が適正に配置されていないことで、職員に負担が掛かっている。未来を創る人材育成のためのマンパワーの確保を願う (教員免許保有者を活用するシステム構築等)。</li> <li>・Google Classroom は保護者にとっても有効なツールである。</li> <li>・今後も地域、保護者、学校の情報共有を願う。</li> </ul>
--	--	--	--

学校名	黒内小学校	教育目標（組織目標）	児童が自ら問いをもち、考えて行動する場を増やす	
	令和5年度取組概要・目標値	自己評価（成果・達成状況）	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
Ⅰ STEM アンブレラ プラン	<b>■目標値</b> ・「授業が楽しい」と感じる児童の割合 90%以上 ・読書冊数が50冊以上を受賞する児童の割合 90%以上 <b>■取組概要</b> ・主体的、対話的、探究的な学びを目指し、授業研究を進める。 ・「守谷型ラーニングスタイル」を意識した授業を推進する。 ・主体的な学びを進めるための自主学習の習慣化を図る。 ・守谷型GIGAスクール構想によるICT活用を充実させる。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「授業が楽しい」と回答した児童 89.6%、「学校は、児童の学力向上に向けて、授業改善に努めている」と回答した保護者 88.0%、「お子さんは意欲的に授業に取り組んでいる」と回答した保護者 88.5% →「分かる授業」を展開できるよう日々教材研究をしている結果が示唆される。 ・「iPadを使用して家で自主学習をしている」と回答した児童 64.8% ・50冊以上で読書賞を受賞した児童は 73.3%	・「授業改善」については、一定の高評価を得ることができた。引き続き、主語を児童に研修を重ね、主体的・対話的で深い学びに結びつくよう研鑽していく。その一方、家庭学習に関するアンケート結果では、iPadを活用した学習等への認識のずれが児童・保護者と教員とに見られる。「自主学習」に対する概念を、「個別最適な学習」及び「探究的な学習」に移行できるよう既成概念を改革する必要がある。 ・児童が読書から得られる「学び」は大きく、更なる児童の読書意欲向上に迫る手立てが必要である。	・学校が学力向上に向けて努力し続けていることがアンケート結果や授業参観の様子から伺えた。 ・一人1台端末の持ち帰りについては、活用の必然性を児童及び保護者に持たせるよう工夫が必要である。 ・市独自の教科専科による学習の展開は児童にも教職員にも非常に利益が得られる取組だと考える。
Ⅱ ハート フォー Eco マン プラン	<b>■目標値</b> ・「学校が楽しい」と回答した児童の割合 90%以上 ・「人の役に立ちたい」と思える児童の割合 85%以上 ・いじめをなくそうなかよし週間における全クラス授業の実施率 100% <b>■取組概要</b> ・児童が「自分の学級が好き」といえる学級経営を進める。 ・どんな理由があってもいけないという気持ちを、教育活動全体を通して育てる。 ・「校内フリースペース」の活用による心の居場所づくりを進める。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・豊かな心を育む教育の充実を図ることができたことにより数値目標を達成できた。 ・「スマイルプロジェクト」を実施し、児童主体の心を育む実践ができた。 ・「学校が楽しい」と回答した児童 88.8% ・「人の役に立ちたい」と思っている児童 94.0% ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童 97.5% ・「校内フリースペース」の活用による児童の心の居場所づくりを進められた。	・生活アンケートや教育相談を定期的に実施し、児童間の嫌がらせやトラブルなどに対し、適切な早期対応に努めた。また、年度初め、年2回のいじめ防止週間では、全学級のいじめに関する授業の実施や児童主体の「スマイルプロジェクト」による心の教育活動、デジタル・シティズンシップ教育の展開を実施・継続していく。 ・「校内フリースペース」の活用により、心の居場所を確保できた。引き続き、SCやSSW等外部の専門家の効果的な活用を継続する中で、「児童の自立」を目的とした個に応じた学びの提供を実施・継続していく。	・「学校が楽しい」「人の役に立ちたい」と思っている」児童の割合が大変高く、今後も継続することを切に願う。 ・コロナ禍を経験し、協力し合うこと、そして「当たり前」の大切さを改めて考えさせられた。学校教育でも、そうした人として大切なことを児童にしっかりと伝えてほしい。 ・「校内フリースペース」による心の居場所の確保は大変良い取組である。
Ⅲ ヘルス & フィジカル プラン	<b>■目標値</b> ・感染症の5類移行に伴った対策に関して正しい知識を身に付け、場に応じた行動がとれる児童の割合 100% ・朝食を食べる児童の割合 100% <b>■取組概要</b> ・感染症に関する正しい知識の指導の充実を図る。 ・体育の授業を通して体力の向上に努める。 ・楽しくマナーを守った食に関する指導を充実させ、望ましい食習慣の啓発に努める。 ・児童・職員によるAED研修、薬物乱用防止教室、性に関する指導の充実を図る。	<b>■達成状況</b> スマイルプロジェクト A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・休み時間は楽しく遊んでいる児童 96.4%、毎朝朝食を食べている児童 96.3% ・体力テストA+Bの児童が44.3%と、県平均を下回ったものの昨年よりは2.6%上昇した。 ・5類移行にあわせ、給食のグループによる会食を再開した。 ・外部機関や講師、養護教諭等専門性の高い人材を活用して、職員への感染症対策やAED研修、3年生以上の栄養教育や感染症対策、薬物乱用防止教室、性に関する指導の等、児童の安心・安全につながる健康教育の充実を図ることができた。	・アレルギー対応での救急搬送が4件あったが大事には至らなかった。引き続き児童のアレルギー対応は重要課題となる。 ・過大規模校としての児童の休み時間の校庭での過ごし方は工夫改善が必要となる。「遊タイム」の実施、中央黒内公園の活用など、児童の体力向上及び健康の保持増進につながる実践が急務となる。 ・6学年による「午睡」の実践は、更なる効果の検証も含め、発達段階に応じた導入も検討される。 ・熱中症及び感染症対策については、継続して実施していく。 ・体育科における授業の工夫改善等を行い、更なる児童の体力向上が課題となる。	・5類移行を機に「スマイルプロジェクト」による、給食のグループ会食への素早い転換は大変評価できる。 ・過大規模校として教育課程を工夫し、体育の授業や休み時間など外遊びの確保に努めており、運動会や引渡訓練など、行事運営の改善も適切に実施されている。 ・「午睡」の実践は、報道にも取り上げられるとともに児童自ら検証を行った点が素晴らしい。
Ⅳ ニッポン アーツ プラン	<b>■目標値</b> ・「英語の学習が楽しい」と感じる児童の割合 80%以上 ・一人1台端末を学習用具として活用している児童の割合 90%以上 <b>■取組概要</b> ・「守谷型GIGAスクール構想」を推進する。 ・作品をクラウド上で管理する「マイ・ミュージアム」を推進する。 ・情報モラル、ICTスキルの向上を図る。 ・英語活動、外国語活動、外国語科の充実を図り、英語に慣れ親しみ、活用してコミュニケーションを楽しむことができる児童を育てる。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「外国語の時間が楽しい」児童 82.8%、「習った英語を使ってALTと簡単な会話ができる」児童 67.4% ・全学年において、一人1台端末の家庭への持ち帰り及び学習用具としての活用を実施 ・デジタル・シティズンシップ教育、生成AIを活用した授業の実践を行った。 ・週1回、児童による英語による、お昼の放送の実施。	・2名の専科教員及びALTによる授業の工夫・改善が図られ、英語の時間を楽しみにしている児童が多い。その反面、習った英語を使ってALTと簡単な会話ができる児童が7割弱となり、オンライン英会話の更なる活用によるコミュニケーションの時間を十分に確保する中で、意識向上に結び付けたい。 ・VUCAの時代を児童がよりよく生きていくためのICTに係る教育活動を更に実践していく中で、主体的・対話的で深い学びへと繋げていく必要がある。	・2名の専科教員及びALTの日々の授業実践によって、児童の意識は大きく変わってきていると考える。 ・報道にあった台湾の小学生との交流事業は教育的効果が大変高い。 ・デジタル・シティズンシップ教育や生成AIを活用した授業など、児童がVUCAの時代をより良く生きられるよう更なる継続を願う。
Ⅴ パートナー シップ プラン	<b>■目標値</b> ・Google Classroom 活用率 100% ・学校HPアクセス数 1日200件以上 ・PTAの黒サボの学級活用率 年2回以上、学校活用率 月5回以上 <b>■取組概要</b> ・Google Classroomを活用し、児童・保護者への情報提供を日常化する。 ・学校HP、ポータルサイト等での適切な情報発信により、開かれた学校づくりを進める。 ・PTAの黒サボ、スクールボランティア等の外部人材を積極的に活用する。	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・Google Classroomの活用率は100%、「学校は、Classroomや電話、面談等を利用して保護者との連携を積極的に行っている」と回答した保護者 87.9% ・学校HPの充実を図り、今年度総計アクセス数136311、1日平均372.4となり、昨年度比較約2.4倍の上昇がみられ、開かれた学校づくりの一助となったことが示唆される。 ・PTAの黒サボを、水泳学習、運動会、町発見、家庭科の実習、スクールフェスティバル等で全学年・学級活用し、過大規模校の教育活動を円滑に進める大きな力となった。	・配信メール、学校ポータルサイト、Classroom等ICTによる保護者への連絡ツールを、より情報が伝えやすくなるようブラッシュアップを図る必要がある。 ・過大規模校としての情報伝達手段としてICTの活用は避けることができず、情報漏洩等に係るコンプライアンス意識の更なる高揚を図る。 ・学校HPの更なる充実を図る中で、より一層開かれた学校づくりに努めていく。 ・PTAの黒サボやよりコミュニティ・スクールボランティアアパング等、多方面での豊かな地域人材の活用を図り、過大規模校の円滑な教育活動の展開に努める。	・PTAによる黒サボの活動の活性化が見られた1年で、保護者も学校もたくさん学びを得られた。今後も積極的な活動を継続したい。 ・昨年度より学校HPのアクセス数が2倍以上となったのは、学校HPの充実が要因である。引き続き、学校HPの充実を図り開かれた学校づくりに努めてほしい。 ・「くろうち」にかけた「し(4)あわせ目標」は、人の心をすくすく素晴らしい。

35号  
議案  
61  
頁数

35号  
62  
議案  
頁数

学校名	御所ヶ丘小学校	教育目標 (組織目標)	〇キャリア教育を中心とした主体的・対話的で深い学びを通して、 未来に向かってたくましく生きる児童を育成する。 〇「子どもと向き合うために」 働き方改革を推進し、業務の改善とスリム化により、各自のタイムマネジメントを構築する。		
	令和5年度取組概要・目標値	自己評価 (成果・達成状況)		今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
Ⅰ ステップアッププラン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の話を聞き、自分の意見と交流することができた児童 90%以上</li> <li>友達との対話を通して、自分の考えを深めることができた児童 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の工夫や対話的な学びを意識したニューノーマルな授業設計</li> <li>ICT機器を活用した学校外との交流活動や家庭における個別最適化された学びを実現する守谷型ラーニングスタイルの実施</li> <li>一人1台のタブレットを活用した発信力を高める学習環境の実現と「広域交流学習」の推進</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の話を聞き、自分の意見と交流することができたと回答した児童が93.5%、友達との対話を通して、自分の考えを深めることができたと答えた児童も93.5%といずれも目標値を上回った。タブレット端末の「Meta Moji」の授業での積極的な活用の成果であると考えられる。</li> <li>英語活動をはじめ、さまざまな授業でタブレットを活用した交流活動を行うなどICT機器の活用を通して守谷型ラーニングスタイルの浸透に努めた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きペアやグループ活動等、他者と意見交換する場面を授業中に積極的に設定し、学習内容の質の向上を図る。タブレット端末のMeta Moji機能も意見交換の場で活用する。</li> <li>キャリア教育の充実を図り、人間関係形成能力の向上を図っていく。それを元により効果的な交流を行い、主体的・対話的で深い学びへとつなげていく。</li> <li>英語活動で、積極的に広域交流学習の場の設定を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板の利用により理解を深めている授業がされていると感じた。</li> <li>「人の話を聞く」ということは大人でも実は難しいことで、その基礎を子どものうちに育てていくことはとても大事だと思う。数値目標を達成できたのは先生方の尽力のおかげです。</li> <li>ICT機器はもはや小学校での学習には欠かせないものと思う。今後も上手に取り入れてほしいと思う。</li> </ul>
Ⅱ ハートフォーヒーローマンプラン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめはどんな理由でもいけなくない」と考えている児童 100%</li> <li>みんなが助け合って生活している 児童90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめをなくそう仲良し週間や学校生活アンケート、教育相談、きらめきフォーラムを通した、一人ひとりの児童の心に寄り添うチーム学校</li> <li>児童の安心安全を確保する「いじめ・不登校ゼロバック」</li> <li>児童の道徳性を養う「考え、議論する道徳」の実践</li> <li>児童会、ごしよ丸挑戦隊など、児童の主体的な活動による学校生活の充実</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめはどんな理由でもいけなくないと考えている児童が99.2%と目標値である100%には至らなかったが、いじめをなくそうなかよし週間やきらめきフォーラムを通して、着実に児童の意識が高まっている。</li> <li>みんなが助け合って生活していると回答した児童が98.8%と目標値を大きく上回った。ごしよ丸挑戦隊の自治的活動や道徳の授業により協働する意識が高まっている成果だと考えられる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめゼロ週間、いじめゼロ集会及び学級活動や道徳科でいじめ問題を来年度も継続して考えていく。</li> <li>「守谷市いじめ防止プログラム」の積極的な活用するとともに、それを活用する教師の技術向上を目的とした研修を実施する。</li> <li>ごしよ丸挑戦隊を次年度も引き継ぎ、高学年を中心に自治的活動を実践し、協働で課題を解決していく風土を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御所小は同学年ならほぼ全員が顔見知りです。いじめは起きにくい環境だと思ふ。適度な関係性でおどやかに人につきあえる子が多いという印象を持っている。</li> <li>みんなが助け合い、いじめはどんな理由があってもいけなくないことだと考えている児童が多く、豊かな心が育成されていると思ふ。</li> </ul>
Ⅲ ヘルス&フィジカルプラン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト総合評価A+Bの割合 55%以上</li> <li>健康で安全な生活を心掛けている児童 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニューノーマルな学校教育に基づいた健康や安全を考え、実践できる自己管理能力の育成</li> <li>「体力向上プロジェクト」(50m走、ボールスロー、投力アップ)の定期的実施</li> <li>多様な集団による外遊びの励行 (わんぱくタイム)</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト総合評価A+Bの割合は目標値である55%と同じであった。昨年度より割合的には上昇した。これは「体力向上プロジェクト」(50m走、ボールスロー、投力アップ)の定期的実施や、わんぱくタイムといった外遊びの励行の成果であると考えられる。</li> <li>健康で安全な生活を心掛けていると回答した児童が 94.3%と目標値を上回った。熱中症予防等の健康教育や不審者対応の訓練等の安全教育の実施の成果であると考えられる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの総合評価A+Bの割合が年々微増しているの、さらに割合を高められるよう、現在実施している投力アップや運動レーシングを継続していく。</li> <li>ヤクルトスワローズの行っている投力アップ教室等外部の方に技術的なレクチャーを受ける機会を積極的に設定していく。</li> <li>計画的な避難訓練や御所ヶ丘中学校区のコミュニティ・スクールで行っている防災訓練など、地域と連携して安全教育を実施していくことで、児童の危機回避能力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>暑さ等の対策がきちんとされ、子どもたちがのびのびと外で遊び、健やかな体づくりがされていると感じた。</li> <li>体力テストの結果が上昇しているのは喜ばしいことである。</li> <li>コロナ禍の影響で全国的に子どもたちの体力や運動能力は低下している中で体力が向上しているのは素晴らしいと感じた。</li> </ul>
Ⅳ ニュージェネレーションプラン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中でICT機器を正しく使える児童 95%以上</li> <li>英語で簡単なあいさつや会話を楽しむことができた児童 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニューノーマルな学びを未来へつなげる「守谷型e-ポートフォリオ」の推進(作品をクラウド上で管理する「マイ・ミュージアム」)</li> <li>ALTと担当教員が協働し、世界とつながる「守谷型英語・グローバル教育」の推進(DMM英会話 5・6年生、年3回)</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中でICT機器を正しく使えると回答した児童が95.1%と幸じて目標値を上回った。日頃から意見交流のためのMeta Moji機能やデジタルドリルの活用等を図った成果であると考えられる。</li> <li>DMM英会話を5・6年生が行ったり、ALTと担当教員が協働して英語活動を実践したりしたことで英語で簡単なあいさつや会話を楽しむことができた回答した児童が91.0%と目標値を上回ることができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>他校や異校種、外部人材等とオンラインで交流することで学習を深めていくとともにアクティブラーニング室(English room)を積極的に活用し、良い環境の中で英語活動を行っていく。</li> <li>情報教育主任を中心にICT支援員と連携し、教師のICT活用指導力を向上させていく。</li> <li>ALTと英語専科教員の協働授業の質が高められるよう、授業に係る打合せ時間を十分に確保し、より中身の濃い授業実践が行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン英会話という取組が素晴らしい。今の子どもたちがうらやましい。</li> <li>タブレットを使って上手に動画を作ったり、英語の歌を家ででも歌ったりしている。楽しく親しんで苦手意識を持たずに取り組めるようになることが大事だと思う。</li> </ul>
Ⅴ パートナーシッププラン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域との連携での適切な対応 90%以上</li> <li>児童の様子や行事・出来事をHP等で情報発信している 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールのメリットを最大限に生かし、地域とともにある学校を推進する。(学校運営協議会、PTAとの連携・充実)</li> <li>コミュニティ・スクールを通して、危機回避能力を育む防災訓練の実施</li> <li>児童の様子や行事・出来事をHP等で情報発信している 90%以上</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御所ヶ丘中学校区によるコミュニティ・スクールの一環として実施した防災訓練や地域の方に引渡し訓練の様子を見学してもらうなどの取組を通して、保護者や地域との連携を図った。その結果目標値には届かなかったものの前年度より4ポイント上昇した。</li> <li>ポータルサイトで各学年ほぼ毎日情報発信を行った結果、児童の様子や行事・出来事をHP等で情報発信していると回答した保護者が92.0%と目標値を上回った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>御所ヶ丘中学校区コミュニティ・スクールとの連携をより深め、地域との協働体制を構築していく。立哨ボランティアをしてくださっている方の意見や学校運営協力員の方の意見を教育活動に積極的に反映していく。</li> <li>保護者限定ポータルサイトの更新を継続し、学校生活や学校の様子を積極的に発信していく。</li> <li>行事ごとにPTAや保護者ボランティアとの協働の場を多く設定し、保護者に学校の様子を感じてもらえるようにする。</li> <li>地域人材ボランティアを積極的に活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携は世代間ギャップもあり、難しく感じる人が多い。立哨や田植えの交渉のように学校が間に入ることでよりスムーズにいくように思った。</li> <li>ポータルサイトはもっと活用してほしいと思っている。</li> <li>地域との連携はこれから更に進むことを期待している。</li> </ul>

学校名	守谷市立郷州小学校	教育目標（組織目標）	一人ひとりが考え、表現、活動し、仲間と共に学びに向かう力を身につける		
	令和5年度取組概要・目標値	自己評価（成果・達成状況）		今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
Ⅰ ステップアッププラン	<b>■目標値</b> ・授業が分かる、楽しい 90% ・みんなにすすめたい一冊の本50冊達成 95% <b>■取組概要</b> ・学びへの挑戦、一人1台端末の授業の充実 ・個別最適化の学習、学びの蓄積、学力の保障 ・教科担任制による深い学びの実践・中央図書館との連携 ・通級指導教室・習熟度別個別支援 ・UDを軸に個を大切に授業と端末を活用した学習状況の確認 ・GOGOタイム(モジュール)による学習の蓄積	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「授業が分かる、楽しい」と肯定的に答えた児童は 85.6%であった。一人1台端末の活用は各教科・領域に広がり、授業のみならず、特別活動でも利用が進んだ。児童のスキルも更に向上している。 ・「みんなにすすめたい一冊の本50冊」の50冊達成者は、91%である。 ・『守谷型ラーニングスタイル』の定着を図る授業改善が進んでいる。		・一人1台端末を教具として活用しつつ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために「分かる・楽しい」授業改善を進める。 ・学校司書や司書教諭・中央図書館と連携し、教育活動全体で読書活動を推進する。 ・『守谷型ラーニングスタイル』の共通理解・実践・定着を図る学習活動の充実を目指す。	・調べ学習がより簡単に快適に行えるタブレットの導入はとても良い取組だと思う。授業の中で子どもたちが手慣れた様子で活用し、すごいと感じた。 ・専科教員の授業はきめ細かい指導が期待できる。 ・一人1台タブレットによる学びは現代に即応した教育だと思う。 ・塾教育が盛んだが、本来の学校教育で良いと思う。
Ⅱ ハートフォーエバープラン	<b>■目標値</b> ・「学校生活が楽しい」と感じる児童 90% <b>■取組概要</b> ・各家庭とつながる多様な手立ての活用 ・道徳の時間による生き方の育成・一人ひとりが主役の学級づくり ・他者に役立つ体験活動「黙働」「委員会活動」 ・仲良し集会、家守詩、いじめ問題対策会議の充実と早期対応 ・地域からの支援を地域に返す心の育成 ・市の一貫教育生活スキルの定着「日常化」「具体化」 ・配慮を要する児童への組織的対応	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・児童のアンケート「学校生活が楽しい」は88.7%であった。 ・道徳の時間や係活動、帰りの会での認め合いを通して、自己肯定感の向上や自分自身を振り返る機会を設定してきた。 ・「家守詩」の作成など、感謝の心を育てる学習や交流活動の取組を進めた。 ・いじめをなくそう朝会や人権メッセージの学習の取組を進めた。 ・生活アンケート等から、いじめの早期発見・早期対応をチームで取り組んだ。 ・配慮を要する児童の定期的な確認と共通理解を図った。		・教育活動全体を通して、児童の心の居場所づくり・自己有用感の向上を図る施策を充実させる。 ・いじめ相談窓口や生活アンケートを十二分に活用し、児童のいじめ予防と早期発見・早期対応を図る。いじめについては、チームで当たり、初期対応を丁寧に確実に実行し、事実関係を必ず保護者へ伝達する。 ・配慮を要する児童の共通理解と共通指導に努め、安全・安心な学校生活を保障できるよう努める。	・今は子どもたちが知らなくていいような情報も簡単に目にしてしまうので、いじめもより複雑化していると思う。だからこそ実際に触れ合う環境が大切。 ・人を傷つける言葉を言うのはカッコ悪いことなんだという空気づくりを地道に続けて欲しい。 ・あいさつは基本、休み明けの朝は元気がない児童が多く、地域で見守り優しく接していきたい。
Ⅲ ヘルス&フィジカルプラン	<b>■目標値</b> ・体力テストA+B=55%の実現 <b>■取組概要</b> ・体力増強3プラン(投力・運動量・食育) ・健康増強3プラン(朝食・歯みがき・睡眠) ・外遊びの奨励(業間・昼休み)・発育と生命尊重を伴う性教育教室 ・危機回避能力を図る避難訓練と感染症予防(家庭との連携) ・安全意識を高める登下校指導の徹底 ・主体性を育む健康教育の充実	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 <b>D 不十分</b> E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「体力テストA+B」は43.1%であった。 ・持久走やなわとびの業間運動の励行、全校での運動会の実施など体力づくりの支援を行った。 ・ロング昼休みを週一度確保し、「ゲリラ鬼ごっこ」の実施など子どもたちの外遊びを奨励したことにより、友達と仲良く元気に遊ぶ姿が多く見られた。 ・児童による「心肺蘇生法」の実施。		・体育学習の充実と持久走・なわとびチャレンジ運動の工夫改善を図り、体力づくりとスキルアップを目指す。 ・ロング昼休みの確保と体育館の開放を行い、遊びを通して体と心の健康を維持・増進させる。 ・児童主体の危機対応能力の向上と感染症対策を継続し、新しい学校生活様式の確立と健康教育の促進を図る。	・外遊びは大切なので、特に学年を越えた「ゲリラ鬼ごっこ」は良い取組。 ・「心肺蘇生法」の訓練は、1度は経験すると良い。 ・楽しい体力づくり(心も)は大切。運動会や持久走、ロング昼休みは大いに結構。 ・校内隅々まで清潔感がある。
Ⅳ ニージーテクノロジープラン	<b>■目標値</b> ・考えを深めたり、意見交換したりし、ICT機器を活用する率 80% ・英語活動・外国語活動に肯定的な児童の割合 85% <b>■取組概要</b> ・ICT機器の活用による協力的な学びの実現 ・地域の英語力を生かした英会話活動「郷州型英語」 ・ENGLISH DAYによる英会話の日常化 ・発信力を高める学習環境をはじめとする端末学習 ・地域や企業の地域素材を活用した夢をもたせるキャリア教育 ・郷州小の地域素材を生かした特色ある教育活動 ・児童と向き合う時間の確保と定時退勤日の実施	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・考えを深めたり、意見交換したりするICT機器の活用は、97.7%であった。 ・英語活動・外国語活動の肯定的な児童の回答は、92.4%であった。 ・市内ALTの協力による「ワールドキャラン」の効果的な実施。 ・「アートバス事業」による芸術体験学習を実施。 ・校内研修では、iPadやMeta Mojiの活用法を紹介し合い、より効果的なICT機器の活用に向けた。 ・時間外在校等時間45時間以下を目標に掲げ、職員の働き方改革を図ることができた。職員全員のメンタルヘルス維持向上に努めた。		・ALTとの協働・連携を図り、英語活動・外国語活動等の充実を目指すとともに、高学年におけるオンライン英会話の効果的な学習方法の確立を目指す。 ・アクティブラーニング室の活用と、授業におけるICT機器活用の工夫改善を期し、校内研修の充実を図る。 ・時期により時間外在校等時間45時間を超過する職員もいたため、より効率化・合理化を進め、メンタルヘルスの維持向上に努める。	・ALTの存在はとても大切。この環境を続けて欲しい。 ・プロの演奏に触れることや、小学校と中学校の交流も安心感が持っているので良いことだと思う。 ・忙しい中でもまずはご自身(職員の)健康を第一に考え、頑張りすぎなくて大丈夫です。 ・ICT教育やプログラミング教育も今後より望まれることと思う。
Ⅴ パートナーシッププラン	<b>■目標値</b> ・スクールサポーター登録者・地域人材ボランティアの活用率 95% <b>■取組概要</b> ・スクールサポーターの有効活用 ・児童の活躍の発信、教育活動の理解を深め、活性化を図る ・各種たよりの積極的な発信 ・施設地域連携:児童クラブ・元気サロン・夢っ子ひろば・郷州公民館・みずき会・まちづくり協議会・コミュニティスペース開放・子育て支援 ・地域教育力を生かした各種教育の充実 ・「いきいきシニア王国みや」教育支援団	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・保護者アンケートでは「学校は、保護者や地域の方、スクールサポーターと連携に努めている」が95.4%であった。 ・スクールサポーターの方には、交通指導や読み聞かせ、学校備品の作成等に御協力をいただき、児童の学校生活のために尽力いただいた。 ・「GO! GO! 郷州」ではPTA役員やボランティアの方々の協力を仰ぎ、子どもたちの笑顔あふれるイベントとなった。今後も地域との学校の両輪で学校運営を進めていく。		・学区のスクールサポーターの募集と会議を継続し、更なる連携・協働体制の確立を図る。同時に職員へ市人材ボランティアバンクの活用を促す。 ・ポータルサイトや学校HPの有効活用を図り、開かれた学校づくりを目指す。 ・段階的に施設地域連携を計画し、各種教育の充実を目指す。	・できる範囲で役に立ちたいと思う方は多数いらっしゃるの、スクールサポーターや地域の私たちがサポートできたら良いなと考えている。 ・様々な場面でスクールサポーターの参加を呼び掛けて欲しい。 ・性教育について検討が必要。

35号  
 議案  
 63  
 頁数

学校名	松前台小学校	教育目標（組織目標）	○キャリア教育を基盤とした豊かな学びの展開	○創意工夫と活力を生み出す働き方改革の推進
令和5年度取組概要・目標値	自己評価（成果・達成状況）	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見	
<p><b>■目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かる」と回答する児童 90%以上</li> <li>「みんなにすすみたい」1冊の本推進事業 50冊達成 90%以上</li> </ul> <p><b>■取組概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現する力の育成 → キャリア教育を基盤とした授業改善</li> <li>学校教育改革プランの自校化 → 守谷型eラーニングを活用した協働学習の推進</li> <li>探究型図書館教育学習の充実 → 学校図書館司書や守谷中央図書館との連携</li> <li>家庭学習の習慣化 → 「家庭学習のてびき」やタブレット端末の効果的な活用</li> </ul>	<p><b>■達成状況</b></p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p><b>■成果・取組結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かる」と回答した児童は、87.5%で、目標数値には僅かに及ばなかったが、外部講師を招聘し、キャリア教育の視点の一つ「関わる力」に重点を置いた授業研究を4回実施した。また、授業力向上を図るため、校内での相互参観授業を11月に16回実施した。</li> <li>みんなにすすみたい1冊の本推進事業も、83%と目標数値に届かなかったが今年度は、全学年で中央図書館と連携したブックトークを実施した。また、2月には、「第1回校内POP大賞」を開催し、読書活動を推進した。なお、「校内POP大賞」は、保護者や地域の方にも投票いただく形で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県の学力診断のためのテスト等の結果を分析し、正答率が低かった問題に再度取り組み、学びの強化を図る。</li> <li>児童の学習意欲を喚起し、理解を深める授業づくり研修を次年度も計画的に実施する。</li> <li>個別最適化学びの充実に向けて、タブレット端末を活用した家庭学習の内容や方法を検討・改善する。特にタブレットでのドリル学習について、方向性を決めて進める。</li> <li>探究型学習の深化を図るため、中央図書館と連携した団体貸出やブックトークを年間計画に位置付ける。</li> <li>「第1回校内POP大賞」の成果と課題を整理し、次年度のあり方を見極め、本校の特色化につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童がタブレット端末を上手に活用している。今後も学習に効果を上げる活用をしてほしい。あわせて、「書く」ということも重要なので、ノート指導の充実も図ってほしい。</li> <li>児童の学ぶ姿勢がとても良かった。</li> <li>「校内POP大賞」は、大変面白い取組である。ぜひ継続してほしい。読書も電子書籍が普及してきた。どんな形でもよいので、児童には活字に触れてほしい。</li> </ul>	
<p><b>■目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校へ来ることが楽しい」と回答する児童 90%以上</li> <li>「いじめはどんなことがあってもいけない」と回答する児童 100%</li> </ul> <p><b>■取組概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着といじめ・不登校ゼロバックの取組充実 → いじめをなくそう仲よし週間、生活アンケート、教育相談、Q/Uテスト実施</li> <li>体験活動や地域との交流を通した社会性や思いやりの心の育成 → 公園探検、町探検、福祉体験、稲作体験、感謝の会</li> <li>授業を中心とした教育活動全体を通しての豊かな心の育成 → いじめ防止授業の実施、委員会活動学級請負制</li> </ul>	<p><b>■達成状況</b></p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p><b>■成果・取組結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校へ来ることが楽しいと回答した児童は、89.1%で、目標数値に及ばなかった。登校に消極的な児童が一定数見られるので、一人ひとりに寄り添い家庭との連携にも努めてきた。</li> <li>いじめはどんなことがあってもいけないと回答した児童は、97.2%だった。100%ではなかったが、学級での話し合い活動や「いじめ防止なかなよし集会」等の実施によって、いじめ問題への意識が高まっていることがうかがえる。</li> <li>地域の教育力を活用した学習や体験活動が概ね計画どおりに実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校に消極的な児童への校内体制構築が喫緊の課題である。担任だけが抱え込まないよう、組織体制を整備する。</li> <li>児童が学校に登校したいと思えるような、魅力的な教育活動を計画、分かってできたが実感できる授業づくり研修を進めていく。</li> <li>いじめ問題について、基本方針やいじめの定義を家庭に周知することで、家庭との連携強化を図る。</li> <li>道徳科、特別活動を中心として全教育活動でいじめ問題について児童が主体的に考える学習を実施し、多様性を認め合う温かい雰囲気醸成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校しづりや不登校傾向にある児童については、地域も関わっていけると家庭の孤立を防げるのではないかと。</li> <li>いじめ防止仲よし週間や集会の実施はとて良い。継続実施してほしい。</li> <li>地域や保護者が学校に関わる体制を更に進めることで、教員の加重負担も軽減できると思う。また、児童にとっても、様々な人との関わりから自己肯定感が高められるのではないかと。</li> </ul>	
<p><b>■目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストA+B 55%以上</li> <li>健康で安全な生活を心掛けている児童 90%以上</li> </ul> <p><b>■取組概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力の向上 → 遊ぶうタイム(ロング昼休み)を活用した外遊び奨励</li> <li>体力アップ運動の強化</li> <li>健康教育の推進 → 外部講師を活用した薬物乱用防止教室や生(性)教育実施</li> <li>安全教育の充実 → 地域連携防災教室の実施 多様な訓練の実施</li> </ul>	<p><b>■達成状況</b></p> <p>A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p><b>■成果・取組結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストA+Bが56%で、目標を達成できた。昨年度と比べても、10%伸びている。体育科の時間の運動量の確保やロング昼休みの外遊び奨励、なわとびや持久走のタイムの設定等が成果につながっていると思われる。</li> <li>健康で安全な生活を心掛けていると回答した児童が93.4%と目標数値を上回った。養護教諭や外部講師を活用した保健学習や多様な場面を想定した訓練等を通して、児童が健康や安全について考える機会が増えたと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストでは、投力や柔軟性に課題が見られたので、体育科の授業の中で強ししていく必要がある。また、運動量については、個人差が見られることから、学校全体で引き続き持久走やなわとびタイムを計画的に進めていく。</li> <li>今年度効果のあった外部講師(保健センターや病院医師等)を次年度も引き続き教育活動に活用できるよう、各学年の年間計画に位置付けたり継続をしたりする。</li> <li>避難訓練については、形骸化しないよう、児童に予告しない形や竜巻、ミサイル等を想定した内容も検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で児童の体力が落ちていることが懸念される。外で体を動かす活動を増やしてほしい。</li> <li>保健センターや取手警察署から講師を迎えた学習はとてよい。能登半島地震もあったので、常に児童が危機意識を持ち、自分の命を自分で守れるような力を身に付けさせたい。地域と協働する避難訓練も実施できると良い。</li> </ul>	
<p><b>■目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の英単語を活用して簡単な会話ができる児童 80%以上</li> <li>夢や希望を持っている児童 90%以上</li> </ul> <p><b>■取組概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>守谷型eポートフォリオの取組 → 一人1台端末を活用した学習記録の充実</li> <li>英語教育・国際教育の推進 → 守谷型英語・グローバル教育 オンライン英会話(5年生 6年生)</li> <li>希望や夢を育む教育の推進 → 守谷高校生との交流会 職場見学・職場体験活動の充実</li> </ul>	<p><b>■達成状況</b></p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p><b>■成果・取組結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語で簡単な挨拶や会話ができたと回答する児童88.3%で、目標に達しなかった。年度途中でALTが交替したことも影響したと考える。</li> <li>夢や希望を持っていると回答した児童が90.7%と目標数値に達した。キャリア教育の視点を取り入れた授業展開に努めたこと、積極的に社会科見学等で様々な施設や工場において体験活動をしたこと等が、高い数値に結び付いたと考えられる。</li> <li>オンライン英会話に進んで取り組めたと回答した児童は75%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語学習については、ALTとHRTの打合せ時間を設定して、学習内容の充実を図る。また、朝のMorning Englishを継続して、耳で英語に慣れる環境づくりをする。</li> <li>オンライン英会話に進んで取り組む姿勢を育むため、グループ、ペア、個人と段階的に進めて自信を持って学習に取り組む体制を構築する。</li> <li>キャリアの視点を入れた学習は、次年度も継続して授業に取り入れる。校外学習や社会科見学等では、職場見学、疑似体験を考慮した目的や内容にする。</li> <li>タブレット端末の効果的な活用につながる研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTが在校している環境も恵まれていて、日常的な交流を通して、英語に親しんでもらいたい。</li> <li>オンライン英会話を高学年生が取り組んでいること、市の取組が大変素晴らしい。</li> <li>多くの児童が夢や希望を持っていることが頼もしく嬉しいことである。様々な交流や体験を重ねて、更に夢と希望を膨らませてもらいたい。</li> </ul>	
<p><b>■目標値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信に対する保護者の満足度 90%以上</li> <li>もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク活用 10回以上</li> </ul> <p><b>■取組概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・地域への積極的な情報発信 → HP・ポータルサイトの活用、授業公開</li> <li>コミュニティ・スクール構想の推進 → もりやコミュニティ・スクールボランティアの活用</li> <li>学校評価の効果的な活用 → 多面的アンケートの実施 結果分析と学校運営への反映</li> </ul>	<p><b>■達成状況</b></p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p><b>■成果・取組結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPやポータルサイトでの情報発信についての保護者満足度は82.7%とわずかに目標に達しなかった。ポータルサイトの情報更新に、学年差があったことが数値を伸ばしきれなかった要因と思われる。</li> <li>もりやコミュニティ・スクールボランティアバンクは10回活用することができた。外部講師を活用した授業は児童の学習意欲を喚起する効果も上げた。</li> <li>学校評価アンケートは1月に児童、保護者、職員を対象にフォームで実施した。質問項目を見直し、結果分析も保護者に周知できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイトの各学年更新に差があり、保護者からの指摘も受けた。1週間に最低2回の更新を共通理解していけるように努める。</li> <li>保護者への学校公開(授業や行事)も計画的かつ定期的にできるよう、年間計画に位置付ける。</li> <li>もりやコミュニティ・スクールボランティアバンクの活用については今年度の活用を振り返り、次年度に生かす。</li> <li>学校評価アンケート結果で、次年度の教育活動に反映できるものは、検討し改善していく。</li> <li>学校運営協力員会議も計画的に実施して評価を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPが毎日更新されていて良い。</li> <li>もりやコミュニティ・スクールボランティアバンクの活用も積極的に、子ども達の学びの場が広がっている。</li> <li>学校評価アンケートの結果を、詳細に分析し、保護者に返していることもとても良い。時代の変化や状況に応じて柔軟な対応を進めていってほしい。</li> </ul>	

学校名	松ヶ丘小学校	教育目標（組織目標）	自ら学ぶ子 心豊かな子 たくましい子の育成	
	令和5年度取組概要・目標値	自己評価（成果・達成状況）	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
I STEMマインド	<b>■目標値</b> ・「授業が分かる」と回答した児童 95% ・「読書冊数 50 冊」 80% <b>■取組概要</b> ・ものの見方や考え方を豊かにする。表現する力の育成 ・「学びのプラン」継続発展による学習スキルの更なる向上 ・RPDCAを活用した授業研究の推進、教科指導の醸成 ・補足的な学習の時間の計画的な設定と、基礎・基本の定着 ・「タブレット」を活用した、家庭学習のスキルの向上 ・市図書館との連携、学校図書を活用した探究型学習の充実	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「授業が分かる」と回答した児童は90%であった。 ・中学年以上の児童で、読書数を年間50冊以上達成した割合は60%であった。 ・県学力診断のためのテストにおいては、県平均の正答率より5%以上(5.9%)上回った。根拠を基に筋道を立てて考える問題(算数科)の正答率は、県平均より12.3%上回ることができた。算数科においては、8.5%上回った。	○『守谷型ラーニングスタイル』の深化と協働学習の更なる充実を図る。 ・根拠を基に筋道を立てて考え、自分の考えを論理的に伝える学習場面を工夫する。 ・一人1台タブレット端末を、仲間と学び合う手段として一層活用し、主体的な学びを推進する。 ・デジタルツール(e ライブラリー、デジタルノート(Meta Moji)、ドリル帳のアプリなど)を活用した学習の振り返りや復習を継続的に行う。 ○読み聞かせボランティアやブックトークを継続するほか、学年文庫・学級文庫を活用する。	・タブレットを活用した学習は、楽しく取り組める反面、画面にずっと向き合ってしまう、読書や体験をする時間が減っている。楽しいことを見つけることが難しくなっている。 ・配慮が必要な子ども達は増えていることと思う。そうした児童への学習指導の仕方や接し方などについて、先生方に適切な研修を行い、一層学んで欲しい。
II ハートフォーヒューマン	<b>■目標値</b> ・「学校が楽しい」と回答した児童 95% ・「友達と協力したり優しく接したりする」90% <b>■取組概要</b> ・人間関係づくりの場の設定と居場所づくり・絆づくり ・「学びのプラン」(生活スキル)の確実な定着 ・いじめ問題対策本部機能の充実。いじめ防止・早期対応 ・基本的な生活習慣の確立、規則等遵守の徹底、挨拶の励行 ・けやき台中学校区における道徳教育の小中連携の推進、 ・自己有用感・道徳的判断力・実践力の向上	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「学校が楽しい」と回答した児童は88%であった。 ・「友達と協力したり優しく接したりする」と回答した児童は91%であった。 ・校内いじめ対策委員会において対応した案件について、昨年度からの継続案件2件はすべて解消した。本年度の新規案件7件のうち、4件は年度内に解消した。3件は継続して見守りを続けている。	○認め合う心を育む教育活動を実践する。 ・体験的な学習を取り入れ、道徳的実践力の育成を図る。 ・保護者面談の機会を設け、家庭との連携を図る。 ・スクールカウンセラーによる教育相談や教育支援センターの相談員、SSWによるアウトリーチ型支援を積極的に活用する。 ・「ほっかぽかプロジェクト」(思いやりをテーマとした全校での特別活動)を通して、思いやりの気持ちを育む心の教育を推進する。 ・子どもと家庭を結ぶ、『家守詩』の作成活動を継続・推進する。	・いじめがだめであると児童が「分かっているだろう」と思わず、何度も言葉かけを続けていく必要がある。 ・先生達が気付いていじめを防止したなどの良い対応事例も、先生方で共有すると良い。
III ヘルス&フィジカル	<b>■目標値</b> ・朝食を毎日食べている児童 95% ・「運動することが楽しい」と回答した児童 93% <b>■取組概要</b> ・体育授業及び体育的行事の充実、体力の向上(レインボータイム「遊ゆうタイム」、朝なわとび、ランニングタイム) ・学校内外における安全指導、保健指導の徹底 ○交通安全教室・避難訓練(引き渡しを含む)・防犯教室 ○学校内外事故の未然防止○薬物乱用防止教室の実施 ・栄養教諭を活用した健康増進の取組、望ましい食習慣の形成	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「朝食を毎日食べている」と回答した児童は96%であった。 ・「運動することが楽しい」と回答した児童は92%であった。 ・体力テストのA+Bの割合が47%で、昨年とほぼ同率であった。 ・学校外における、児童の交通事故発生数は0件であった。 ・むし歯のない児童の割合は62%で、昨年とほぼ同率であった。 ・食育の授業をきっかけに、朝食の大切さについて考えるようになった児童が増えた。	○体力の二極化傾向の是正に向けて、運動量の確保を図るとともに、個に応じた課題を提供し、「できる」喜びを味わわせ、運動の習慣化を図る。 ・昼休みに積極的に外遊び(遊具遊び、ボール遊び、一輪車等)ができるようにする。低学年には、遊具の正しい遊び方をしっかりと教える。 ・栄養教諭を活用した健康増進への取組を継続し、望ましい食習慣の形成を図る ・発達段階に応じた体力づくり運動のやり方について体育部会で話し合い、どの学年でも効果的な指導ができるようにする。	・視力が悪くなっている子どもが増えている。外国の政策(近視対策)なども参考になるのではないかな。外遊びを増やして日光を浴びることも効果的である。 ・眠いときは寝る、が大原則。眠りを何かで代用することはできない。早起きは早寝につながる。太陽の光を浴びると、体内時計がリセットされるという。
IV コミュニケーション	<b>■目標値</b> ・「英語活動が楽しい」と回答した児童 85% ・「タブレットを使った学習が楽しい」と回答した児童 90% <b>■取組概要</b> ・ICT 環境を活用したオンライン学習の推進、オンラインでの学校と家庭のデジタル連携(デジタル連絡帳の活用) ・「英語活動」「外国語活動」「外国語科」における外国語教育、国際教育の更なる推進 ・主体的に学びに向かう力を育み、自己実現を図るためのキャリアパスポートの活用 ・SNSによるトラブルゼロを目指した情報モラル教育の充実	<b>■達成状況</b> A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・「英語活動が楽しい」と回答した児童は87.5%であった。 ・「タブレットを使った学習が楽しい」と回答した児童は94.3%であった。 ・小学校で育てたい「聞く」「読む」力をつけた(英検 ESG テストの正解率80%以上達成)6年生の割合は97%であった。 ・ALTとの交流や活動が「楽しい」と感じている児童生徒の割合は89%であった。 ・プログラミング学習が「楽しい」と感じている児童の割合は88%であった。	○外国語への意欲・関心を高め、交流ができる素地を育てる。 ・市が提供する高学年での海外 ALT とのオンライン英会話の機会を活用し、「話す」ことへの意欲を高める。 ・英語を使った校内外での交流の機会を増やす。(他校等のオンライン交流など) ・チャレンジ検定プラン(英検)半額助成、外部資格試験受験の推奨を周知し、語学力向上の目標が持てるようにする。 ○守谷型 GIGA スクール構想を推進する。 ・学習成果物を『マイ・ミュージアム』で共有し、各自の学習成果を児童間で交流する場を充実させる。	・英会話が難しい、苦手と感じている子への対応。 ・同世代を含むネイティブスピーカーとの対話機会の充実。 ・個々のレベルに合わせた対応ができるような少人数指導。 ・知識量よりも、楽しいと感じられるような活動を充実して欲しい。 ・積極性や多様性を尊重する態度を育成して欲しい。
V インターネット	<b>■目標値</b> ・「ポータルサイト等による情報発信が充実」90% ・「学校の様子がよくわかる」と回答した保護者 90% <b>■取組概要</b> ・保護者や地域と連携した開かれた学校づくり ・適時の情報発信(学校 IP・保護者ポータルサイト) ・地域ボランティアとの連携による登下校時の児童の安全確保 ・学校教育の活性化(地域の人的資源の積極的な活用) ・保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の推進	<b>■達成状況</b> A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 <b>D 不十分</b> E できていない <b>■成果・取組結果</b> ・学校 HP の更新を、平均週 3~4 回行なった。 ・「学校ポータルサイトや学校 HP を通して、学校の様子が分かる。」と回答した保護者は61%であった。昨年比では、3.4%向上した。 ・学校ポータルサイトや学校 HP などの閲覧頻度が「毎月 1 回」以上と回答した保護者は55.3%であった。 ・登下校時に児童を見守る「やさしく見守り隊」の実働人数は4名であった。	○家庭や地域と連携した、開かれた学校づくりを推進する。 ・学校・学年・学級の教育活動に関する情報を、学年ポータルサイトで積極的に発信する。 ・学校内外、地域の人材を、各学年で計画的に活用する ・運動会、交通指導、セーフティーデーのほか、保護者による学校行事等への参加協力の場を広げる。	・スマートフォンを買い換えたときなどに、アカウントの再登録の方法が分からず困った。学校に聞いて対応した。 ・ポータルサイトが随時更新されているが、保護者の中には、メールで更新のお知らせがないとポータルを見ない保護者も多いと思う。

35号  
65  
議案  
頁数

35号66	学校名	守谷中学校	教育目標（組織目標）	○ 何事にも丁寧に取り組む学校 ○ 学びへの期待感、学びの成果が感じられる授業づくり ○ 一人ひとりの自己有用感を育む教育活動の推進	
令和5年度取組概要・目標値		自己評価（成果・達成状況）	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見	
I	楽	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業が「おもしろい(分かりやすい)」と考える生徒 90%</li> <li>ICT機器を活用したプロジェクト(課題解決)型授業の実施 100%</li> <li>ICT機器を活用した授業が「おもしろい」と考える生徒 90%</li> <li>家庭学習を毎日取り組んでいる生徒 90%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の知的好奇心を高め、学びの成果を感じることのできる「おもしろい」授業の工夫</li> <li>ICT機器(一人1台端末等)の活用による学習指導の充実</li> <li>各種テストの計画的な実施と、個に応じた補充指導の充実による基礎的・基本的な学習内容の定着</li> <li>家庭での学習習慣の確立と定着</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業が「おもしろい(分かりやすい)」 90.4%</li> <li>ICT機器を活用したプロジェクト(課題解決)型授業の実施 91.2%</li> <li>家庭学習を毎日取り組んでいる生徒 87.1%</li> </ul> <p>■成果・取組結果</p> <p>○「教科で育たすべき資質・能力を確実に育む授業づくり」を研究テーマに据え、次の3点を重点として授業改善に取り組むことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知的好奇心を高め、主体的な学びを促す学習課題の設定</li> <li>見通しをもち、試行錯誤や対話を通して課題解決を目指すことのできる単元構成、授業展開の工夫</li> <li>学びを深め、深めるためのICT機器(特に一人1台端末)の効果的な活用</li> </ul> <p>○各種テスト等による評価の適度フィードバックと、個に応じた学習指導の充実により、家庭での学習習慣の確立と定着が図られた。</p>	<p>○引き続き、生徒が主体的に学びに向かい、試行錯誤しながら粘り強く課題解決に取り組むことのできる「おもしろい」授業を展開し、学力向上につなげる。</p> <p>○生徒が「何を学ぶのか」「どのような力を身に付けるのか」を明確にし、「何を以て」「どのように学ぶのか」を選択し、自己調整できるように指導すること今後も大切にいく。</p> <p>○昨年度に引き続き、「読解力」「論理的思考力」の向上を目指した校内研修の成果と課題を全教職員で共有し、各教科等の授業改善に生かす。</p> <p>○一人1台端末に保元した学習記録(ログ)の蓄積を適切に評価し、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>○放課後や長期休業時の学習相談や個別指導を充実させるなど、家庭学習の進め方についての具体的な指導助言を通して、家庭学習の「質」を高める。</p>	<p>○授業改善に努めた生徒が目標値を超える数値として表れており、生徒の学力向上につながっていると考える。今後生徒が前回の取り組みが「おもしろい」授業の展開をお願したい。</p> <p>○ICT機器の効果的な活用を引き続き継続してほしい。また、家庭学習や個別の補充指導においてもアプリケーション等を積極的に活用し、基礎学力の確実な定着を目指してほしい。</p> <p>○家庭学習の習慣を定着させるため、各学年共にスケジュール帳での時間管理や学習ノートへの個別指導を継続している点が素晴らしい。今後も自主学習の質を高めるための指導の在り方を検討し、具体的に指導してほしい。</p>
II	ハート	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にはよいところがある」と思う生徒 70%</li> <li>「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒 80%</li> <li>友達とよく関わり合えている生徒 80%</li> <li>QUテスト学級生活満足度 70%</li> <li>県事業「みんながすすみたい」冊子の本年間30冊読破 25%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分も相手も大切に思うことのできる温かい学級、安心できる学校づくりの推進</li> <li>学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動等を通じた自己有用感の育成</li> <li>不登校生徒・保護者に対する組織的・継続的な支援</li> <li>学校生活アンケート(月1回)、教育相談、QUテスト(年1回)の実施等による多面的な生徒理解と課題への迅速な対応</li> <li>人権意識を高め、いじめ撲滅を図る態度を育成する「守谷中学校区いじめ0(ゼロ)重点週間」の実施</li> <li>豊かな心を育み、学習に向かう構えをつくる朝の読書活動の推進</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分に良いところがあると思う 78.5%</li> <li>人の役に立つ人間になりたい 94.9%</li> <li>QUテスト学級生活満足度 71.0% (3年:令和5年11月実施)</li> <li>県事業「みんながすすみたい」冊子の本年間30冊読破 15%</li> </ul> <p>■成果・取組結果</p> <p>○一人ひとりの良さや個性を認め合い、誰もが安心して過ごせることのできる支那的風土あふれる学級・学年経営を推進することができた。</p> <p>○生徒指導事案、不登校生徒に対し、生徒指導主事や児童生徒支援員教員を核として、SCやSSW、適応指導員、関係機関と連携し、組織的・継続的に生徒・保護者を支援することができた。</p> <p>○「守谷中学校区いじめ0(ゼロ)重点週間」において、全学年共通テーマで道徳授業を実施した。また、「守谷中学校区いきいきフォーラム」では、大野小・黒内小6年児童と本校1年生がSNSの上手な使い方や考えるための話し合いをオンラインで行い、言葉への意識を高めることができた。</p> <p>○朝の読書については、依然として読書量・質ともに個人差が見られる。</p>	<p>○学級活動や学校行事等において、生徒が部活動の企画・運営に主体的に関わる機会を充実させ、達成感や充実感を味わわせることで、自己肯定感、自己有用感を高める。</p> <p>○生徒指導事案、不登校生徒については、引き続き全教職員で情報共有を促しながら、生徒・保護者に丁寧に対応する。</p> <p>○「守谷中学校区いじめ0(ゼロ)重点週間」の成果を踏まえ、引き続き学校全体で支那的風土を醸成する。</p> <p>○「放課後いじめの根絶を目指す条例」に基づく定期的な調査による実態把握と、関係機関との連携を継続し、いじめの未然防止、早期発見に努める。</p> <p>○朝の読書については、従来の方法を見直し、学校司書と連携を依頼したり、読書の楽しさや意味のための各種イベント(今年度中止となった市主催「ピリカオトル」や「本の指コンテスト」)への積極的な参加を促したりするなど、読書量・質の向上につながる手立てを講じる。</p>	<p>○いじめを早期に発見するアンケート調査と面談を継続的に実施することは大変重要である。毎月の生活アンケート(7/7/7)により、生徒が相談できる体制が整っている点が評価できる。</p> <p>○様々な問題が考えられるが、不登校生徒数が増加している傾向を憂慮している。学校行事や体験的活動の工夫・充実を通して、他者理解だけでなく、自分自身の良さや個性を自覚し、伸ばしていけるような指導をお願いしたい。</p> <p>○中学生向けの読書経験、読書習慣の確立と、生徒の今後の人生を豊かに彩るものとなる。学校司書と連携し、読書が好きになる、読書を習慣にする感覚を身に付けられるような取組に期待したい。</p>
III	ヘルス&フィジカル	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝食摂取率 95%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量を確保する保健体育科授業の工夫・充実と、部活動等への積極的参加を通じた体力・精神力の向上</li> <li>食に関する指導を通じた望ましい学習習慣の形成</li> <li>感染対策の正しい知識を身に付け、「ニューノーマル」に主体的に適応しようとする生徒の育成</li> <li>命を守る教育の充実(避難訓練、薬物乱用防止、性に関する教育、がん教育、AEDなど)</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度体力テストA+B 65.0%</li> <li>部活動に積極的に参加している 84.7%</li> <li>朝食摂取率 93.8%</li> </ul> <p>■成果・取組結果</p> <p>○T.Tによる効果的な保健体育科の授業や、運動の質的向上を目指した部活動指導により、運動量を確保し、体力等の向上を図ることができた。</p> <p>○栄養教諭を中心に、特別活動の授業や給食指導等において食育指導を進めることができた。</p> <p>○今年度命を守る教育についての講演会を参観型で行うことができた。養護教諭や保健主事が中心となって事前・事後指導に当たり、自己管理能力育成に努めることができた。</p>	<p>○保健体育科では「持久力アップチャレンジプラン」に取り組んでおり、縄跳び、シャトルラン(目標:男子90回、女子70回)、3分間走など体づくり運動を多く取り入れるとともに、効果的なウォーミングアップやトレーニングを継続的に実施している。</p> <p>○部活動指導をより計画的に進め、短時間で効果的な活動となるよう部活動指導の質の改善を図る。コーチングについての研修を実施する。</p> <p>○栄養教諭による食育指導を、家庭科や保健体育科、SDGsなども関連付け、教科横断的に展開する。</p> <p>○命を守る教育を実施する際、保護者参加を呼び掛け、家庭と連携して健康管理を進めることができるようになる。</p>	<p>○生徒の運動量の確保と体力向上を目指し、保健体育科授業の充実、部活動における外部指導者、コーチを含めた複数面指導による計画的・効果的な指導の継続をお願いしたい。</p> <p>○朝食摂取率が93.8%と高い傾向が見られた。食育(特に、朝食摂取の重要性)については、各家庭との連携もともにより、栄養教諭等と連携し、学級活動や保健体育科、家庭科等において継続して指導してほしい。</p>
IV	ニューシネ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みそあじ運動」を体験している生徒 80%</li> <li>英語検定3級の取得率(卒業時まで) 70%</li> <li>進路の目標や将来の夢がある生徒 70%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動を充実させ、自ら課題を見付け、解決する力を育成する。(「みそあじ運動」の展開)</li> <li>ALTとのやり取りによる生の英語に直接触れ、伝え合っ機会を確保し、オンライン英会話(オンラインでのマンツーマン英会話を活用した英語指導の充実を図り、英語でのコミュニケーションスキル、表現力を高める。</li> <li>職業体験学習など体験的な学習を通して、目標や夢を持って意欲的に生きる態度を育成する。</li> <li>全学年でデジタル・シティズンシップ教育に取り組み、情報活用能力と情報モラルへの意識を一層高められるようにする。</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みそあじ運動を実施している 84.7%</li> <li>英語検定3級の取得率 66.9% (内7/2級 1.6% 準2級 14.5% 3級 50.8%)</li> <li>進路の目標や将来の夢がある 67.9%</li> </ul> <p>■成果・取組結果</p> <p>○生徒会を中心とした「みそあじ運動」の目的の再確認と組織的な展開により、ルールやマナーを守り、生活しようとする規範意識の向上が見られた。</p> <p>○2名のALTを最大限に活用し、オールイングリッシュの授業を常時展開している。また、オンライン英会話やMoriya English Club等、英語指導の充実を図ることができた。</p> <p>○キャリア教育において、職業上前講座や職場体験等を実施し、生徒自身の進路の自己選択、自己決定につながることを図る。</p> <p>○情報モラルに係る指導を、各学年の実態に応じて段階的に実施することができた。</p>	<p>○折に触れて「みそあじ運動」の取組を振り返り、主体的に学校生活を見つめ直し、機会を設ける。併せて、学校外(公共の場)での規範意識の高揚を図る。</p> <p>○市の事業(ALTの複数配置、オンライン英会話等)を授業改善と結び付け、英語による表現力の向上へとつなげていく。</p> <p>○Moriya English Clubの活動(内容、回数等)を見直し、異文化理解や英会話に日常的に親しむ環境を整備する。</p> <p>○次年度もキャリア教育に関する体験活動(職場体験等)を、地域・関係機関の協力を仰ぎながら企画し、着実に実施していきたい。</p> <p>○関係機関との連携し、計画的に情報モラルに係る指導を確実に実施していく。</p>	<p>○今年度も地域の方々から「守中の生徒は気持ちよく挨拶をいっしょにしてくれる」との話を聞いている。校外での規範意識の向上のために、「みそあじ運動」の充実、継続をお願いしたい。</p> <p>○市オライオン杯では、本校1年生の英語表現力が大変驚いた。本日はALTの複数配置もともにより、オンライン英会話も導入され、普段の英語授業に生かせる英語に触れる環境が充実している。今後も授業改善を通じた全生徒の英語力向上に尽力してほしい。</p> <p>○第2学年において職場体験が実施できたことは、進路・職業選択に大きく役立つことと考える。今後も行政や地域を含めた関係者の協力を得ながら、充実させてほしい。</p>
V	パートナー	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPの毎日更新・月間アクセス数 1000以上、通言の発行</li> <li>守谷中学校区オンライン相互交流 年3回以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の活動の様子を積極的に地域・保護者に発信していく。</li> <li>保護者限定ポータルサイトの効果的な活用を通して、開かれた学校運営を図る。</li> <li>オンラインを活用した守谷中学校区児童生徒の相互交流の充実を図る。</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス数月平均:20,992件(令和6年1月現在)</li> <li>守谷中学校区オンライン相互交流:年5回以上</li> </ul> <p>■成果・取組結果</p> <p>○学校HPには、生徒の学校生活の様子を毎日、複数回更新している。</p> <p>○保護者ポータルサイトに学校からの各通言や地域の情報等を掲載し、情報発信することができた。</p> <p>○守谷中学校区において、「いじめ0(ゼロ)重点週間」の授業、「きらめきフォーラム」、「特別支援教育・交流教室」「中学校区説明会」などのオンライン相互交流を行った。</p>	<p>○学校HPについては、保護者・地域の方々がいづつでも、どこでも学校の様子を知らることができるよう、情報の読みやすさ、見やすさを工夫しながら今後も更新を重ねたい。</p> <p>○授業の様子や学校行事等について即時アップできるように、教職員間で連携し、生徒の様子をダイレクトに発信するよう努めた。</p> <p>○保護者限定ポータルサイトについては、HPとの使い分けを明確にし、掲載内容の精選や削除、レイアウトの変更を計画的に行い、スマホ化を図る。また、PTAページにおける内容の充実、担当役員と協力して進めていく。</p> <p>○引き続き、保護者ポータルサイトの活用による配付物(手紙、アンケート等)のペーパーレス化を進める。次年度も引き続き保護者の利用状況について調査していきたい。</p>	<p>○学校HPの更新が毎日まめにされており、学校・生徒の様子が手に取るように分かることと保護者・地域の方々が大変喜んでいる。今後も学校から保護者、地域への情報発信をお願いするともに、連携を深めていきたい。</p> <p>○学校HPの1日のアクセス数平均値を見ると、PTA会員数の倍以上であり、学校教育への関心の高さがうかがえる。</p> <p>○今後、学校は地域の方々とのコミュニティの場として考え、共に成長していくことが望ましい。</p> <p>○中学校区オンライン相互交流は、目標以上の実績と効果が達成できたと捉えている。</p>

学校名	愛宕中学校	教育目標（組織目標）	知性に富み 心豊かに たくましく生きる生徒の育成 —ETS【楽しさ・主体性・笑顔】のある個が生き、七色に輝く幸せな学校—
-----	-------	------------	--

	令和5年度取組概要・目標値	自己評価（成果・達成状況）	今後の課題と対応方向	外部の方々からいただいた意見
I インストラクショナルデザイン	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県学力診断のためのテスト各教科県平均 +10%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な学び（見通しと振り返りのある授業、学びの自律化）・対話的な学び（考えを広げ、深める授業、多様な視点の獲得・深い学び（思考力を高める授業、学びの探究化）の推進</li> <li>○一人1台端末を有効に活用した授業改善</li> <li>○守谷型ラーニングスタイル・守谷型グローバル教育・守谷型e-ポートフォリオ・UDの視点での学習環境・守谷型家庭学習・教材バンクの活用</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力診断のためのテストでは、県の平均比で、2年理科が目標を達成できた。県平均との比較では10%の目標に達成することは難しかった。</li> <li>・開校40周年記念式典でのオンラインで南極とつなぎ、交流を行う「南極教室」に向け、教科等横断的な学習を進めた。複数の教科で南極を主題として事前学習したことで、学校行事をきっかけに深い学びにつなげることができた。</li> <li>・「英語教師の授業デザイン力を高める3つの力：読解力・要約力・編集力」の著者中嶋洋一先生を講師に迎え、授業研究・校内研修を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒に身に付けさせたい学力をもとに、個別指導及び一斉指導とペア、グループなどの学び合いを効果的に位置付ける。</li> <li>・STEAM教育の研究を中心に、守谷型ラーニングスタイルの実践との視点での学習環境の整備を実施し、多様性のある生徒への個別最適な学びを保障する。</li> <li>・教員同士の研修や授業力の更なる向上を目指し、互いに授業相互参観等を行い、PDCAサイクルを生かした指導方法の工夫改善を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校フリースペースでは勉強している生徒はいるのか。不登校や教室へ行けなくなってしまった生徒への学習の保障について学校でぜひ考えてほしい。</li> </ul>
II ハートフルコミュニケーション	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活が楽しい」と感じる生徒の割合 100%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体となる学校行事、生徒会活動・委員会活動、根拠を明確にした生徒主体の校則改定</li> <li>○校内フリースペースの活用による不登校支援</li> <li>○いじめ不登校ゼロバックによる安全安心の確保</li> <li>○いじめをなくそう仲良し週間・情報モラル教育の充実・QUテスト・学校生活アンケート、いじめ対策本部機能の充実を図ったいじめ防止・早期対応と解決</li> <li>○多様な背景をもつ生徒への生徒指導の充実</li> <li>○学級経営を基盤とした対話を大切にした温かな人間関係の構築</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が楽しい 96%</li> <li>・自分には良いところがある 74%</li> <li>・人の役に立つ人間になりたい 96%</li> <li>・ランドデザインを生徒とともに作り上げ、生徒が主語の学校運営を行った。校則に関しても、生徒が主体となり校則検討委員会を立ち上げ、保護者、教職員とともに検討を重ねた。</li> <li>・生徒指導記録用フォームを全職員で活用し、授業中や部活動、様々な学校生活の場面で生徒の小さな変化を入力し、共有できるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分には良いところがある」という質問に対しての肯定的な回答率が74%と低い傾向が続いている。学校行事を通じて生徒の自己肯定感や自己有用感を育み、生徒の良好な人間関係作りを努めたり、「いじめをなくそうなかよし週間」で生徒会等の主体的な活動を推進したりすることで、自己肯定感の高い生徒を育成する。</li> <li>・QUテスト・学校生活アンケートの結果分析や、普段の生徒観察による情報を生かし、更に良好な人間関係づくりに努める。</li> <li>・校内フリースペースの活用により、不登校生徒出現率の減少を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒の数が急増し、若者の自殺も増えている。そのような心配のある生徒に個に応じた支援してほしい。</li> <li>・今後も、市総合教育支援センターやはばたき、小学校等と連携を取って、不登校や教室へ行けなくなってしまった生徒の理解や支援を継続してほしい。</li> <li>・生徒の挨拶に元気がないと感じている。</li> </ul>
III ヘルス&フィジカルトレーニング	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テスト(A+B) 65%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校保健委員会の活性化</li> <li>○運動部活動での走り込みの強化と昼休みの活用</li> <li>○縦断的対抗体育祭の活性化</li> <li>○守谷型カリマネを生かした部活動改革</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テスト(A+B)の結果は60.6%で、目標値に届かなかったが前年度より向上した。</li> <li>・保健委員会の生徒が主体となり、学校保健委員会で、出席者に健康に関するプレゼンテーションを行い、その動画を全校生徒も視聴することで健康への意識を高めることができた。</li> <li>・体育委員会の生徒が主体となり、昼休みの体育館、第2グラウンドを開放し、生徒が自由で外で体を動かせるように計画、管理を行った。</li> <li>・体育祭では男女別縦断的競技を実施し、学年を越えた結束を強めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの健康への意識を高め、各自が自分の体力を把握し、3年間を見通した取組が必要である。</li> <li>・部活動地域移行を、市スポーツ協会や生涯学習課、委託事業者と連携し、生徒にとって望ましい指導が受けられ、生涯学習の一環として、スポーツの「楽しさ」「喜び」を感じられるような段階的な運営を行う。</li> <li>・GTや養護教諭による健康教育を継続し、生涯にわたって健康の保持増進に努める態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体で様々な活動が行われていることが評価すべき点である。</li> <li>・部活動地域移行が進んでいるようだが、教職員は土・日は部活動の指導を行っていないのか。土・日に教職員が十分に休養を取ることができるのであれば大変良い取組である。</li> </ul>
IV デジタルネイティブ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学3年での英検3級取得率 60%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週金曜日の「English DAY」の実施とACE(英会話クラブ)、マンツーマンオンライン英会話によるコミュニケーション力の向上</li> <li>○ALTと英語科教員が効果的に連携する英語学習の充実</li> <li>○始業式・終業式での英語スピーチ</li> <li>○オンラインを効果的に活用した講演会「南極観測隊」や集会、各種アンケートの実施の実施</li> <li>○職場体験学習の充実</li> <li>○情報活用能力の育成と情報モラル教育の充実</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年生徒の英検3級以上の取得率は、76.8%と、目標値を大きく上回った。この結果は第1学年時から「英検3級以上を取得して中学校を卒業しよう」というゴールを設定して継続して呼び掛けていた成果だと考える。</li> <li>・文部科学省教育課程実証実験の実証校に選出され、生徒用デジタル教科書の活用やオンライン英会話活動の充実を図った。</li> <li>・学校全体での英語への積極的な取組により、高円宮杯英語弁論大会県大会で、代表の生徒が読売新聞社賞に輝いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語活動を学校の重点課題とし、英語力を高める取組を継続し、今後も言語運用能力の習得だけを目的とするのではなく、異なる文化や言語をもつ人々とのコミュニケーション活動について、生徒が主体的に学ぶ機会を設定していく。</li> <li>・ICT機器を活用し、自分の意見や考えを伝え合う活動を通して、思考力や表現力を高める。</li> <li>・情報発信の分かりやすさに関しては、学校評価保護者アンケートで「そう思う」と回答した保護者の割合が、前年度より下がってしまった。より分かりやすい情報発信の方法を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検取得率が目標値を大きく達成できたことが素晴らしい。1年生からの根気よい呼び掛けを行ったのが功を奏したのだと思う。保護者への告知などを積極的にメール配信等で行ったことが良かった。</li> <li>・生徒数の増加により、職場体験学習を受け入れるところが足りないのではないかと。</li> </ul>
V パートナーシップ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価保護者アンケート各項目「そう思う」と回答した保護者の割合 40%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教育力の活用</li> <li>○もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク</li> <li>○PTA本部役員・親の会との積極的な関わり</li> <li>○野鳥の森少年団活動の活性化</li> <li>○まっつやま保育園・ひかり幼稚園との積極的な交流(家庭科保育実習、夏祭り交流、職場体験等)</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価保護者アンケート15項目のうち、「そう思う」と回答した保護者の割合が、目標値の40%を上回ったのは4項目だったが、15項目中14項目が前年度の「そう思う」と回答した割合より数値が上回っていた。</li> <li>・家庭科の学習の一環として、保育園児と3年生との交流(保育実習)が行われ、他者への思いやりの心を醸成するとともに、園児に喜んでもらえたことで自己有用感が向上した。</li> <li>・PTA親の会が数年ぶりに活動を再開し、ソフトテニスコートの防風ネットの修繕を行い、部活動の活動場所の環境が向上した。</li> <li>・もりやスクールボランティアバンクのボランティアの方に樹木の刈込みや除草作業を依頼し、校内環境が整備された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1項目だけ前年度を下回った「HPや各種便りで学校での生徒の様子がよく分かる」という項目に対して、HPやポータルサイトのコンテンツを整理し、見やすく更新していく。</li> <li>・各種行事を通してPTA、親の会と連携することで、信頼関係を築いていく。</li> <li>・学区内の各種団体・施設・事業所等とも積極的に連携を図り、ボランティア活動、交流活動を実践し、地域に根ざした学校を作っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野鳥の森少年団が開かる守谷市観光協会の国土交通省からの受賞は素晴らしい。</li> <li>・野鳥の森にフクロウの巣箱を地域で設置した。理科室の窓から見える所に設置してある。まだ巣箱にフクロウは来ていないようだが、今後フクロウが来たらぜひ観察して欲しい。そして動物園への関心向上や自然愛護の心情を養ってほしい。</li> </ul>

35号  
 67  
 議案 頁数

35号 68

学校名		教育目標（組織目標）		〇関わる力・みつめる力・解決する力・創る力の関連付けによる御所ヶ丘中学校区キャリアプランの実現 〇働き方改革の推進	
令和5年度取組概要・目標値		自己評価（成果・達成状況）		今後の課題と対応方向	
35号 68	イ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かる」と考える生徒 90%以上</li> <li>計画的に家庭学習をしている生徒 70%以上</li> <li>全国学力・学習状況調査の正答率で全国比+5以上 100%</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を明確にした課題設定の工夫(追究型学習課題)</li> <li>振り返りの充実</li> <li>対話的で深い学びを意識した学び合いの工夫</li> <li>学校図書館を活用した探究型学習の推進</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 C 概ね達成 <b>D 不十分</b> E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業が分かる 89.5% →追究型学習課題や、生徒の考えを生かして生徒とつくる学習課題等、課題の設定を工夫したことで、授業に前向きに取り組み、理解が深まった。</li> <li>計画的に家庭学習をしている 67.8% →家庭学習の習慣化に二極化が見られる。</li> <li>全国学力・学習状況調査の正答率で全国比+5以上 →国語+0.2、数学-1、英語(話すこと含む)+5 →英語のみ達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査や県学力診断テストの分析を行い、日々の授業改善を行い、学力向上につなげる。また、キャリア教育の研究を生かし、生徒自身が追究型学習課題を設定し課題解決に取り組む、自らの課題を把握し必要な学習内容を考え家庭学習につなげる等、生徒が主体的に学ぶ力の育成を図る。</li> <li>授業の終わりの振り返りで、その時間の学習での気付きや日常生活や自分の将来と関連しそうなことは何かを継続して考えさせ、学ぶ意義を理解させ、学ぶ意欲を持たせる。</li> </ul>	<p>外部の方々からいただいた意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業の工夫」は個々にあるので、それを紹介し合ってより良くしてほしい。</li> <li>保護者と生徒のアンケート結果の乖離は、保護者に授業での取組や生徒の学びの様子伝わっていないからでは。それらが伝わると、教育活動がより効果的になるのでは。</li> <li>個人でこつこつとやるべき取組を盛り上げられるようにすると良いのでは。</li> </ul>
	ロ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校が楽しい」と感じる生徒 90%以上</li> <li>友人と仲良く生活している生徒 90%以上</li> <li>読書冊数で県教育長賞受賞の生徒 20%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央図書館と連携した学校図書館教育の充実</li> <li>いじめ防止のためのあいさつ運動やフォーラムの実施</li> <li>一人ひとりが自己有用感をもてる学校経営の充実</li> <li>不登校生徒へ向けて、チームで組織的なアプローチ</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 <b>B 達成</b> C 概ね達成 D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校が楽しい 93.8%、友人と仲良く生活している 97.8% →学校行事や日常生活の中で、級友に感謝を伝えたりお互いの良いところを伝え合う活動を、学級活動や常の会で計画的に取り、自己有用感や学級の所属感の向上に努めた。</li> <li>読書冊数で県教育長賞受賞 4.8% →図書委員会がイベントを企画したことで、図書室の利用者数が増えた。</li> <li>不登校生徒に対して、フリースペース(桔梗ルーム)を活用し、一人ひとりに合わせた支援を行った。また、不登校生徒支援加配教諭を中心に、関係機関や学級担任とチームで対応し、保護者や不登校生徒に寄り添った支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケートや普段の生徒観察や教育相談により、生徒の変化やサインを見逃さず、いじめの未然防止・早期発見に努める。</li> <li>学校行事等での体験活動、生徒主体の活動を充実させ、自己肯定感、自己有用感を高める。</li> <li>図書委員会企画のイベントの取組を継続する。</li> <li>生徒会役員や学年委員によるあいさつ運動を継続する。</li> <li>不登校生徒一人ひとりに対して、桔梗ルームの活用のほか、SCやSSW、各種関係機関と連携し、生徒や保護者に寄り添った支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校に関して、学校は家庭へ入り込むことが難しいので、それができる福祉とのつながりが大事である。</li> <li>様々なケースがあると思うが、状況の把握が大切である。</li> <li>(大学でも)保護者の過干渉が原因で起きている問題が出ている。家庭と学校の連携が難しいケースもある。</li> <li>小学校から中学校への引き継ぎを今後も続けてほしい。</li> </ul>
	ハ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト総合評価A+Bの生徒 65%以上</li> <li>健康で安全な生活を心掛けている生徒 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続して取り組む体づくり運動による体力の向上</li> <li>ニューノーマルな学校生活に基づいた自己管理能力の育成</li> <li>実効性のある危機管理体制の構築(危機回避能力を高める避難訓練・定期的な安全点検)</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト総合評価A+B 44.9% →D+Eも少なく、Cの生徒数が多かった。体育の授業では、全学年通年で「3秒ダッシュ」や「縄跳び」の補助運動を行った。</li> <li>健康で安全な生活を心掛けている 92.3% →保健委員会を中心に、生徒アンケートから健康課題を把握し、生徒への啓発活動を行った。</li> <li>「薬物乱用防止講演会」「性に関する講演会」「がん教育講演会」等を通して、健康意識の啓発を図ることができた。</li> <li>登校指導や下校時等パトロールを保護者と連携して1年間継続して行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業では、本校の課題に沿った「体力アップメニュー」を計画的・継続的に進め、生徒の基礎体力向上につなげ、A+Bの生徒の割合の増加を図る。</li> <li>養護教諭による健康教育や外部講師を招聘した各種講演会を継続するとともに、家庭科や保健体育科等の授業と連携し、健康意識の態度を育成する。</li> <li>実効性のある避難訓練、安全教育の充実により、生徒の危機回避能力を高める。</li> <li>自転車の自己点検の習慣化を図るとともに、自転車の安全な乗り方や交通マナー等について指導を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の影響や、環境、地域柄等も関わる内容である。</li> <li>何事も、継続が大切である。取り組み理由を伝え、納得させて取り組ませていくと良い。</li> </ul>
	ニ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や目標を持っている生徒A+Bの割合 65%以上</li> <li>「タブレットを活用した授業が楽しい」と感じる生徒 80%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来に夢や目標が持てる計画的な進路指導の実施(キャリア教育の充実)</li> <li>ニューノーマルな学びを未来につなげる「守谷型e-ポートフォリオ」の推進(作品をクラウド上で管理する「マイ・ミュージアム」)</li> <li>英語を用いてコミュニケーションを図る機会の充実</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や目標をもっている 63.8% →各教科において、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成を図った。また、各学年の発達段階に応じて、ゲストティーチャーを招聘した授業や進路に向けた指導を行った。</li> <li>タブレットを活用した授業が楽しいと感じる 88.9% →全教科において、iPadを活用し、調べる、まとめる活動やグループで個々の考えを共有し課題検討する活動等を行い、主体的な学びや深い学びにつながった。</li> <li>ALTとの授業での Small Talk の実施やスマホの活用等により、コミュニケーション能力の向上を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット・PCを日常的に活用できるようになっているので、より効果的な活用により、思考力や表現力等の向上、深い学びへの実現に努める。</li> <li>ALTをより効果的に活用し、コミュニケーション能力を高める授業改善を図り、英語への興味・関心を高めるとともに、英語で発信する力を育成する。</li> <li>生徒の社会的・職業的自立を目指した勤労観・職業観の育成にとどまらず、学校行事や授業をとおして身に付けるべき基礎的・汎用的能力を明確にしながら、キャリア教育を継続して推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの活用が素晴らしい。</li> <li>学習者用デジタル教科書が導入されていない教科書については、画像を活用できるように指導すると良いのではないかと。</li> </ul>
	ホ	<p>■目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校の情報が伝わってくる」と回答した保護者 90%以上</li> <li>「学校ポータルサイトを見ている」と回答した保護者 90%以上</li> </ul> <p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区コミュニティ・スクールの取組を活かした地域とともにある学校づくりの推進</li> <li>学校公開日での教育活動の周知とともに、HP・ポータルサイトの活用による情報発信の推進</li> <li>学校評価を活かした教育活動の改善</li> </ul>	<p>■達成状況</p> <p>A 十分達成 B 達成 <b>C 概ね達成</b> D 不十分 E できていない</p> <p>■成果・取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の情報が伝わってくる 89.2%、学校ポータルサイトを見ている 81.9% →学校HPを毎日更新し、学校ポータルサイトを通して学校からの配付文書の添付等、情報発信を積極的に行った。</li> <li>御所ヶ丘中学校区学校運営協議会(守谷市コミュニティ・スクール)を開催し、校区内の共通理解と共通実践(職場体験学習を通したキャリア教育支援、地域学校協働防災)に役立てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や保護者に向けて、学校HPを通して、学校生活や生徒の様子を広く発信することができた。学校ポータルサイトの内容や利用面での工夫改善、メールを含めた効果的な使い分け等により、充実した情報発信に努める。</li> <li>学校運営協議会を生かし地域学校協働活動を充実させる。</li> <li>学校が必要とする人的・物的資源を整理し、もりやコミュニティ・スクールボランティアを積極的に活用し、地域と連携し、生徒育成に努める。</li> <li>学校評価を生かして教育活動を改善し、学校や家庭・地域と連携した信頼ある学校づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良いと思う。</li> <li>コミュニティ・スクールの取組は、地域への周知ももっと進むと良いのでは。</li> </ul>



議案第36号

守谷市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルの改訂について

守谷市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルを別紙のとおり改訂する。

令和6年9月25日 提出  
守谷市教育委員会  
教育長 町田 香  
令和6年9月 日 原案 決

提案理由

本案は、学校給食センター運営委員会の答申を受け、食物アレルギーに関する正しい知識を保護者、学校、教育委員会などが共通認識することで事故を防止し、全ての児童生徒が安全で、楽しい学校生活を過ごすことを目的に、学校給食における食物アレルギー対応マニュアルを改訂するものです。

議案	頁数
36号	1

報告第11号

損害賠償額の決定及び和解について

このことについて、別紙資料に基づき、報告します。

令和6年9月25日 報告  
守谷市教育委員会  
教育長 町田 香

報告	頁数
11号	1

## 損害賠償額の決定及び和解について

1 事故発生日時

令和6年6月24日 午後0時10分頃

2 事故発生場所

守谷市御所ヶ丘五丁目15

3 相手方

阿部 託也 氏

守谷市松並2354番地の89

4 事故概要

上記日時、守谷市立御所ヶ丘小学校の駐車場脇に植樹している桜の木の太枝が朽ちてしまい、駐車していた乗用車付近に落下、接触しドアを損傷させた。

5 賠償の手続き

全国市長会学校災害賠償補償保険対象事故として申請し、地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条第1項の規定に基づき、市長の専決処分により、損害賠償額を決定して賠償金を支払い、和解した。

また、同法同条第2項の規定に基づき、令和6年守谷市議会12月定例会で報告する。

6 和解の内容

市が、本件事故に関する一切の賠償金として、金208,263円を相手方の指定口座に支払った。

報告	頁数
11号	2

報告第12号

学校給食センター運営委員会答申について

令和6年9月19日付け守教委発第 号にて学校給食センター運営委員会に諮問した件につきまして、同日付けで答申がありましたので、別紙のとおり報告します。

令和6年9月25日 報告  
守谷市教育委員会  
教育長 町田 香

報告	頁数
12号	1

報告第13号

令和6年守谷市議会9月定例会月議会について（教育委員会所管分）

- 1 議案第74号 令和6年度守谷市一般会計補正予算（第4号） P3～P22  
（教育委員会所管分）

議決日 令和6年9月18日

議決結果 原案 可決

- 2 受理番号第2号 教職員定数改善と義務教育費国補負担制度堅持のための  
政府予算に係る意見書採択を求める請願 P23

議決日 令和6年9月18日

議決結果 原案 採択

- 3 「市政に関する一般質問」について P24～P84

別紙のとおり

- 4 議案第62号 令和5年度守谷市一般会計歳入歳出決算認定  
別紙決算資料1, 2, 3

認定日 令和6年9月18日

結果 認定

- 5 報告第18号 専決処分事項の報告について P85～P86

報告日 令和6年9月18日

- 6 議案第80号 工事請負契約の締結について（教育委員会関連）P87～P90  
・令和6年度守谷市立けやき台中学校校舎改修建築工事

議決日 令和6年9月18日

議決結果 原案 可決

- 7 議案第81号 工事請負契約の締結について（教育委員会関連）P91～P94  
・令和6年度北守谷公民館改修建築工事

報告	頁数
13号	1

議決日 令和 6 年 9 月 1 8 日

議決結果 原案 可決

- 8 議案第 8 2 号 工事請負契約の締結について（教育委員会関連） P95 ~ P98  
・ 令和 6 年度北守谷公民館改修機械設備工事

議決日 令和 6 年 9 月 1 8 日

議決結果 原案 可決

令和 6 年 9 月 2 5 日 報告  
守 谷 市 教 育 委 員 会  
教 育 長 町 田 香

報 告	頁 数
1 3 号	2

13号	報 告
3	頁 数

議案第74号

令和6年度守谷市一般会計補正予算（第4号）

令和6年度守谷市の一般会計補正予算（第4号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ209,613千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ38,832,417千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

（継続費の補正）

第2条 継続費の追加は、「第2表 継続費補正」による。

（債務負担行為の補正）

第3条 債務負担行為の追加は、「第3表 債務負担行為補正」による。

（地方債の補正）

第4条 地方債の変更は、「第4表 地方債補正」による。

令和6年8月28日 提 出

守谷市長 松 丸 修 久

令和 年 月 日 原案 決

74号	議 案
1	頁 数